

令和6年度 障害者等による文化芸術活動推進事業 事例集



令和6年度

障害者等による
文化芸術活動推進事業
事例集



令和7年3月
文化庁

令和7年3月
文化庁

はじめに

文化庁では、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に基づく「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」や「文化芸術基本法」に基づく「文化芸術推進基本計画」を踏まえ、鑑賞や創造の機会の拡大や作品等の発表機会の確保など、文化芸術による共生社会の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進に取り組んでいます。令和5年度から第2期の計画期間が始まった両計画では、障害者等による幅広い文化芸術活動の推進や、障害の有無等にかかわらず誰もが文化芸術に親しみ、多様な活動に参加する機会の促進、地域における推進体制の構築に取り組むこととされています。

令和元年度から始まった「障害者等による文化芸術活動推進事業」では、両計画に基づく施策を国として着実に推進していくため、障害者等による文化芸術の鑑賞や創造機会の拡大、発表機会の確保に係る先導的・試行的な取組、支援人材の育成、文化芸術へのアクセスの改善・鑑賞サポート等、共生社会を推進するための様々な取組を、各団体等に委託し、実施しているところです。

こうした取組を進めることは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の改正による合理的配慮の提供の義務付け（令和6年施行）や、「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律（障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法）」（令和4年施行）の趣旨にも適うものです。

昨年度に引き続き、令和6年度の本事業における各団体等の皆様の創意工夫による取組の成果について、関係者間で共有し、更に各取組の改善に繋げていただくため、事例集としてとりまとめました。本事例集が、共生社会の実現に向けて、障害の有無等にかかわらず誰もが文化芸術に触れ、その豊かさを享受する活動が一層広がる一助となることを願っております。

文化庁参事官(生活文化創造担当)

参考

障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）
（令和5年3月策定）（計画期間：令和5年度～令和9年度）

URL https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/shogaisha_bunkageijutsu/1415475.html



01	『文化の扉を開こう!』～障害児等の文化体験活動と支援人材の育成～ 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	4	22	熊川宿若狭美術館を拠点として県内外に広げる芸術文化推進事業 特定非営利活動法人 若狭美&Bネット	46
02	宮城野区子ども舞台芸術祭フラットシアターフェスティバルvol.3開催事業「劇場からまちへ」 NPO法人アートワークショップすんぶちよ	6	23	文化創造の担い手としての医療的ケア児や多様な障害児者によるインクルーシブな芸術文化活動創造事業 医療法人社団オレンジ	48
03	日本⇄アジア太平洋 国際交流事業～認知症者・高齢者と介護者をつくる「アートのような、ケアのような《とつとつダンス》」 一般社団法人 torindo	8	24	「表現未満、プロジェクト」新しい価値を共創する～哲学・学び・アート・場づくり 特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ	50
04	国際芸術祭実施に向けてのろう者の芸術活動推進事業II～作品の製作・発信と国際交流～ 社会福祉法人トット基金 日本ろう者劇団	10	25	滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター 特別支援学校・特別支援学級へのオーダーメイド・アウトリーチ 国立大学法人滋賀大学	52
05	eラーニングプログラム「ミュージアム・アクセシビリティ基礎講座」 独立行政法人国立美術館	12	26	公立美術館のエコロジー：障害者等の文化芸術活動の可能性を拡張し、共生社会実現のための象徴空間のあり方を可視化する 一般社団法人HAPS	54
06	舞台手話通訳者の人材育成および実践普及、観劇サポート啓発 特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク	14	27	障がいのある児童や成人の身体的芸術活動(ブレイクダンス等)の創造と発表の機会を確保・充実させる取り組み 一般社団法人日本アダプテッドブレイキン協会	56
07	劇場・音楽堂等による共生社会実現のための人材養成講座 公益社団法人全国公立文化施設協会	16	28	くりかえしとつみかさね2 ～大阪府20世紀美術コレクションと現代作家たち～ 吉本興業株式会社	58
08	劇場・音楽堂等による文化芸術活動の推進に向けた取組状況の調査 公益社団法人 全国公立文化施設協会	18	29	鑑賞支援サービス 地域スモールモデル構築事業 一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構	60
09	バレエによるインクルージョン促進事業 公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団	20	30	日本センチュリー交響楽団 特別支援学校コンサート 公益財団法人日本センチュリー交響楽団	62
10	いつでも、だれでも、どこへでも「ミュージアム・アクセス・センター」モデル普及事業 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン	22	31	みんなでダンス in Ibaraki プロジェクト 「みんなでつくるダンス公演」～障害のある人もない人も一緒に踊ろう～ 公益財団法人茨木市文化振興財団	64
11	やってみようプロジェクト 公益社団法人日本劇団協議会	24	32	医療リハ施設や支援学校に訪問して身体的芸術活動の体験と発表の機会を提供し・充実させる活動 川村義肢株式会社	66
12	「社会と知的障がい者施設を演劇でつなぎ地域のプラットフォームをつくる事業」 一般社団法人日本演出者協会	26	33	「こんにちは、 ^{ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ} 共生社会」 特定非営利活動法人ダンスボックス	68
13	プロの音楽家を介したインクルーシブ体験と地域ネットワークの発展 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団	28	34	Art for Well-being 心身機能の変化に向きあう文化芸術活動の継続支援と社会連携 一般財団法人たんぼの家	70
14	障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座 一般社団法人 DRIFTERS INTERNATIONAL	30	35	戯曲表現が開く障がい者の表現と障がい理解＜プロ劇作家による伴走支援＞ 特定非営利活動法人 鳥の劇場	72
15	新国立劇場主催演劇公演等における観劇サポート 公益財団法人 新国立劇場運営財団	32	36	地域と共につくる島根インクルーシブシアター・プロジェクト2024 公益財団法人しまね文化振興財団	74
16	障害者等の文化芸術活動の推進体制の構築に関する業務 株式会社文化科学研究所	34	37	四国・中国・近畿ブロックの重度障害児者を対象とした芸術文化活動「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」 国立大学法人 愛媛大学	76
17	障害者等による文化芸術鑑賞の相談窓口、および鑑賞サポートの取組 Palabra 株式会社	36	38	わたしの幻聴幻覚プロジェクト NPO法人シアターネットワークえひめ	78
18	地域における障害児等による芸術家ワークショップへの参加を通じた包摂的社会環境づくりの推進 特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち	38	39	共生社会へチャレンジ IN FUKUOKA 特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡	80
19	アート+認知症 やさしい美術鑑賞プログラム 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	40	40	PDダンス®の普及事業 一般社団法人パラカダンス	82
20	過去と現在を結ぶ非-(言語/聴覚)メディアの可能性 探求型創造事業 公益財団法人現代人形劇センター	42	41	「ゆいまーるミュージックプロジェクト」 一般社団法人 琉球フィルハーモニック	84
21	精神障害当事者の経験に基づいたオリジナル演劇の公演及び地域を超えた交流、普及啓発活動 OUTBACKプロジェクト	44	42	音楽体験を通じた不登校児童生徒の社会的接点を作る音楽プログラムの開発と実践、及びその検証 一般社団法人 楽友協会おきなわ	86

『文化の扉を開こう!』 ～障害児等の文化体験活動と支援人材の育成～

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
所在地：北海道札幌市
団体 URL：https://koguyama.jp/
事業 URL：https://youtu.be/lj3W-FZSX8w

障害の有無に関わらず誰もが豊かな体験機会や舞台芸術を享受できる社会を目指し、多様性への理解につなげるための取り組みです。障害のある子どもたちの活動が主となる文化体験機会の拡充、支援学級単位での取組み、劇場へ足を運ぶことが困難な子どもたちに向けた鑑賞・体験プログラム、支援人材の育成、北海道では数少ない舞台手話通訳付き人形劇の巡回公演を企画し、北海道の子どもたちへ文化芸術を広げます。

本事業で実施した内容

舞台手話通訳付き人形劇巡回公演

開催日：①2024年8月29日、②9月23日、③2025年2月14日
[実施回数]全3回
場所・参加人数：①北海道札幌豊学校(100名)、②苫小牧市福祉ふれあいセンター(70名)、③北海道帯広豊学校(30名)
対象：幼児から高校生
参加費：無料

実施内容

聴覚障害を持つ子どもたちに向けた人形劇鑑賞会を実施。
[協力 舞夢サポーターズ、人形劇団]

パペットアートヴィレッジ(舞台表現プログラム)

開催日：2024年6月23日～2025年1月19日
[実施回数]全11回
場所：札幌市子ども人形劇場こぐま座・札幌市中島児童会館
対象：障害等を持つ子ども・障害を持つ子どもとともに表現活動をすることに興味のある小学生～高校生
参加人数：小学生～高校生 19名 発表公演観客数 177名(2st)
参加費：有料

実施内容

「共にあそぶ・共につくる」ことをテーマに、人形劇を中心に音楽やダンス、工作や絵画等子どもたちの「やってみたい!」を引き出す舞台表現プログラム。発表会では全員が表現者として舞台上に立ち一つの作品を創り上げました。
[ファシリテーター] 矢吹英孝(公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)
[スタッフ] 養護学校教諭、専門アーティスト、人形劇団、高校生、大学生

研修会

開催日：2024年8月22日
場所：札幌市子ども人形劇場こぐま座
対象：支援者・子どもに携わる方
参加人数：21名
参加費：有料

地域交流プログラム(①人形劇体験②人形浄瑠璃体験)

開催日：①2024年10月2日～12月12日 [実施回数]全10回
②6月21日・2月20日・2月25日 [実施回数]全3回
場所・対象：①札幌市立元町北小学校すぎの子学級4～6年生・16名
参加人数：発表会観客数40名 [協力 専門アーティスト、人形劇団]
②札幌市こどもの劇場やまびこ座18名、札幌市立北翔養護学校高等部20名、北海道真駒内養護学校中等部・高等部30名 [協力 さっぽろ人形浄瑠璃あしり座]
参加費：無料

実施内容

学校教育現場と連携し地域で活動をする劇団に所属する専門家を派遣する体験プログラム。①「海」をテーマに影絵づくりに取り組み、発表に向けたプロセスを通して仲間と協力しながら想像力、達成感を引き出す。②身体を動かすことが困難な子どもたちに向けて人形浄瑠璃人形や鳴り物等の日本の伝統芸能に触れる機会を創出。

『企画展示』BASH! BASH! BASH!

開催日：2024年12月17日～2025年1月27日
場所：札幌市中島児童会館・子ども人形劇場こぐま座資料室「MA・SO・BO」
対象：子ども～大人
参加人数：のべ1,000名
参加費：無料

実施内容

北海道内の福祉事業所による、障害の有無の境界を越えた表現者たちの作品を紹介。[協力 一般社団法人北海道ポータルレスアートサポート北海道「BASH」]

実施内容

特別支援教育が専門である小野寺基史氏(北海道教育大学教職大学院教授)をお招きし支援者のための勉強会を実施。

本事業で得られた成果

文化芸術に触れる機会の拡充

北海道では数少ない舞台手話通訳付き人形劇の巡回公演を企画し、学校教育現場や新たな団体の協力を得ることで、聴覚障害の子どもたちに向けても人形劇を鑑賞する機会を拡充しました。福祉センターでの開催では、障害の有無に関わらず多くの親子が共に観劇する機会となり、これまでの

聴覚障害者に対する意識や手話の手法を含めた作品に多くの感想が寄せられました。上演した劇団側においても、人々に文化を届ける意義や舞台手話通訳という演出を含め豊かな表現方法を追求する機会となりました。北海道では障害者の文化鑑賞、体験機会の場は足りていませんが、これらの

取り組みを広めることで、文化は特別なものではなく、すべての人の日常のそばにある当たり前のものとなることにつなげたいと考えています。



パペットアートヴィレッジ しっちゃかめっちゃカバレード



パペットアートヴィレッジ おたのしみ新年会(発表会)

ちいさなコミュニティの創出

『パペットアートヴィレッジ』というちいさなコミュニティを創りたいと考えました。誰もが創造者として参加でき、ちいさくても、皆がのびのび、生き生きとできる場所であり、楽しいこともあれば悔しいこともある、嬉しいこともあれば悲しいこともある、一人ひとりの個性が“ごちゃませ”になってぶつかり合い、それでいて最後にはみんなて笑い合える、そんな優しい空間を創っていきたくと思っています。子どもたちは自由で、毎日が私たちにとつ

での発見であり、ちいさなコミュニティが、子どもという『人間らしさ』によって形作られていく、自由で夢が広がっていく場所となっています。また、昨年参加した高校生が学校を卒業し今年スタッフとして関わりました。障害者の中には、余暇の過ごし方を自分で選択することが難しく生活範囲が限定されてしまう現状もあります。社会とのつながりを創出する場、普段の生活から一歩を踏み出せるコミュニティが存在することが重要です。



舞台手話付き人形劇巡回公演



地域交流プログラム 人形劇体験



地域交流プログラム 人形浄瑠璃体験

事業実施における工夫

これまでの取り組みからの発展

- 地域に開かれ人々が集う劇場だからこそ、市民の人材育成を根幹とし長年培ったノウハウ、ネットワークを生かし、あらたな事業展開に挑戦することができました。劇場で育成するさまざまな年代の劇団やアーティストの協力を得ることで、人形劇、音楽、ダンス、美術等子どもたちが多様な表現に出会うことができ、理解者、支援者が増えつつあります。また、大学生など若い世代を巻き込むことで持続可能な土壌作りを目指しています。
- 参加者の保護者にも、子どもの付き添いという立場ではなく準備を手伝ってもらう場面を作り、保護者間の交流機会を設けました。障害を持つ子育ての苦勞、社会的な偏見や誤解によって悩みを抱えている保護者も少なくありません。同じような状況に直面している保護者とのつながりをつくり、進学、就労等のヒント、悩みを共有することでストレスが和らぐ時間となったと感じます。

事業名	宮城野区子ども舞台芸術祭フラットシアターフェスティバルvol.3開催事業「劇場からまちへ」
団体名	NPO 法人アートワークショップすんぷちよ 所在地：宮城県仙台市 団体 URL：http://sun-pucho.com/ 事業 URL：http://sun-pucho.com/flatfes
事業概要	劇場での芸術鑑賞の様々なハードルを取り除き、「観客と劇場をフラットに繋ぐ」をコンセプトとした、宮城野区子ども舞台芸術祭フラットシアターフェスティバルvol.3(以下、芸術祭)を開催しました。障害の有無や年齢を問わず、多様な人々が舞台芸術鑑賞やワークショップの参加を通して感動を共有することで、交流を促しています。また2021年の初回より、公立文化施設及び、地域市民センターを管轄する社会教育セクターと共催することで、障害児者のアクセスコーディネートや、来館者に対する具体的な配慮などのノウハウを、芸術祭開催区内だけでなく、仙台市内の他地域までに広げることを目的に取り組んでいます。令和6年度は行政セクターに留まらず、新たに劇場周辺の商店会とコラボレーションすることで劇場周辺に住まう住民や商店にも芸術祭を知るきっかけをつくり、市民レベルでの共生社会醸成のための道筋を探ることに挑戦しました。

本事業で実施した内容

商店街でのオープニングセレモニー

開催日：2024年9月14日(土) 午前
場所：カッコウ公園(仙台市宮城野区)
対象：地域住民および芸術祭観客
参加人数：のべ100名

実施内容

劇場近隣の公園で、商店街組合や町内会と連携しオープニングセレモニーを開催。ポスター掲示や屋台出店など地域の協力体制を構築しました。出演者にはシルヴプレ(パントマイム)やラビー(ジャグリング)などが登場しました。



オープニング

市民センターで演劇ワークショップ&発表～「あなたと唯一のものがたり」をつくらう～

開催日：2024年9月7日(土)、9月14日(土)
場所：福室市民センター・宮城野区中央市民センター
対象：障害の有無を問わず小学4年生～18歳以下
参加人数：9月7日(土) 10名、9月14日(土) 8名

実施内容

芸術祭プレ企画として、市民センター職員と共同で演劇ワークショップを実施。障害のある人を対象にした企画開催に関する、参加のアクセシビリティノウハウを共有することを目的としました。



スタチュー

宮城野区子ども舞台芸術祭フラットシアターフェスティバルvol.3

開催日：2024年9月14日(土)、15日(日) 10時～16時
場所：宮城野区文化センター・中央市民センター
参加人数：のべ1,000名

実施内容

多彩な舞台芸術プログラムを展開。上演作品はダンス公演「まにまに」、人形劇「おしいれのぼうけん」、ベイビーシアター「かぜのうた」など。まっくらスタジオやダンポールパーティー、遊びの広場も併設され、幅広い年齢層が楽しめる内容となりました。



まにまに

鑑賞機会 創造機会 発表機会 作品評価 権利保護 販売支援 交流促進 相談体制 人材育成 情報収集 連携協力

本事業で得られた成果

劇場からまちへ、芸術祭を地域に根付かせていく一歩

3回目の開催となる今年は、今後の継続開催を目指し「地域との連携」を課題に取り組みました。商店街との連携では、アーティストのイラストと協賛店舗の情報を記載したトレーディングカードを作成し、観客に配布しました。トレーディングカードは観客とアーティストが交流するきっかけにもなり、店舗の情報を伝える手段ともなりました。協賛店舗の紹介にもなり、芸術祭開催にあたり一体感を生み出すことができました。

広報面では、商店街の協力により、各店舗や会場最寄り駅の陸前原ノ町駅構内にもポスターを掲示することができました。少しずつですが、周辺地域を巻き込む一歩を作ることができたことは成果となりました。この繋がりを絶やさず、回を重ねるたびに地域全体で障害のある人もない人も共に芸術祭を楽しむ関係づくりを醸成していきたいと思えます。



おしいれのぼうけん

アーティストと共に生まれる実験的な取り組み

「まっくらスタジオ」では、完全な暗闇を体験する2つのプログラムが実施されました。1つ目の「とにかくまっくら」では、全盲のアテンド役が案内する中、少人数グループの観客が暗闇の中で素材に触れたり音を聴いたりして感覚を研ぎ澄ませる体験を行い、全8回の予約枠はほぼ満席となるほど好評でした。参加者からは「日常とは異なる感覚を使った新鮮な体験」との感想が寄せられました。

2つ目は「よ・る」というオリジナル脚本の朗読プログラムで、宮城県出身の脚本家・村田青葉氏とのコラボにより実現。観客は1回4～5名の少人数制で、暗闇の中でマットや毛布を使い

リラックスした状態で役者の会話劇に耳を傾ける形式となっています。このプログラムは視覚障害者も参加できる演劇体験として企画され、制作チームと若手アーティストが試行錯誤を重ねながら作り上げました。例えば、観客を暗闇に入場させる際の演出とアクセシビリティの調整が課題となりました。

これらの取り組みは、障害のある人を含めた多様な観客に対応する新たな鑑賞体験を提供し、アーティストにとっても新たな挑戦の場となりました。また、障害者の鑑賞体験を生み出す人材育成にもつながる意義深い活動であることが分かりました。



演劇WS



大風制作

事業実施における工夫

ポイント

年1回の芸術祭開催を中心に、多様なセクターとのネットワークが広がっています。またその輪が回を重ねる毎に大きくなっていることが当団体主催で開催することの強みです。文化やプロジェクトの進め方が異なる組織や団体と協働するには、多くの調整や対話が必要になります。しかしそのプロセス自体が、共生社会という漠然とした目標を達成するためにはとても重要だと感じました。芸術祭開催という短期間での目標を共にすることで、現場レベルで起こる障害のある人を対象とした配慮や工夫について、共通言語を持ち、様々なセクターでの対応を考えることは、現場での対応だけでなく、それを支えるシステムや仕組み、ゆくゆくは市の条例や政策にも影響を及ぼすことができると感じています。

事業名	日本アジア太平洋 国際交流事業～認知症者・高齢者と介護者をつくる「アートのような、ケアのような《とつとつダンス》」
団体名	一般社団法人 torindo 所在地：埼玉県さいたま市 団体 URL：https://torindo.net/ 事業 URL：https://torindo.net/project/jp-my-totsu2/
事業概要	〈とつとつダンス〉はダンサー・振付家の砂連尾理と torindo が、認知症高齢者・障害者、介護者と共に行っているダンスワークショップです。現在までに16年間、350回以上開催しています。今年度はシンガポール、東京において、アーティスト育成に力を入れ、認知症者、介護者、医療従事者とのワークショップを通じたケアとダンスの可能性を探りました。マレーシアでは、国内初の試みとなったリゾートホテルにおける認知症者とその家族のためのリトリートに参加、高い評価を得ました。鹿児島では通所施設とホームホスピスにて滞在制作も行い、1月末には大阪でパフォーマンス公演、2月に東京で映像記録の上映会を実施しました。



本事業で実施した内容

東京での活動

開催日：2024年7月21日、8月7日、9月17日
場所：吉祥寺、新小平
対象：アーティスト、一般参加者、高齢者、介護者
参加人数：70名
参加費：無料

実施内容

①一般参加者向けワークショップ、②アーティスト向けワークショップ、③介護者向けワークショップ、④認知症高齢者、介護者とのワークショップ

シンガポールでの活動

開催日：2024年8月12日～18日
場所：アスパラス・アーツ・センター、Thye Hua Kwan Active Ageing Centre、Aliwal Arts Centre
対象：アーティスト、認知症高齢者、介護者、介護・医療関係者
参加人数：70名
参加費：無料

実施内容

①認知症高齢者、介護者とのワークショップ、②アーティストとのワークショップ、③関係者との振り返りレクチャー・ワークショップ

<とつとつダンス>2024年度活動報告

開催日：2025年1月25日、26日、2月15日、16日
場所：アートエリア B1(大阪中之島)、水性(東京都中野)
対象：一般参加者
参加人数：410名
参加費：2,500円

鹿児島での活動

開催日：2024年10月31日～11月3日
場所：ホームホスピスあんなあの家、妙行寺、LL さねかた
対象：認知症高齢者、介護施設職員、介護・医療関係者、一般参加者
参加人数：120名
参加費：無料

実施内容

①施設訪問、②認知症高齢者、介護者とのワークショップ③ミニパフォーマンス上演とレクチャー・ワークショップ



鹿児島での滞在制作

マレーシアでの活動

開催日：2025年1月4日～7日
場所：フラミンゴホテルペナン、バガン病院、ココナッツクラブ
対象：認知症高齢者、介護者、介護・医療関係者
参加人数：130名
参加費：無料

実施内容

①認知症高齢者、介護者とのワークショップ、③現地在住の日本人向けワークショップ



マレーシアでのワークショップ

本事業で得られた成果

アーティストと認知症者・高齢者、介護者による芸術文化活動を国内外に広く展開

これまで培ってきたスキルやノウハウをもとに、マレーシア・シンガポール・鹿児島などの認知症患者・高齢者と介護者とともにワークショップを行い、それをもとにしたパフォーマンス発表を行い、日本、マレーシア、シンガポールのそれぞれことなる背景をもつ認知症ケアについて理解を深めた。海外では、昨年に引き続きバガン病院高齢者ケアセンター(ペナン州)が主催する、マレーシアで初めての認知症者、

その家族や介護者のためのリトリートプログラムに参加し、2日間に渡るワークショップを実施したほか、シンガポールでも昨年とは異なるデイケアセンターで、5名のアーティストと協働してワークショップを行い、現地の福祉企業にPRを行う機会を得た。国内においては、鹿児島で昨年のリサーチに基づき、個性的な2施設において滞在制作を行い、一般参加者に向けパフォーマンスを発表することができた。



マレーシアでのワークショップ

<人材育成>としてアーティスト向けワークショップの段階的实施

人材育成の取組として、国内外でアーティスト向けのワークショップを段階的に行い育成につとめた。特に、シンガポールでは、認知症ケアとパフォーマンスアートに興味のあるアーティストから5名を選出し、研修を行ったうえで、ともに介護施設に通いワークショップを実施した。実施後はフィードバックを行い関係者とその成果を共有することができた。また東京でも初のアーティスト向けワークショップを実施。参加者の中から2名のアーティストを選出し、鹿児島や東京の福祉施設におけるワークショップに同行してもらった。この2名は、映画監督で車椅子ユーザーの石田智哉と共に、1月に大阪で行うパ

フォーマンス公演に出演してもらい、その稽古の過程で、これまで砂連尾理や2022年度から参加しているダンサー神村恵が積み重ねてきた体験と合わせて、認知症ケアにおけるアートの必要性への理解を深めている。今年度は国内外のアーティスト、認

知症高齢者、介護者と、時にオンラインや対面でのワークショップを通じ、その経験をパフォーマンスとして一般参加者と共有するひな形をつくることができた。日本発信の認知症ケアとダンスの文脈には、より一層の広がり期待される。



シンガポールのワークショップ①



シンガポールでのワークショップ②

事業実施における工夫

ポイント

①成果共有のための<活動報告>手法

活動を広く発信するために、活動報告を「パフォーマンス」と「記録映像上映会+トーク」の二つに分けて実施。「パフォーマンス」ではマレーシアの認知症者と介護者とともにオンラインワークショップの実演や出演者によるワークショップの「再現」を舞台上で行った。アーティストを媒介とし、現時点だけでなく、長年積みかかっていた認知症ケアとダンスの経験を参加者と共有できるよう工夫した。「記録映像上映会+トーク」では、映像で活動報告をすることに加え、オンラインでマレーシアのコーディネーターやシンガポールの参加アーティストとつなぎ、今後の展開についても共有した。

②ネットワーク形成による持続可能性

マレーシア、シンガポール、鹿児島と継続して事業を展開しているが、それぞれの文化や社会情勢の中で活躍する各地のコーディネーターに協力を依頼している。コーディネーターたちとは定期的にオンラインミーティングを行い、事業そのものの方向性や手法を話し合えるチームを形成してきた。ネットワークが機能することにより、継続的な活動が可能となった。

事業名	国際芸術祭実施に向けてのろう者の芸術活動推進事業II～作品の製作・発信と国際交流～
団体名	社会福祉法人トット基金 日本ろう者劇団 所在地：東京都品川区 団体URL：www.totto.or.jp 事業URL：www.totto.or.jp
事業概要	社会福祉法人トット基金は公益事業として「日本ろう者劇団」を運営し、聞こえる人も聞こえない人も共に楽しめる演劇創りに取り組んでいます。中でも理事長黒柳徹子の発案による手話狂言は、古典芸能の強靱さと手話の豊かな表現力を併せ持ち、これまで国内外で公演を重ねて多くの人に親しまれています。東京五輪において、障害の有無のみならず、国籍の違いを超えて誰もが楽しめる演劇として発信する予定でしたが、コロナ禍により海外からの観客誘致が中止となり、多言語字幕を付けての公演が叶いませんでした。 本事業において当法人では、2019年より5年間「国際ろう芸術祭実施に向けてのろう者の芸術活動推進事業」第一期として、演劇・映画・美術各分野におけるろう者の学びの場づくりをし、広く芸術活動を志するろう者を対象としたさまざまなワークショップ等を実施して、ろう者の芸術活動のすそ野拡大、レベルアップに努めてきました。今年度より本事業第二期として、質の高い作品製作と発信、国際交流を副題として活動を展開していきます。 その第一弾として2024年は、東京五輪において多言語発信が叶わなかった手話狂言を、「日本ろう者劇団欧州公演2024」として次期五輪の開催地となった演劇の都パリより発信、併せて本事業がめざす国際芸術祭のモデルとなる仏ランスのFestival Clin d'Oeil2024参加公演を実施しました。



本事業で得られた成果

国際手話狂言 パリで大喝采／手話狂言 パリ大笑い

読売新聞 2024年7月23日 文化面及び
同読売新聞 2024年7月19日 夕刊
 →今回の「日本ろう者劇団欧州公演2024」は、パリ五輪に時期を合わせて実施したのですが、パリ五輪開会式前日の7月23日に、読売新聞文化面全面に今回の公演についての記事が署名入りで掲載されました。記者は古典芸能の担当記者で、事前に稽古場を訪れ、取材を重ねたうえで執筆されたものです。
 またそれに先立つ7月9日には、五

輪取材のためフランス入りした同社のカメラマンが、7月6日の公演の様子を撮影し、「パリ大笑い」というホットな見出しで速報してくれました。
 この記事が書かれた背景には、2021年1月に手話狂言が、長年の公演活動を能楽界に認められ、法政大学能楽研究所より由緒ある「催花賞」を受賞、能楽会に手話狂言の足跡を残した経緯があります。
 今回、本事業において実施した手話狂言の海外公演では、これまでの劇団活動の集大成として、日本が誇る

古典芸能を、共生社会を具現する演劇として世界に発信できたことです。このことが本事業最大の成果です。



パリ・レクチャー・デモンストレーション

本事業で実施した内容

日本ろう者劇団欧州公演2024

開催日：2024年7月2日～2024年7月10日
 場所：○ランス市国立演劇センター(仏国ランス市)
 ○パリ日本文化会館(同パリ市)
 対象・定員・○ランス→世界各国から集まったろう者及びラン
 参加人数：ス市民/定員800名×2回/参加人数900名
 ○パリ→パリ及び近郊在住のフランス人、日本人、
 ろう者/定員300名×2回/参加人数400名
 参加費：有料

実施内容

- 手話狂言公演(演目「瓜盗人」「鶏聲」)→ランス・パリ
- レクチャー・デモンストレーション(手話狂言ワークショップ及び日仏ろう者のトークセッション)→パリ

手話で異文化をつなぐ 国際コミュニケーションサロンの創設

開催日：2024年10月～3月毎月第二水曜日
 場所：トット基金2Fサロン(東京都品川区)
 対象：日本手話を理解できるろう者及び健聴者

実施内容

「国際手話コミュニケーションサロン」を創設し、アメリカ手話、国際手話などさまざまな手話の違いを超えてコミュニケーション能力をつけるサロンです。また海外から国の違うろう者が日本を訪れる際、トット基金の本サロンに引き、国際交流の拠点として活用していきます。



Festival Clin d'Oeil 手話狂言舞台写真



パリ日本文化会館 2024 4月～7月プロシユア(見開き2頁)

手話狂言～国際交流の架け橋として～『をちこち』インタビュー特集

国際交流基金ウェブ誌「をちこち」黒柳徹子インタビュー
手話狂言の発案者黒柳徹子によるこれまでの活動、今後の抱負など。
 併せてFestival Clin d'Oeil 責任者 David de Keyzer 氏のインタビューも予定とのこと。

→今回の「日本ろう者劇団欧州公演2024」は、現地受入れ先のパリ日本文化会館及びFestival Clin d'Oeil とのとの共催の形で実施しました。フェスティバルのディレクター David de Keyzer 氏は、ろう当事者として手話による芸術活動をけん引する第一人

者です。2024年に実施した本事業は、2025年開催のデフリンピック東京大会につながる掛け橋となり、国際交流基金ウェブ誌において英語及び日本御で発信されることで海外への波及効果が期待できます。



Festival Clin d'Oeil プログラム



パリ日本文化会館 手話狂言舞台写真

事業実施における工夫

ポイント

手話狂言の海外公演はこれまでも多く、そのたびに現地のろう者と交流を重ねてきました。そのことも「国際ろう芸術祭」をめざすよりどころとなっています。今回公演を実施したランスのFestival Clin d'Oeil は、隔年開催の欧州屈指のろう者の国際芸術祭。ディレクターのDavid de Keyzer氏とも日本ろう者劇団は良好な絆を持ち、本年11月のデフリンピック東京大会に際しても招へいを予定しています。

事業名	eラーニングプログラム 「ミュージアム・アクセシビリティ基礎講座」
団体名	独立行政法人国立美術館 所在地：東京都千代田区 団体 URL：https://ncar.artmuseums.go.jp/ (国立アトリサーチセンターウェブサイト) 事業 URL：https://ncar.artmuseums.go.jp/events/d_and_i/accessibility/post2024-1449.html
事業概要	本事業は、あらゆる人が文化的な楽しみにアクセスできる機会を充実させることを目的に、ミュージアムにおけるアクセシビリティについて基礎的な知識が身につく講座です。アクセシビリティを進めるうえで重要なキーワード「合理的配慮」と「情報保障」を中心に、国内の美術館の事例を動画にまとめ、どこからでも参加できる、eラーニング式で受講できる仕組みにしました。独立行政法人国立美術館 国立アトリサーチセンターでは、日本の美術館等ミュージアムが現代の社会課題に対応できるよう、アクセシビリティの基盤を底上げする事業を実施してきました。本事業は、その活動を基に、より多くのミュージアム関係者に向けて障害者等に対する理解を深め、取組を行う意義を普及啓発していくことを趣旨としています。



本事業で得られた成果

「合理的配慮」「情報保障」について99%の理解度を達成

受講者は、毎回の講座番組を視聴後、各回の内容について理解度を測り、学びを定着させるためにリフレクションフォームに記入しました。毎回、約850~1,000件の回答があり、その中でも「合理的配慮」「情報保障」についての理解度を問う設問について、毎回99%以上の理解度を達成しました。受講者からは、「一回目、二回目、とても話が整理され、短時間にポイントを押さえて話してくださったので理解が進んだ」「講座配信の時間が30分というので、何度も繰り返して視聴し、理解を深めることができた」といったコメントが寄せられました。動画の内容だけでなく、適度な長さや見逃し配信など講座の仕組みにも高い評価をいただきました。また、「美術館の取り組みを知ることができ、自分事として捉えられる」「実践者や当事者の話が参考に

なり、多くの気づきがあった」「毎回すぐに実行したい内容で非常に参考になった」といった声もあり、全国の美術館における先駆的な取り組みを可視化し、事業推進に必要な理解や知見を深めることができたことが示されました。このような受講者の高い評価から、当事者の視点を反映させた学びが有益であったことが明確になり、本事業の目的達成に大きな成果をもたらしました。

ミュージアムにおける人権尊重に基づいた文化芸術へのアクセスに関する意識を高め、実践に繋げる

本事業では、「障害者等を含めたマイノリティがミュージアムにアクセスできる基盤を整備し、充実させる」ことを目的に掲げ、美術館側だけでなく、障害に関わる当事者の視点も積極的に取り入れました。障害に関わる当事者が出演し、具体的なエピソードや実態を映像化したことを通じて、合理的配慮や情報保障の必要性や意義について受講者が深く理解したという声が多数寄せられました。「芸術に関する基本的な権利は、全ての人々に等しく与えられている」という理解が広まり、「障害当事者の方から直接話を聞けることが非常に貴重で、障害者権利条約の考え方に照らしても理にかなっている」との感想が多くありました。また、アクセシビリティに対するポジティブなイメージを促進することを目指し、番組視聴後のフォーム設問「合理的配慮を

実践しようと思ったこと」に対して、毎回80%近くの回答を得ました。実践内容も多岐にわたり、個人的な実践から具体的な事業計画まで様々なアイデアが挙げられ、本講座が受講者にとってアクセシビリティを実践するための大きな動機付けとなったことが明らかとなりました。この成果は、本事業が求めていた、実際の変革を促すための意識変革が達成されたことを示しています。

本事業で実施した内容

eラーニング「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」講座番組の制作とオンライン配信

開催日：2024年10月17日~2025年2月28日 (隔週実施)
場所：オンライン(動画視聴URLをメールで配信)
対象：美術館、博物館、劇場等の文化施設関係者やアクセシビリティに興味がある方
登録人数：1,498名(定員なし)
参加費：無料

実施内容

ミュージアムにおけるアクセシビリティに関する講座を全7回(オリエンテーション含む8本)制作・配信。「理論」「事例」「まとめ」の3部構成で段階的に学べるようにしました。事例では先駆的な取り組みを行っている美術館の協力を得て、合理的配慮や情報保障の実際の対応をドラマやインタビューで再現。1週間の「見逃し配信」期間を設け、事後学習のサポートも行いました。視聴後に「リフレクションフォーム」を記入してもらい、学びを定着させました。

講座内容

- <理論>
- 第1回 ミュージアムにおける合理的配慮とは
- 第2回 ミュージアムにおける情報保障とは

- <事例>
- 第3回 目が見えない人・見えにくい人@滋賀県立美術館
- 第4回 耳が聞こえない人・聞こえにくい人@金沢21世紀美術館
- 第5回 車椅子利用者・ベビーカー利用者@東京都庭園美術館
- 第6回 初めての場所が苦手な人@東京都美術館

- <まとめ>
- 第7回 ミュージアムのアクセシビリティについて語り合う

「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」オンライン交流会

開催日：2024年10月17日、10月31日、11月14日、11月28日、12月12日、2025年1月9日(全6回)
場所：オンライン(Zoomウェビナー)
対象：上記「ふかふかTV」受講者
参加人数：全6回のべ1,729名

実施内容

講座番組のうち6回についてZoomで「オンライン交流会」を開催。30分の講座視聴後に「ふりかえりタイム」を設け、受講者の感想や疑問をゲスト2名と共に解説。リアクション機能で受講者の反応を受け取り、毎回約100件のコメントを受け、活発な議論が行われました。



滋賀県立美術館での撮影の様子



講座番組をZoomウェビナーで配信の様子 (画面右側に受講者からのリアクションが舞い飛ぶ)



「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」チラシ表面



東京都庭園美術館での撮影の様子



第4回のオンライン交流会の様子 (金沢21世紀美術館の出演者2名がゲストとして登壇)

事業実施における工夫

ポイント

国立アトリサーチセンターが企画・制作した刊行物『ミュージアムの事例(ケース)から知る!学ぶ!合理的配慮のハンドブック』が礎となって、本事業は企画されました。講座受講者全員の必読書として配布し、動画と合わせて立体的に学べるようにしました。先駆的な取り組みを実施している美術館との連携についても、国立アトリサーチセンターが日頃から全国のミュージアムの最新の動向などを注視し調査している知見を、共有する機会となりました。加えて、各番組の企画・構成と編集を担うディレクターとして映像作家を起用し、内容を充実させることができました。

事業名	舞台手話通訳者の人材育成および実践普及、観劇サポート啓発
団体名	特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク 所在地：東京都世田谷区 団体URL：http://ta-net.org/ 事業URL：http://ta-net.org/
事業概要	舞台手話通訳導入に関わる専門人材の育成や観劇サポート充実に向けた啓発を行い、聴覚障害者を取り巻く創造環境の整備に寄与する。 取組①モデル事業の実施 取組②舞台手話通訳のスキーム開発 取組③舞台手話通訳付き公演を希望する団体・アーティストの公募 取組④人材育成 取組⑤啓発（障害当事者が集まる大会での出展ならびにSNS、メルマガ、アクセシビリティサイトでの発信）



本事業で実施した内容

モデル事業の実施

開催日：2024年11月15日（金）19時～20時15分
場所：新潟市民芸術文化会館りゅうとびあ（新潟県新潟市）
参加人数：106名
参加費：500円



実施内容

舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇「メゾン」上演
関連事業として14日16時～17時に職員向け観劇サポートWS、15日15時30分～18時に一般向け観劇サポートWS開催

舞台手話通訳のスキーム開発

開催日：2024年9月14日（土）11時30分、18時30分
9月15日（日）11時30分、18時30分
場所：江原河畔劇場（兵庫県豊岡市）
対象：通常回小学4年生以上 / リラックス・パフォーマンスでは未就学児もOK

参加人数：各回150名、うち聴覚障害者17名
参加費：前売一般：2,500円、当日一般：3,000円、前売障害者割引：1,500円、当日障害者割引：2,000円

実施内容

芸術文化観光専門職大学と協働し豊岡演劇祭2024ディレクターズプログラム『銀河鉄道の夜』舞台手話通訳付き上演（青年団）
豊岡演劇祭「銀河鉄道の夜」
撮影：igaki photo studio
画像提供：豊岡演劇祭実行委員会



啓発

- 1) 第72回全国ろうあ者大会 in 和歌山にて出展（和歌山県和歌山市）2024年6月8日（土）～9日（日）参加者：2,450名
- 2) 第28回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 平和の都ひろしまにて出展（広島県広島市）2024年11月23日（土・祝）～24日（日）参加者：400名
- 3) SNS、メルマガ、アクセシビリティサイトでの発信 通年

本事業で得られた成果

観劇サポートの広がりモデルの提示

2024年は事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたを受け、これまでは小劇場において実施することが多かった観劇サポートを、一定以上の規模の団体でも実施する姿勢がみられたことは評価できる。一方で、台本をタブレット端末に入れて貸出を行い、これをもって「観劇サポートを実施」としているところもある。そういった安易な方向に流れないよう、舞台手話通訳・背景への字幕投映・オープンな音声ガイドをつけた作品を上演し、観劇サポートの1つのモデルとして提示している。

その際、劇場・外部関係者と丁寧なやりとりと進行スケジュールの共有、ワークショップ開催までをともに担う関係づくりを心がけ、外部や委託団体に丸投げするのではなく自分たちも一緒に考え、動くという体制を構築した。

観劇サポートはありとあらゆる場において行われるべきであるというモデルの提示

これを体現する場として芸術文化観光専門職大学とタイアップして豊岡演劇祭2024ディレクターズプログラムにて、商業演劇への舞台手話通訳の付与と、それに伴う受付対応の研修等、観劇環境の整備を支援した。

まだまだ発展途上ではある観劇サポートを、受益者となる聴覚障害当事者のみならず、多数の一般の観客も同じ作品で楽しむ機会を積極的に提供することにより、「作品に対する見方がより深まった」という声も聞かれるようになった。障害を持つ当事者のため、という枠を超えて1つの作品鑑賞手法としてその場にいる観客が享受することの重要性に劇場・劇団側が気づく機会を提供できた。



公募「タクフェス（サインネーム動画）」

舞台手話通訳者のブラッシュアップの機会づくり

舞台手話通訳は基本的に1名ないし2名で活動するのが常であるが、TA-netというハブを使って全国各地で活動する舞台手話通訳者が一堂に会してディスカッションならびにともに作品作りに関わる機会を作り、ネットワークの強化を図ることができた。



人材育成「大阪集合研修」



啓発「全難協広島大会（付箋）」

事業実施における工夫

障害当事者と対話しながら事業を進めることの重要性
この数年、観劇サポートは少しずつ進化してきており、特に令和6年は事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことを受け、観劇サポートに取り組む団体が増えてきているのは嬉しいことである。その一方で、観劇サポートを受ける当事者を置き去りにした配慮が進んでいる事例も見受けられる。TA-netは聴覚障害当事者を中心として設立し12年間活動してきた実績がある。相談対応や打ち合わせから、現地におけるコーディネーターにいたるまで、観劇サポートの知識がある手話通訳・文字支援を配置することで、事業をスムーズに進められている。それによって当事者の声を反映した、より当事者に寄りそう観劇サポートが提供できている。

「合理的配慮の提供」は一方向的に求める、与えられる関係性のものではなく、お互いに現状を見つめた上で、現在できること、将来的にできることを相互対話によって積み重ねていくものであるということをもつて実践している。

ポイント

劇場・音楽堂等による共生社会実現のための人材養成講座

公益社団法人全国公立文化施設協会

所在地：東京都中央区

団体 URL：https://www.zenkoubun.jp/

事業 URL：https://www.zenkoubun.jp/barrier_free/

劇場・音楽堂等の職員を対象に、障害者による文化芸術活動の推進に対する研修を行う。施設職員の経験値に応じた3つの段階(Step)に分け、段階に応じた研修を実施し、共生社会に対する意識の醸成と専門性をもった人材の育成を行う。これにより、劇場・音楽堂等において障害者が芸術文化活動に参加するための環境が整備されること、共生社会(障害者による文化芸術活動)を意図した取組が活性化することを目的とする。そして、劇場・音楽堂等が共生社会をはぐくむ場として機能し、障害者のウェルビーイングと地域の共生社会の実現に寄与することを目指す。

本事業で実施した内容

Step1 都道府県別研修会(6か所)

開催日：2024年11月19日～2025年2月6日

場所：①高知県研修会 高知県立県民文化ホール(高知市)
②東北研修会 コラッセふくしま(福島市)
③熊本研修会 宇土市民会館(宇土市)
④広島研修会 JMSアステールプラザ(広島市)
⑤三重研修会 三重県総合文化センター内三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」(津市)
⑥新潟研修会 新潟県民会館(新潟市)

対象：劇場・音楽堂等職員

定員・参加人数：①高知県 定員100名/参加人数40名
②東北 募集定員100名/参加人数62名
③熊本県 募集定員100名/参加人数34名
④広島県 募集定員100名/参加人数25名
⑤三重県 募集定員30名/参加人数57名
⑥新潟県 募集定員100名/参加人数39名

参加費：無料

実施内容

- 劇場・音楽堂等が共生社会の実現(障害者に向けた事業)を実施することの意義や政策に関する講義、合理的配慮に関する講義、ワークショップ
- 劇場・音楽堂等での取組事例の発表

Step1 合理的配慮に関するワークショップ

開催日：2024年10月3日

場所：神奈川県立青少年センター(横浜市)

対象：劇場・音楽堂等職員

定員・参加人数：募集定員30名/参加人数29名

参加費：無料

実施内容

- 合理的配慮に関する講義
- 参加者と障害者(肢体不自由、聴覚障害、視覚障害)と一緒に劇場内で模擬鑑賞、出演体験を行い、障がいのある方が劇場で楽しんでもらうためにどんな配慮が必要か課題を見つけ、改善策等をグループで話し合う。

Step2 初心者向け講座

開催日：2024年9月25日～11月12日(全5回)

場所：東京都中小企業会館 講堂(東京都中央区)及びオンライン
対象：劇場・音楽堂等の職員で、これまで障がいのある方を対象とした事業を実施したことがない方(主たる担当として実施をしたことがない方)、これから取り組もうとしている方

定員・参加人数：募集定員25名/参加人数29名

参加費：無料

実施内容

講義(4回)、ワークショップ(1回)

Step3 経験者向け講座

開催日：2024年9月13日～12月23日(全7回)

場所：東京都中小企業会館 講堂(東京都中央区)及びオンライン
対象：劇場・音楽堂等の職員で障がい者を対象とした鑑賞、創造、発表、交流事業等の事業を実施している方

定員・参加人数：募集定員12名/参加人数10名

参加費：無料

実施内容

講義(6回)、ワークショップ(1回)

※2025年1月22日成果発表会(オンライン)実施



高知県研修会

本事業で得られた成果

障がいのある方と対話を通し、合理的配慮を考える

障がいのある方に劇場・音楽堂等で、楽しんでいただくためにどのような課題があるのか、障がいのある方と鑑賞の模擬体験を実施し、合理的配慮の根幹である「建設的な対話」をしながら、どのようなことができるかを考えていただきました。「合理的配慮というわかりにくい概念に近づくことができたと思う」「障害者とひとく

くりにするのではなく、一人一人のお困りごとに対応できるよう建設的対話を心がけたい」「双方で最もよい対応策を考えることが大切」といった感想をいただき、対話の重要性を実感していただくことができました。加えて「施設内で共有したい」「自施設に持ち帰り検討したい」といった実際の行動へとつなげることができました。



合理的配慮に関するワークショップ(模擬体験)
撮影：加藤 甫

できることから始める。視野を広げる。

初心者向け講座、経験者向け講座では、昨年度に引き続き、オンライン講座と対面ワークショップを実施しました。初心者向け講座では、「まずはやってみる」「できるところからやってみる」という意見が多く聞かれ、事業の実施を促す講座となりました。また、ワークショップでは地理的に近い施設をグループとして話し合いの場を設けたことで、施設間のネットワーク化に向けた基盤を作ることができました。

経験者向け講座では、グループワークや講師、受講生間の対話の時間を多く設け、自ら考える構成としました。「普段自分一人で企画のことを考えていると徐々に視野が狭くなるが、誰かに相談することの重要性とその効果を再認識した」「自力で手探りで事業を作っていくので専門家の立場からのアドバイスは貴重」といった他の方とのディスカッションを通して新たな視点に気づき、事業のブラッシュアップにつなげることができました。



合理的配慮に関するワークショップ(グループワーク)
撮影：加藤 甫

地域の中核的なリーダーとなる人材を育成する

昨年度の受講生等を中心に、本年度は、都道府県別研修会の講師や、ファシリテーター等を依頼し、受講生から次のステップにつながる経験をしていただきました。講義を通し、自分

たちの活動の価値を広く伝えるとともに、人脈を広げる機会となりました。今後、地域の中核的な人材として育てていくことが期待できます。



初心者向け講座 ワークショップ

事業実施における工夫

ポイント

全国のネットワークを生かす

全国組織として、支部や都道府県の関係ネットワークを活用し、事業を実施しています。また、参加者間でも地域単位、全国単位でネットワークを形成し、今後の事業に生かしていくことが期待できます。

施設の現状の把握と必要なサポート(研修)を提供する

劇場・音楽堂等の中間支援組織として、当該事業に並行し、障がいのある方に向けた事業実施に関する個別の相談受付、専門家の紹介、ホームページでの情報公開などのサポート体制を取っています。施設と顔の見える関係を意識し、今後更にサポート体制をより充実させてゆきたいと考えています。

事業名	劇場・音楽堂等による文化芸術活動の推進に向けた取組状況の調査
団体名	公益社団法人 全国公立文化施設協会 所在地：東京都中央区 団体 URL：https://www.zenkoubun.jp/ 事業 URL：https://www.zenkoubun.jp/barrier_free/
事業概要	「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律(障害者文化芸術推進法)」及び「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画(第2期)」(令和5年3月策定)に基づき、障害者等による文化芸術活動の推進にむけた基礎資料とすることを目的に、劇場・音楽堂等の障害者等による文化芸術活動の取組状況について調査を行う。 また、調査を通じ、劇場・音楽堂等において障害者に対する文化芸術活動を実施する意義や合理的配慮の提供についての周知・啓発を行い、劇場・音楽堂等で実施される障害者に向けた文化芸術活動が活発化し、障害者の社会参加の機会の拡充と共生社会の実現に寄与することを目指す。



本事業で実施した内容

アンケート調査

調査期間: 令和6年8月15日～令和6年9月25日
対象: 全国の劇場・音楽堂等
国立施設 2,127施設
私立施設 227施設(抽出)
計 2,354施設

実施内容

劇場・音楽堂等での障害者の文化芸術活動に関する取組状況の把握

- 調査内容**
- 施設の基本情報
 - 政策(国の法律・制度、地方公共団体の文化政策)
 - 施設の対応(設備のバリアフリー・情報保障、障害者からの意見聴取、人材)
 - 障害者に配慮又は対象とした事業の取組状況(事業の実施の有無と実施内容、事業の広報・工夫)
 - 他の組織等との連携
 - まとめ(劇場・音楽堂等が障害者に配慮又は対象とした事業を実施することの意義、課題)

調査結果
送付数 2,354施設
(国立施設 2,127施設
私立施設 227施設)
回答数 1,439施設
(国立施設 1,351施設
私立施設 88施設)
回答率 61.1%
(国立施設 63.5%
私立施設 38.8%)

報告書の作成



報告書表紙

事例調査

調査期間: 令和6年8月23日～9月18日

実施内容

劇場・音楽堂等で実施されている障害者に向けた取組についてヒアリングを実施
調査件数 5件

【鑑賞】
「ワンコインコンサート“音楽の時間”」鑑賞支援サービスの取組とその後の展開
鶴岡市文化会館(荘銀タクト鶴岡)

【鑑賞・発表】
「誰でもコンサート～Over The Border～」ほか
和光市民文化センター

【創造・発表】
「みんなでダンス in Ibarakiプロジェクト」ほか
茨木市民総合センター(クリエイティブセンター)

【鑑賞】
宝塚歌劇のバリアフリーの取組
阪急電鉄株式会社(宝塚大劇場/宝塚パウホール/東京宝塚劇場)

【鑑賞・創造・人材育成】
島根インクルーシブシアター・プロジェクト(ダイバーシティいわみ)
公益財団法人しまね文化振興財団

本事業で得られた成果

障害者事業に関する取組状況、課題等の把握

全国の劇場・音楽堂等に障がいのある方に関する事業の実施状況、課題等についてアンケート調査を実施しました。令和2年度にも同様の調査を行っており、結果の比較も含め、進捗及びこれから更に推進をしていくための課題を検討しました。
あわせて、劇場・音楽堂等に対しアンケートに回答いただくことで、取組の意義を理解していただくとともに情報を得ていただくよう工夫をしました。

調査結果の概況
●「施設職員における法律・計画の周知状況」
「障害者による文化芸術活動の推

進に関する法律」が、平成30年6月に公布、施行されたことについて、職員間で「周知されている」と回答した施設は全体で53.5%。「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画(第2期)」が、令和5年3月に策定されたことについて、職員間で「周知されている」と回答した施設は全体で47.1%となり、令和2年度より周知が進んでいることが確認できました。
●「障害者に配慮又は対象とした事業の取組状況」
令和5(2023)年度までに、貸館以外の事業(主催・共催含む)で障害者に配慮又は対象とした事業を実施している施設は30.8%となり、取組件

数を含め、令和2年度調査より上昇していることが確認できました。また、自由記述でも今後「実施予定」「実施を検討している」という記述も複数あり、実施が更に進むことが期待できると思われます。
その一方で、実施に至れない理由として、人的負担、費用負担、連携の課題などがあげられています。特に回答者の凡そ半数を占める小規模施設(職員数10名以下の施設)では事業の実施率が低く、施設だけでは対応が難しいとの意見が複数みられました。他の施設や地域の団体など外部との連携体制を作るためのサポートが必要と思われます。

好事例から学ぶ一連携・体制づくり

障がいのある方を対象とした事業を実施している施設(5施設)の取組について、事業を始めたきっかけ、工夫している点、継続に向けての課題などヒアリングを行いました。ヒアリングでは、共通事項として以下のことが見られました。

①施設の体制づくり
今回ヒアリング調査を依頼した施設は、職員数も決して多くなく、限られた人材で事業を実施している施設です。そのような状況の中で、障がいのある方に対する事業を実施することの意義を施設全体で共有し、担当者以外の職員の協力が得られやすい環境が作られています。

②地元の団体等との継続的な連携
施設単体で実施をするのではなく、地域の資産を生かし、学校、福祉団体、アーティスト、住民など多様な方と連携し事業を実施していました。この連携は、複数年にわたり関係性をもち、互いに改善をしながら進められています。連携をする方たちも、施設側の事業に対し協力をするだけでなく、自分たちの他の活動への広がりを生むなどの波及効果も見られました。

ポイント

事業実施における工夫

令和2年度調査との比較検討
令和2年度調査で明らかとなった課題を含め、経年変化が図れるよう設問設計を組み立てました。特に課題については前回調査からも人材や資金、体制等の課題が明らかであったため、これらの課題に対し実施施設はどのような工夫をしているのか伺うようにしました。

事例調査
これまで複数年にわたり事例調査を実施してまいりました。その中で共通する事項、特に事業の継続に向けてのポイントなど共通点が見えてきました。また、今年度は民間施設も取りあげ、民間施設ならではのサービスとしての考えを伺うことができました。

事業名	バレエによるインクルージョン促進事業
団体名	公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団 所在地：東京都港区 団体 URL：https://www.sdballet.com/ 事業 URL：https://www.sdballet.com/rp/
事業概要	当団では、「リラックスパフォーマンス」による公演を実践しています。リラックスパフォーマンス(原語:Relaxed Performance)とは、自閉症やコミュニケーション障害、学習障害などにより通常の劇場環境になじむことが難しい人たちがその家族が、よりリラックスした環境で舞台鑑賞を楽しめるようにと英国で発祥した公演形態です。障害のある方のみを対象とするのではなく、「障害の有無にかかわらず皆で一緒に楽しむ」ことを趣旨としており、障害のある方やその家族に芸術鑑賞機会を提供するだけでなく、人々の多様性を認め合うインクルーシブな社会の実現にも寄与することが期待されています。



本事業で実施した内容

リラックスパフォーマンスの開催

開催日：2025年2月9日
場所：水戸市民会館 グロービスホール(茨城県水戸市)
対象：3歳以上
来場者数：1,002名
参加費：一般4,500円、子ども(3歳～高校生)2,000円

実施内容

世界中で愛されている童話「シンデレラ」のバレエを、リラックスパフォーマンスとして上演しました。リラックスパフォーマンスの開催は、茨城県では初の取り組みとなりました。障がいのある方から小さなお子様まで、幅広い層の方々にご来場いただき、普通のバレエ公演よりリラックスした雰囲気の中でバレエ鑑賞をお楽しみいただきました。



(c)Hasegawa Photo Pro.



(c)Kiyonori Hasegawa



(c)Kiyonori Hasegawa

ダンスワークショップの開催

開催日：2024年12月20日(水戸)
2025年2月20日(名古屋)
場所：茨城県立水戸特別支援学校(茨城県水戸市)
名古屋市立南特別支援学校(愛知県名古屋市)
対象：茨城県立水戸特別支援学校生徒、名古屋市立南特別支援学校生徒
参加人数：47名(水戸)、50名(名古屋)
参加費：無料

実施内容

特別支援学校の生徒を対象に、バレエ団振付家、ダンサーが講師を務めるダンスワークショップを開催しました。ピアノの伴奏にあわせてバレエの動きに挑戦し、表現することの楽しさを体験していただきました。名古屋市立南特別支援学校においては、初の試みとして、講師陣に軽度知的障害のあるダンサーを加えて実施しました。



ワークショップの様子

本事業で得られた成果

劇場での舞台鑑賞が難しかった人たちに本格的なバレエの鑑賞機会を提供

リラックスパフォーマンス公演への来場者数は約1,000名。多くの方に本格的なバレエ公演の鑑賞機会を提供しました。公演アンケートによると、来場者のうち「ご自身またはお連れ様の中に何らかの障害を抱えている方」の割合は12%。知的障害、身体障害、自閉症の順に多く、普段バレエ鑑賞にハードルを感じている方々にも参加いただくことができました。

障害のある人たちに芸術に触れる機会を提供

リラックスパフォーマンスの開催とトリーチ活動を行いました。参加者は、音楽に合わせた身体表現を通して、バレエを身近な芸術として体験していただきました。

障害のあるダンサーを講師に加えた新たなアウトリーチの形を実現

障害のある当事者を指導側に加え、的なハードルを下げ、芸術をより身近に感じていただけるよう工夫しました。

リラックスパフォーマンスという公演形態の認知度向上

前年度に引き続き、リラックスパフォーマンスの認知度向上を目指し、SNS広告をはじめとする積極的なPR活動を行いました。2017年度より本事業を通して実績を積み重ねてきたことで、外部からの公演依頼や問い合わせも増加しており、芸術界におけるリラックスパフォーマンスの普及に著実につながっていると感じています。



開演前に物語とマイム(手の動き)の解説 ©Hasegawa Photo Pro.

事業実施における工夫

- ① **リラックスパフォーマンスとしての工夫**
バレエを含む通常の舞台公演鑑賞に含まれる要素の多くが、自閉症や学習障害をもつ人々にとっては耐え難い困難を伴います。急な暗転や声を出してはいけないプレッシャーなど、不安を煽るものをできるだけ除外するために、下記を実施しています。
 - 事前の情報提供…お客様や付き添う家族の不安を取り除くために、当日のタイムスケジュールや劇場の様子、よくある質問等をまとめた特設サイトを制作。さらに公演の約3週間前には、公演プログラムとご家族・介助者のためのガイドをWEBサイトに公開しています。
 - 照明の調整…上演中も完全な暗転は避け、視覚への刺激を少なくしています。
 - 上演中の客席の出入りを可能に…通常のバレエ公演では開演したら客席とロビーの行き来が制限されているところ、自由な出入りを可能とし、無理なく個々人のペースで鑑賞を楽しめる環境を作っています。
 - 優先席、休憩エリアの設置…客席後方には「優先席」を設定し、自席での鑑賞が難しい方やドア近くの席を希望される方にお使いいただけます。またロビーには気分を休めることができる「休憩エリア」を設置。舞台の様子が見られるモニターも用意し、客席に座ることが困難な方もリラックスしながら鑑賞を継続できます。
 - 上演前にステージ上で解説…開演前に行うプレトークにて、リラックスパフォーマンス形態(上演中の出入り、照明についてなど)の説明を行い、安心して鑑賞をスタートできる環境づくりに努めています。
 - 車椅子席の設置
通常の鑑賞マナーを緩和した公演であることはチラシや特設サイトに明記し、リラックスパフォーマンスの趣旨の周知と障がいのある方を受け入れる雰囲気醸成に努めています。
- ② **演目の選定**
バレエを初めて鑑賞する観客、特に次代を担う子どもを多く惹きつけるために、誰もがストーリーを知っている「シンデレラ」を選択しました。愛らしい着ぐるみのキャラクターが登場する本作はバレエを初めて観る子どもたちにも適した演目で、上演前には解説もあるので安心してお楽しみいただけます。
- ③ **料金設定**
障がいのある家族のいる家庭にとっては、最後まで観ることができるかわからない公演のチケット購入は、無駄になるかもしれない消費であり、額が大きければ大きいほどリスクとなるものです。そのような心理的ハードルをできるだけ下げ、障がいのある人と一緒に「行ってみよう」と思えるような適正な価格を検討しました。

ポイント

事業名	いつでも、だれでも、どこへでも 「ミュージアム・アクセス・センター」モデル普及事業
団体名	特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 所在地：東京都港区 団体 URL：https://www.ableart.org/ 事業 URL：https://minmi.ableart.org/
事業概要	本事業では、障害のある人等がミュージアムを利用できる環境整備を目的に5カ年計画で進めています。令和6年度は、まず①相談対応窓口の運営と通じた鑑賞サポートの基盤を整備し、情報提供のみならず、必要に応じて専門家や障害のある有識者を紹介・派遣、また企画制作に協力。次に、伴走支援を行う「ミュージアム・アクセス・パートナー（以下、パートナー）」と、環境整備を推進する「ミュージアム・アクセス・コーディネーター（以下、コーディネーター）」とともに②アクセス改善や鑑賞サポートを実践し、③実践の共有と学習機会の提供、④専門家とともに評価指標とロジックモデルを検討、さらに⑤情報の収集と発信に力を入れました。



本事業で得られた成果

障害特性の拡大と、多様な参加者とともに進めるプログラムづくりの重要性を確認

本事業では、モデル普及として参加関係者の対象を拡大しつつ、関東・東北を中心に、長野・愛媛・鳥取など遠隔地も含めた18件のプログラムを企画制作あるいは企画協力として展開。のべ225名が協力・参加し、うち障害のある人はのべ104名です。そのなかには、視覚障害、聴覚障害、車椅子ユーザー、知的・精神障害をはじめ、さまざまな障害・感覚特性のある人が参画しました。川崎市の事例では、複数の障害あるコーディネーターとともに時間を過ごすことで、参加者自身が自らの固定概念に気づき、「自分で今できることは何か」を考え行動するなどの変化がありました。また、聴覚障害のあるコーディネーター自身にも

コミュニケーションの苦手意識を克服する機会となりました。実地的にミュージアム・アクセスを考えることは、「誰もが楽しめるミュージアム」を目指すだけでなく、多様な視点が交わり、新しい共感や気づきが生まれる機会であることを再確認しました。八王子市の事例では、聴覚障害のある子ども向け手話だけでなく、イラストや写真など視覚情報を多分に含んだ資料を作成、鑑賞時間を区切る工夫などを実施。しかし実際は、手話つきの読み聞かせは発達等他の障害のある人にも好評で思い思いに身体を動かし感情を表す姿が見られるなど、音声、手話、写真、イラスト、文字といった多様な手段を組み合わせ

たコミュニケーション方法が特定の障害種を超えて有効であることが確認できました。準備の段階では特定の障害に基づいた支援を考え工夫しましたが、実践より、障害種という切り口から鑑賞サポート方法を考えるだけでなく、その場で出会った参加者とともに楽しむためのプログラムづくりも重要になってくるでしょう。今後は、さらに範囲を広げ全国の文化施設と連携して実践を共有し、ミュージアム・アクセスの輪を広げていくとともに、形成したモデルを汎用化することで、より多くの人々が文化に触れられる環境づくりを進めていきます。

本事業で実施した内容

ミュージアムのボランティアを対象にしたミュージアム・アクセス・コーディネーターとの研修

開催日：2024年11月6日
場所：川崎市立日本民家園（神奈川県川崎市）
対象：川崎市立日本民家園ボランティア「炉端の会」、周辺地域の文化施設スタッフなど
参加人数：20名
協力者：川崎市立日本民家園学芸員1名、コーディネーター3名（聴覚障害／視覚障害／車椅子ユーザー）、パートナー1名、手話通訳者2名

実施内容

コーディネーターが川崎市立日本民家園ボランティア「炉端の会」のメンバーを対象に研修を行いました。ボランティア、コーディネーターと一緒に園内を巡りながら、施設のアクセスや楽しみ方、コミュニケーションの方法をともに検証しました。振り返りでは、ボランティアから気づきや新たなアイデアの共有がありました。



コーディネーターと民家園ボランティアの研修の様子
写真：TOKYOTENDERTABLE

地域の団体と連携した障害のある人とならない人のミュージアム体験

開催日：2024年10月27日
場所：八王子市夢美術館「かがくいひろしの世界展」（東京都八王子市）
対象：聴覚障害のある子どもとその家族、知的障害・自閉症・精神障害のある人、活動に関心のある人など
参加人数：20名
協力者：ミュージアム・アクセス・パートナー3名、支援団体「ほっとりんく」、市民団体「かてコト」

実施内容

地域の支援団体とみんなでミュージアムが連携し、障害のある人とならない人が交流して展示会を鑑賞する実践プログラムを行いました。当日は、展示会の鑑賞前手話と声による絵本『だるまさん』（かがくいひろし作、2008年出版、プロンズ新社）の読み聞かせを行い、鑑賞後は創作の時間を設けました。障害の有無や障害種別、年齢が異なる参加者同士が、ともに時間を過ごす中で、少しずつ交流を深め、楽しむ様子が見られました。



手話と声による絵本「だるまさん」の読み聞かせの様子
写真：ほっとりんく

交流と学びで広げるミュージアム・アクセスの可能性

上記実践とともに、オンラインにて学びの場を開催し、約20地域からのべ127名が参加・視聴しました。参加者が住む地域ならではの課題やアイデアが交換され、新たなつながりや視点が生まれました。コーディネーターやパートナーからの要望で実施した交

流会では、お互いの想いを気兼ねなく話す姿が多く見られ、自主的な連携を促進する新たなネットワーク形成に成功したといえます。また、ロジックモデルの策定では、「各地域に、人とミュージアムをつなげる中間支援団体が存在し、活発な活動が生まれる」という目指す姿を明確化。こうした取り組みを通じて、「みんみのような中間支援組織」が果たす役割を再確認しました。今後は、実践の場以外にも参加者が交流しやすい仕組みや、学び続けられる場を作り、さらなる展開を目指します。

事業実施における工夫

ポイント

本事業で重視しているのは、障害のある人等が主体となるアプローチや地域に根差した連携です。「ために」ではなく「ともに」考える姿勢を共有することで、個々人が新たな視点を発見し心理的なハードルを下げる事ができています。また、弊団体では、「広がり」「継続」「浸透」を意識し、負担を最小限に抑える工夫を行いました。あわせて、完璧を求めず、何事においても挑戦しながら課題を見つける柔軟な対応を心がけています。アクセス改善や鑑賞サポートの実践は単発の企画であることが多いですが、重要なのは継続した実践です。そのため、ミュージアム等が負担なく継続できるように、すでにあるプログラムや企画を土台に取り組んでいます。弊団体の強みは、障害福祉団体とのつながりです。強みを活かし障害者福祉協会とミュージアムの連携体制づくりに伴走することで、ある施設での実践がそこで継続するだけでなく、同地域の他施設へ普及・展開するなど連携拡大や波及効果につながっています。横断的な呼びかけや先行事例の収集・活用・提供は、新しい価値も創造しています。今後も、地域間ネットワークを増やし、持続可能なミュージアム・アクセスの発展を目指します。

事業名	やってみようプロジェクト
団体名	公益社団法人日本劇団協議会 所在地：東京都新宿区 団体URL：http://www.gekidankyo.or.jp/ 事業URL：https://gekidankyo.or.jp/service/yatte/
事業概要	様々な社会課題をもつ人々を対象に、演劇によるコミュニケーションワークショップを通して他者との繋がりを持ち、生き辛さを感じる事のない「共生社会の実現」を目指すのが当プロジェクトです。地域の劇場やNPO・福祉施設・教育機関などと連携し、多様な「社会包摂型プログラム」を展開しています。高齢者、不登校にある児童や青少年、在日外国人、支援学校の生徒、精神疾患をもつ方などを対象に秋田県から沖縄県まで10ワークショップにて、計114回実施しました。

本事業で実施した内容

やってみようプロジェクト

1都7県(秋田、栃木、埼玉、東京、愛知、兵庫、愛媛、沖縄)、10ワークショップ 計114回

避難所における共助を考えるワークショップ/沖縄

開催日：2024年11月26日・29日、12月9日・23日
2025年1月23日、2月28日

場所：沖縄県立中部農林高等学校・中部農林高等支援学校(うるま市)、沖縄中部療育医療センター(沖縄市)、那覇市立那覇小学校(那覇市)

参加人数：中部農林高等学校福祉科・農業科、高等支援学校の生徒、那覇市の地域住民、医療的ケア児家族のべ93名

参加費：無料

協働団体：TEAM SPOT JUNBLE、公立大学法人名城大学、NPO法人地域サポートわかさ、中部農林高等学校、沖縄中部療育医療センター

実施内容

- 避難所における共助を考える 3回
- 医療的ケアを要する在宅医療児とその家族の共助を考える 3回

避難所での助け合いのあり方、コミュニケーション方法について、避難所を想定した「シミュレーション演劇」の体感プログラムを実施。

- ① 避難所でトラブルになるケースをグループ毎に話し合い、そのシーンを創作
また、医療的ケア児とその家族が災害時に避難した際、避難生活においてのトラブルを名城大学の松下聖子教授監修のもと、具体的な医療機器の使用やケアのアドバイスをいただき、シーンを創作
- ② 各グループ毎にトラブルのケースを発表・相互鑑賞
- ③ トラブル事に、どのような回避方法があるか、クレームを言う人の抱えた問題・背景を考える互助・共助方法について意見を出し合う

からだであそぼう/東京

開催日：2024年7月3日、8月7日、9月18日、10月2日・15日・16日・20日、11月6日・13日、12月4日・18日・20日
2025年1月8日・15日・19日・22日・29日、2月5日、3月5日

場所：あきつる里 白十字ホーム、介護老人福祉施設はるびの郷(東京都東村山市)、東村山市内の高齢者ふれあい・いきいきサロン

参加人数：デイサービスを利用する認知症の高齢者、入居者、地域の独居の高齢者など のべ208名

参加費：無料

協働団体：劇団朋友、東村山市社会福祉協議会、社会福祉法人白十字会、社会福祉法人はるび

実施内容

普段あまり使わない身体を動かし、呼吸や言葉、記憶力を使ったプログラムで脳の活性化、楽観脳を刺激し、身体と言葉を使いながらコミュニケーションを深めるワークショップを実施しました。

- ① 声の発声練習、脳を刺激する退化予防の呼吸法
- ② 自己紹介を交えた他己紹介
- ③ 集中力や観察力を高めるリズム体操やペアワークのプログラム



「からだであそぼう(高齢者)」

鑑賞
機会創造
機会発表
機会作品
評価権利
保護販売
支援交流
促進相談
体制人材
育成情報
収集連携
協力

本事業で得られた成果

自分とは異なる考え、立場を知る

「避難所における共助の在り方を考えるワークショップ」では、今年度は「避難所の回」と「医療的ケア児の回」に分け、段階を踏んで助け合いのあり方、コミュニケーション方法を学べるようにしました。演劇ワークショップは「自分とは違う人になってみる」ということの体験から、自分とは異なる考え・立場を知ることができます。今回、医療的ケア児やその家族が避難してきた場合を想定し、どのようなトラブルや配慮が必要かを参加者に考えて演じてもらいました。トラブルのきっかけとなるクレームを言う人を「悪者」として捉えているような感想が当初多くあがりましたが、その人が避難所に集うことになった背景を問いただけると、「誰もが困り事を抱えている」可能性があることを考えるようになりました。また、参加者の高校生は「テレビの避難所の映像などを他人事のように感じて

いたが、これからは自分ごととして考えたい」と述べました。本ワークショップを通じて、自分に関わるべき問題として意識を持つ、という成果に繋がりました。

自立支援施設でのプログラムでは、引きこもりがちな若者が演劇をきっかけに他者と関わるようになり、自主的に台本を執筆、発表会に参加する等の変化が見られました。就労により参加が難しい場合でも、創作や支援という形でつながり続けられる居場所となっており「演劇と出会って自己肯定感を取り戻した」といった声も寄せられています。就職し観劇を趣味として、施設イベントで司会をするなど、社会参加へとつながる事例も見られました。また、保護者向けワークショップの実施によって、職員と家庭との連携も深まり、心理的な安心感や関係性の改善にもつながっています。

高齢者対象プログラムでは、認知症予防や生活の質の向上を目的に、地域福祉団体と協働で実施しました。参加者アンケートでは、約9割が「普段より体を動かした」と回答され、職員からは「不安が強く活動に参加しづらかった方が、安定して参加されていた」と報告されています。高齢者の孤立防止や介護予防、さらには地域包括ケアへの貢献も期待されています。

本事業を通じて「演劇を通じて他者とつながること」が、年齢や障害の有無、国籍の違いを越えて、人と人との対等に関わりあう機会を生み出し、社会的に孤立しがちな人々の参加を促すうえで、非常に効果的であるという結果を得ました。当プロジェクトが「誰かの居場所」となり、自己表現を通じて自信を持ち、他者を理解し、支え合う関係が育まれています。



やってみようプロジェクト
「避難所での共助の在り方を考えるWS」



「にほんごであそぼう(外国人)」



「シアターエデュケーション」

事業実施における工夫

事前の工夫

特別支援学校では、目的やプログラムの内容を学校側に理解していただくため、先生方だけで実際に行うプログラムを事前に実施。また、講師の自己紹介映像を作成し、事前に視聴してもらうことで、生徒が安心して参加できるよう配慮しました。

外国籍の方を対象とする場合は、生活環境、日本語習熟度を協働団体間で共有、使用する単語はあらかじめ各国の言葉に翻訳し、視覚的に理解しやすいピクトグラムを活用しました。

フィードバックの工夫

高齢者向けのプログラムでは、QOL 効果を測定するため、施設職員の協力を得て日常の変化を計測。子どもたちには主体的にフィードバックをもらうため、感想の記入を色塗りや問いかけ形式に変更しました。外国の方々にはボードにアンケート質問を掲示し、「YES」「NO」にシールを貼ってもらい、簡単に回答できるよう工夫しました。

ポイント

事業名	「社会と知的障がい者施設を演劇でつなぎ地域のプラットフォームをつくる事業」
団体名	一般社団法人日本演出者協会 所在地：東京都新宿区 団体 URL：https://www.jda.jp 事業 URL：https://www.jda.jp/seminar-ws/social-inclusion
事業概要	「楽しくつながるプロジェクト」は、2020年より「演劇で人と人、地域・社会と人をつなげる」ことを目標に活動をしています。 5年目の今年は「もっと飛び出す」をテーマワードに、3つの場所で4つの事業所(※)が楽しくつながることを目指し活動をしました。そして、広げてゆくための活動として、ファシリテーターを養成。さらに、アーティストたちの事例紹介、ネットワーク作り、情報や意見交換の場としてオンライン・シンポジウムを2回開催しました。 (※)3つの場所で4つの事業所・・・静岡県三島市「にじのかけ橋」、伊東市「すう」/大分県臼杵市「あらかし」/長崎県諫早市「きぼうの里」

本事業で実施した内容

あらかし 表現ワークショップ

開催日：2024年7月1日～8月7日(全3回)
場所：社会福祉法人みずほ厚生センター生活介護事業所「あらかし」(大分県臼杵市)
対象：「あらかし」の利用者
参加人数：26名
参加費：無料

実施内容

「あらかし」より、自分を自由に表現でき、他の人にも興味を持てるようになって欲しいという希望があり、即興(インプロ)をメインにワークショップを行いました。リズムダンスやボール回し、ジェスチャーを取り入れ、身体表現で他者に伝えるアクティビティを実施。参加者の人となりを引き出すために、事前に4つの質問をしました。

- ①生まれ育った町はどんなところ？
- ②一番楽しかった旅行は？
- ③今までで一番頑張ったことは？
- ④アニメや映画に出演できるならどんなものに出たいですか？

質問の答えや、好きな物の絵をテーマに、全員が即興演劇を行い、ジェスチャーで「地元の有名なものを伝えよう」にも取り組みました。職員の方も参加され、自分と他者を大切に、認め合う気持ちを育むことを目標としました。

諫早 演劇ワークショップ

開催日：2024年6月22日～8月31日(全6回)
場所：社会福祉法人 ことの海会 障がい者支援施設「きぼうの里」(長崎県諫早市)
対象：「きぼうの里」の利用者
参加人数：20名
参加費：無料

実施内容

「重度知的障害者施設入所者の生活の場に、演劇的要素のあるアートを持ち込み、働きかけてみる」をテーマに活動をしました。
実施施設である「きぼうの里」は、重度知的障害者の入所施設(障害区分平均5.6強度行動障害83%)です。言語のコミュニケーションが難しい方が多数いらっしゃるなかで、言葉に頼らない自己紹介を毎回行ってもらい、1対1で向き合う時間を大切にしました。また、参加者の好む音楽に合わせて、簡単な楽器で一緒に即興演奏、身体表現をするなど行いました。
寛ぎの場のホールでは、扮装をした講師が、入所者の皆さんを楽しませるでも、驚かすでもなく、ただ一緒に空間を過ごすというアートな働きかけをしました。レクリエーション的なものには積極的に参加しない入所者さんも巻き込んで実施しました。



あらかし 表現ワークショップ

鑑賞
機会創造
機会発表
機会作品
評価権利
保護販売
支援交流
促進相談
体制人材
育成情報
収集連携
協力

本事業で得られた成果

主体的に表現活動を楽しみ、自分のエピソードや好きな物が認められることでの自己肯定感の向上

2回目以降は徐々にリラックスして、積極的に取り組む方が増え、即興劇ではタイトルの内容が実現され、他者を認める空気も作ることができました。施設からは「普段は活動に参加しない方も、即興劇やリズムダンスを笑顔で表現され、一体感が生まれ、自然と拍手が起こった。利用者に表現活動を

楽しむ気持ちが醸成された。利用者の新しい一面が見え、職員にとっても発見の機会になった」と報告があり、普段の支援にも活かしてもらうことができました。他者と協働する体験を通して、共生の楽しさを知ることを目指していきたいと思ひます。



諫早 演劇ワークショップ

非言語コミュニケーションで繋がり合うことで、自分と他者を認め合う気持ちを育み、共生社会実現のための第1歩を感じ合う。

入所者の方が、毎回、心待ちにして楽しんでくださっているのを感じました。演劇的なアートの働きかけを通して、入所者どうしが楽しくつながることで、関わり合う時間を大切にすることができたと感じています。

また、職員も楽しんでくださいました。外国人技能実習生もおられ、日

本人・外国人・障がい者、演劇人と多様な人が、違っていることを認め合う、排除しない空間がそこにはありました。これこそが共生社会の縮図なのではないのだろうかと感じました。生活の場のなかにアートを取り入れるという試みを今後も継続・発展させたいと考えています。



楽しくつながるプロジェクト2024

事業実施における工夫

日本演出者協会の社会包摂部には、20年以上に渡って、障がいのある方、生きづらさを抱えた方、外国の方などを対象に創作やワークショップを行う演出家が所属しています。

また、障がい者施設に於いて職員として働く演出家が複数全国から集まっています。

更に、聴覚障がいのある演出家も複数所属しており、定期的に「手話勉強会」を行っています。

本事業では、講師に加えて社会包摂部の経験豊富な演出家との会議や派遣によって、アドバイスを行う取り組みを継続的に進めています。このことで、活動のスキルアップ、円滑なワークショップ運営、情報の共有、につなげています。

そして、施設職員のみなさんがファシリテートできるためのワークショップも行っています。

また、シンポジウムでは手話通訳を入れ、多様な方が参加できる工夫を行っています。共生社会に向けて活躍している演出家・ファシリテーターの活動紹介、そして、私たちのプロジェクトの活動報告を、映像をまじえて紹介することで、さらなる広がりに向けたネットワーク構築を目指しています。

プロの音楽家を介在したインクルーシブ体験と地域ネットワークの発展

公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団

所在地：東京都墨田区
団体URL：https://www.njp.or.jp

本事業は、新日本フィルのメンバーが特別支援学校や福祉施設などを訪問して音楽体験を届け、地域ネットワークを構築することを趣旨とします。これまで東京都内及び地方の特別支援学校および小中高等学校で活動をしてきましたが、今回はそれに加えて、視覚障害者、聴覚障害者に向けた活動も開始しました。

この活動を通じて奏者とスタッフが改めて音楽を届けることの原点を見つめなおし、継続的な経験積み上げと実施効果の検証、スキル向上のための研究活動の促進を目指します。

本事業で実施した内容

伊豆地域でのアウトリーチ

開催日：2024年6月13日(木)～6月14日(金)
場所：南伊豆町立南中学校体育館、南伊豆町立南伊豆東小学校
対象：南中学校、南伊豆東小学校 全校生徒
参加人数：合計約400名(計4回の授業を開催。1回あたり約100名が参加)
参加費：無料

実施内容

NPO法人豆游義塾が教育委員会と参加校の調整をされ、今回は東伊豆町、河津町、南伊豆町、下田市、西伊豆町の9校を訪問。毎年参加している学校では、生徒たちは楽器の知識が積み重なってきました。南伊豆町の2つの小学校では「鑑賞コーナー」と「体験コーナー」を通してオーボエについて学びました。「鑑賞コーナー」ではモーツァルト作曲オーボエ四重奏曲、シューマン作曲3つのロマンスなど本格クラシック曲について電子黒板を使った解説を受け、実演を聴きました。また、久石譲作曲の映画「千と千尋の神隠し」など馴染みのある楽曲も鑑賞しました。「体験コーナー」では加工されたストローが1本ずつ配布され、オーボエ・リード体験をしました。その上で、オーボエ奏者が目の前でリードを5分で作る「リード製作実況中継」を鑑賞。オーボエについて詳しく知ることができました。



演奏の様子

特別支援学校でのアウトリーチ

開催日：2024年6月17日(月)
場所：東京都立青島特別支援学校(東京都世田谷区)
対象：生徒さんたちと教職員
参加人数：1公演約50名×2回
参加費：無料

実施内容

弦楽四重奏(ヴァイオリン2名・ヴィオラ1名・チェロ1名)の4名で訪問し、50分のワークショップを2回開催。内容は「鑑賞コーナー」と「体験コーナー」の2つで構成されました。「鑑賞コーナー」では、モーツァルト、クライスラー、マスネなどによるクラシックの名曲を電子黒板を使った音楽史的な説明のあとにじっくりお聴きいただきました。また、派手な映画音楽の鑑賞で盛り上がりしました。「体験コーナー」ではヴァイオリンを体験。まず全員が鉛筆を使って弓の持ち方を練習。その後、希望者に本物のヴァイオリン体験をしていただきました。奏者4名が横について丁寧にサポートしました。音が鳴った瞬間の生徒さんたち頬の紅潮、嬉しそうな笑顔が忘れられません。



ヴァイオリン体験

本事業で得られた成果

楽器を知ると、音楽をより身近に立体的に受け入れられる。

本事業では、楽器体験、電子黒板を使ったわかりやすい解説を通して、音楽鑑賞をより立体的なものにする工夫をしています。

楽器体験では、鉛筆を使ったヴァイオリン弓体験、ストローを使ったオーボエやクラリネットの吹き口体験、ハーブやヴァイオリン、チェロの演奏体験を行いました。恐る恐る楽器を構えた生徒たちは、音が出ると、驚きと嬉しさが混ざった表情を見せてくれました。また、「オーボエのリードの製作」を見る体験はとても新鮮でした。

鑑賞体験では聴きこたえのあるクラシック作品を選曲。作品の背景を詳

しく話し、合間にクイズも交え、楽しく学んだうえで演奏をお聴きいただくと、楽器体験と丁寧な解説が助けとなって作品への親近感がわき、多くの生徒たちにとって音楽が「立体的な体験」として残った様子でした。

新日本フィルハーモニー交響楽団はクラシックのファンに対してのみならず、音楽にあまり馴染みのない方々も対象に各地でコンサートを開催しています。

今後は、この事業で得られたノウハウをオーケストラ公演にも活用し、子供から大人まで多くの方々にさらに音楽の魅力を立て体的に届けていきたいです。



ストローによるクラリネットマウスピース体験



オーボエリード製作実況中継

視覚障害者、聴覚障害者、中途難聴者に向け、第一歩を踏み出すことができた。

今期2つの新しい試みに挑戦することができました。①筑波技術大学の視覚障害・聴覚障害の学生向けのワークショップ。②特定非営利活動法人東京都中途失聴・難聴者協会の中途難聴者向けのワークショップです。

①視覚障害の方々には楽器を触っていただき、楽器の大きさや形の違いで音色が異なることを実感していただきました。聴覚障害の方々には音を視覚化するシステムを使い、音楽を視覚で体験していただきました。②中途難聴者の方々には人工内耳、補聴器、ヒアリング・ループなどのシステムを使ってお聴きいただきました。通常のコンサートの客席では

まだ実現困難です。

久しぶりに生演奏に触れた方々の感想を一部ご紹介します。「両耳補聴器装着でどのくらい聞き取れるのかと不安でしたが、心地よい音のシャワーを浴びたようです」「普通の人々が普通に経験していることを中途失聴者や難聴者でもどんどん挑戦していける社会づくりのために私もできることからコツコツやります」「補聴器を通した音だと不安がありましたが、トップクラスの演奏者の音は身体中に響き、YouTubeやスピーカーの音との違いに驚きました。久しぶりに音楽に満たされました」

今後、筑波技術大学や東京都中途失聴・難聴者協会とさらに協議、試行を重ねます。さらに多くの方々が音楽を楽しめる社会づくりの一助となれたらと切に思います。



特定非営利団体東京都中途失聴・難聴者協会でのワークショップ

事業実施における工夫

ポイント

音楽をより身近なものとして感じていただくため、トークでの言葉選びを工夫しています。例えば音楽の専門用語は一般的な言葉で補足、作曲家は奇跡の天才ではなく一人の人間として伝える、楽器の素材や製造方法を一般的な視点から掘り下げていく、などです。合間に3択クイズも挟み込み、笑いと共にわかりやすく親しみやすく知識をお届けします。

一方で、演奏曲目は聴きこたえのあるクラシック作品をメインに、真剣な演奏を届けます。リラックスして解説を聞き、真剣勝負の演奏を真剣にお聴きいただくことで、クラシック音楽のありのままの魅力が伝わると考えています。

障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座

一般社団法人 DRIFTERS INTERNATIONAL

所在地：東京都新宿区
団体 URL：http://drifters-intl.org/
事業 URL：https://theatreforall.net/projects/think_together/

劇場・文化施設のスタッフや制作者、アーティストなど舞台芸術企画者を主な対象として、福祉と芸術の領域を横断する担い手のネットワークを構築する人材育成講座。障害のある人との創作現場に必要な視点を学ぶ入門編と、芸術と福祉を通じた地域社会のあり方について学び企画を立案する企画実践編の2部門を開講。入門編は、全4回のオンライン講座とドキュメンタリー映画上映会を実施。企画実践編では、地域との関わりの中で障害のある人の表現活動に取り組む福祉施設や劇場の視察を行い、障害のある人との対話を深めながら企画提案を行いました。

本事業で実施した内容

入門編

障害当事者の創作現場や環境への配慮、舞台芸術と社会の関係について学ぶオンライン講座(全4回)と上映会。
参加費:全通し券:1,500円、1回券:500円

上映会

開催日:2024年9月27日
場所:神戸文化ホール 中ホール
上映作品:「旅する身体〜ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi〜」
バリアフリー日本語字幕、音声ガイド付
参加人数:84名(交流会参加24名)

オンライン講座

合理的配慮と舞台芸術の考え方

開催日:2024年8月27日
講師:飯野由里子(東京大学大学院 教育学研究科附属
バリアフリー教育開発研究センター 特任教授)
視聴人数:72名(予約数98名)

アートとケアの可能性を考える

開催日:2024年10月8日
講師:中村美亜(九州大学大学院 芸術工学研究院
教授)、ゲスト:アサダワタル(文化活動家)
視聴人数:78名(予約数135名)

福祉施設の実践

開催日:2024年10月22日
登壇:久保田翠(認定NPO法人クリエイティブサポ
ートレッツ 理事長)、樋口龍二(NPO法人まる代
表理事)、山口光(認定特定非営利活動法人ポ
パイ事務局・パフォーミングアーツ担当)
視聴人数:65名(予約数104名)

地域とつながる実践

開催日:2024年11月5日
登壇:恵志美奈子(世田谷パブリックシアター劇場部
学芸チーフ)、吉川剛史(穂の国とよはし芸術
劇場PLAT 事業制作部)、田澤瑞季(株式会社
precog / まるっとみんな映画祭 事務局)
視聴人数:51名(予約数100名)

企画実践編

舞台芸術の開かれ方や地域との繋がり方を視察研修
やグループワークを通じて学び、企画提案を行う。

参加費:15,000円(入門編の料金込、交通費補助
あり:上限40,000円)

対象:舞台芸術関係者(企画者、制作者、アーティスト等)
参加人数:応募数22名(定員15~20名)、受講者数18名
期間:2024年9月27日~2025年1月27日
視察研修:クリエイティブサポートレッツ(静岡県)、DANCE
BOX街歩きツアー(兵庫県)、工房まる(福岡県)
企画発表会:2025年1月27日(神戸市中央区センター)
監修者:長津結一郎、文(NPO法人DANCE BOX)
フィードバック:塚原悠也、岡部太郎



企画実践編 視察研修① 特定非営利法人クリエイティブサポートレッツ(静岡)



企画実践編 視察研修③ DANCE BOXと新長田の街歩きツアー まちあるきの様子
写真:阪下混成

本事業で得られた成果

芸術と福祉の双方に通じる基礎知識と問題意識の共有

入門編では、障害のある人を対象とした事業経験がない方でも参加しやすい内容として、障害福祉分野における芸術の社会的な価値や意義について学ぶオンライン講座を実施。参加者は、劇場職員、制作者、アーティスト、福祉施設職員、医療ケアスタッフ、作業療法士など、芸術と福祉の異なる専門性を持つ幅広い職種から集まりました。

講座では、障害のある人との創作活動や芸術活動を行ううえで必要な基礎知識を学ぶための専門家による

レクチャー、舞台芸術領域と福祉領域の実践者を招いた事例紹介とその背景にある考え方を聞く鼎談を行い、芸術と福祉に共通する課題について考える機会を提供しました。

また、講座内では、障害のある人の芸術活動を行ううえで必要な地域のつながり、地域や社会における芸術の役割についても、議論が行われました。このような知識と視点の共有を通じて、参加者は自身の専門分野を越えた新たな視点を得ることができました。



入門編 上映会 Mi-Mi-Bi メンバー紹介
写真:鈴木優



企画実践編 視察研修③ 工房まる(福岡) 研修後受講生ディスカッションの様子
写真:長末香織



企画実践編 視察研修③ 参加者の集合写真
写真:阪下混成

実践的な学びと舞台芸術と福祉を横断するネットワーキング

企画実践編には、劇場職員、制作者、俳優、福祉施設職員、社会福祉協議会職員、市議会議員、育児中の保護者、障害当事者など、全国から18名が参加しました。受講者同士が知見やネットワークを共有しながら企画提案を行うグループワークでは、視察やユーザーヒアリングを通じて障害のある人や支援者との対話を重視しました。これにより講座タイトルでもある「障害のある人と考える」とは何かを一人ひとりが探求し、自らの企画に当事

者性を持ち、具体性と実現性のある提案が生まれました。

講座で得た学びや視点は受講者の活動に活かされ、講座後も全国から集まった受講者、視察先、指導者など障害のある人の芸術活動の担い手のネットワークが広がっていくことが期待されます。このつながりを通じ、舞台芸術と福祉の横断的な取り組みが発展し、障害のある人々の表現の機会がさらに増えることが期待されます。

事業実施における工夫

受講者同士の学び合いの促進

オンライン講座では、「正解のない問い」を設定し、受講者が自分の専門領域と関連付けて学びを深める形式を採用しました。「アートとケアの共通点や相違点は?」や「福祉の場に芸術が関わる時に必要なことは?」といった問いを設定し、受講者同士がチャットで意見を交換できるようにしたことで、異なる背景を持つ参加者同士の学び合いが促進されました。

障害のある人との対話の機会の提供

企画実践編では、障害のある人へのヒアリングを通じてニーズを把握し、それを企画に反映することを重視しました。視察研修やオンラインヒアリングで受講者が障害当事者と直接対話し、得た情報を基に企画を検討しました。

地域社会におけるネットワーク作りのノウハウ共有

障害のある人の舞台芸術への参加を促すために、地域におけるネットワーキングが重要であると捉え、入門編・企画実践編ともに、地域との関わり方やネットワーク構築の方法を学ぶ機会を多く取り入れました。地域ごとの状況や課題に応じたアプローチを知ることで、受講者が自分の活動する地域に合ったネットワーキングの方法を模索しました。

新国立劇場主催演劇公演等における 観劇サポート

公益財団法人 新国立劇場運営財団

所在地：東京都渋谷区

団体URL：https://www.nntt.jac.go.jp/

事業URL：https://www.nntt.jac.go.jp/guide/accessibility/

新国立劇場主催の演劇公演にて、主として聴覚、視覚に障がいをお持ちのお客様へ向けて、舞台に関する情報保障としての各種サービスを無料で提供します。障がいの有無に関わらず、良質な舞台が楽しめる機会を広げることを目指します。チケットの購入、来場、観劇、帰宅に至る各段階にあるハードルを下げ、舞台鑑賞をトータルで支援することを目的とします。

本事業で実施した内容

視覚に障がいのある方向けの観劇サポート

開催日：①「ピロマン」：10月19日(土)、21日(月)、23日(水)
②「テーバイ」：11月17日(日)、19日(火)
③「白衛軍」：12月15日(日)、17日(火)
場所：新国立劇場小劇場、中劇場(東京都渋谷区)
対象：当該日の公演を鑑賞されるお客様
参加人数：合計81名(うち障がいをお持ちの方37名)
参加費：無料(別途公演チケットが必要)

実施内容

- ア) 公演前の舞台説明会の開催
実際に舞台上がって、本番で使用する大道具や小道具に触る体験をご提供
- イ) 「声のプログラム」、また点字版あらすじのご提供
- ウ) 触る模型の作成および模型を用いた舞台セットの解説
- エ) 劇の進行と同時に物語を理解できるリアルタイム音声解説
- オ) 最寄り駅改札口と劇場間の案内係による付添



視覚：舞台説明会①「触る模型」を使用している舞台・客席の説明

聴覚に障がいのある方向けの観劇サポート

開催日：①「ピロマン」：10月20日(日)、23日(水)
②「テーバイ」：11月16日(土)、19日(火)
③「白衛軍」：12月14日(土)、17日(火)
場所：新国立劇場小劇場、中劇場(東京都渋谷区)
対象：当該日の公演を鑑賞されるお客様
参加人数：合計36名(うち障がいをお持ちの方33名)
参加費：無料(別途公演チケットが必要)

実施内容

- ア) ポータブル字幕表示機貸出による、文字化したセリフ、音響情報の送付
- イ) 会場内の掲示および案内サインの強化
- ウ) 手話通訳、要約筆記者の配置
- エ) 手話、字幕入の宣伝動画作成
- オ) あらすじのご提供
- カ) 電子台本の貸出し



視覚：舞台説明会②舞台上での説明

本事業で得られた成果

情報保障としての観劇サポート ～舞台の本質を伝える努力～

観劇サポートの準備に際しては、「舞台の本質を伝える」ことに注力しました。障がいの有無にかかわらずお客様が舞台の核心に触れるよう、提供する情報の質を高める努力を重ねました。令和6年度は、数年ぶりに新型コロナウイルスの影響を受けることなく、年度当初からこの目標に集中することができました。

視覚障がい者向けサポートで提供した、舞台説明会、リアルタイム音声ガイド、声のプログラムについて、共通するのは「言葉で舞台を説明する」点です。どのサポートにおいても、説明の時間は限られるため、真に必要な事項を厳選し、的確に言語化することが最も重要です。「この場面で演出家が伝えたいことは何か」「この時、俳優は何を表現しているのか」といったアーティストの真意を把握するため、サポート担当者は稽古や本番を何度も見学し、プロデューサーらの制作関

係者に十分な取材を行い、必要に応じて演出家とも相談を重ねました。これらの作業を通じて本当に必要な情報を選択し、表現を磨きました。

舞台説明会で使用する「触る模型」は、(一社)舞台美術家協会に制作を依頼しました。専門家が舞台美術家に取材・打ち合わせを行った上で作成する模型は、演出家や舞台美術家の意図が十分に伝わる、非常に効果的に作り込まれたものでした。

聴覚障がい者向けのサポートとして提供したポータブル字幕機では、舞台を観ながら字幕を理解しやすくなることが、舞台の核心に迫る重要な要素です。舞台の進行に合わせて字幕が読めるよう、さまざまな工夫を行いました。今年度から、字幕を表示するデバイスを小型・軽量化し、手で持たなくてもデバイスを保持できるよう、椅子に取り付けられるホルダーも導入しました。文字量を減らすために役

名を略す、字幕をより直感的に理解できるように、文字の太さ、大きさ、色を工夫するなどの改良も行いました。

また、視覚・聴覚サポートの双方とも、本番前のリハーサルへ障がい当事者の皆さんに参加をお願いし、準備した内容にわかりにくい点はないか確認をいただきました。当事者の皆さんに意見をいただきブラッシュアップを行うことは、サポートの質を維持するために必須と感じています。



聴覚：ポータブル字幕機

より多くの人の理解を ～「触る模型」の展示～

より多くの方々に視覚障がい者の舞台観賞について知っていただくため、主催演劇公演のロビーにて、当該公演および過去の観劇サポートで制作した「触る模型」の展示を行いました。この展示では、来場者が自由に模型に触れ、触覚を通じて舞台を理解する体

験ができるよう配慮しました。また、実際の舞台写真と模型を並べて展示し、「触る模型」を制作する際の工夫を伝えました。この結果、観劇サポートや、障がいがあっても舞台を理解できることへの理解を広めることができました。



視覚：触る模型等の展示

事業実施における工夫

ポイント

観劇サポートをご利用いただくお客様を増やすための工夫にも力を入れています。過去にご利用いただいたお客様をリスト化し、公演ごとに電子メールで情報をお送りするのはもちろん、自治体が公開している障がい者支援施設にもチラシを送るなどして「障がいがあっても舞台を楽しめる」ことを広くご案内しています。



聴覚：サポート受付の様子

事業名

障害者等の文化芸術活動の推進体制の構築に関する業務

団体名

株式会社文化科学研究所
所在地：東京都渋谷区
団体URL：http://www.ifa.co.jp

事業概要

文部科学省及び厚生労働省では、障害者文化芸術推進法に基づく「第2期障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」を令和5年3月に策定しています。
本事業は、この基本計画に則り、計画等を策定し施策を推進している地方公共団体の具体的な事例についてヒアリング調査を行い、地域における計画等策定の経緯や策定に当たった課題、推進体制や推進状況などの実態を把握するものです。収集した事例については、主に地方公共団体を対象とした普及啓発・理解促進に役立てるため、まとめ資料を作成し、文化庁ウェブサイトにて公開します。
また、「第2期基本計画」の推進を図るために国が開催する有識者会議の事務局業務を行います。



本事業で得られた成果

地方公共団体の障害者の文化芸術推進計画策定時に参考となる事例の収集と公開用コンテンツ化

全国の各地域において、障害者がハードルなく文化芸術を鑑賞し、活動に参加し、作品を作り、それを発表していくにあたっては、地方公共団体側の効果的な支援が欠かせません。そのために必要なのが、障害者の文化芸術推進に関わる計画づくりと、その計画に則った推進体制の構築です。しかし、障害者の文化芸術推進についてのノウハウが必ずしも全ての地方公共団体に普及しているとは言い切れない部分があり、こうした計画づくりや推進体制の構築をどのように行っていいか見通しが持てないところも多いのが実態です。今回業務は、この点の改善を行うため、ノウハウ・知見不足で計画づくりや推進体制づくりに踏み切れない、あるいはうまく実施できていない地方公共団体に、その解決のヒントとなるわかりやすい事例を提供することを目的としています。

選び、実効性の高い計画・推進体制を作るためのポイントについてヒアリングを行い、事例にまとめました。また、事例ヒアリングの実施に先立ち、地方公共団体の障害者文化芸術推進に詳しい有識者に、ヒアリングのポイントなどについての意見を聴取しています。事例の主な内容は下記の通りです。

もともと文化芸術の担当部署と障害者福祉の担当部署が共同で事業をしていたことが背景となっています。特徴として計画策定にあたって障害者芸術文化支援センターや市内の障害者アート関係のNPO団体とともに障害者を含む市民向けワークショップを行ったことがあり、こうした丁寧な障害者・市民参画によって、障害者向けの「わかりやすい版」の開発や、中間支援団体向けの実効性の高い助成制度づくりなどの実績に繋がっています。

①都道府県事例「大分県障がい者計画(第2期)」

20年以上続いている障害者芸術の公募展での実績をもとに、福祉担当部署が中心に作成・実施している計画です。大分県の障害者芸術文化支援センターが実施のパートナーになっていて、常に障害者アートの現場の状況が把握できているため、障害者の方々の事情を踏まえた改訂が実施され、実効性の高い計画となっています。また支援センター側でも、計画は、現場の取組のよりどころとなっています。

③中核市事例「第3次宮崎市文化振興計画」

障害者文化芸術推進法やそれを取り入れた文化条例に加え、宮崎で実施された国民文化祭障害者芸術祭2020の経験を踏まえて策定された計画です。この結果、障害者アートのグッズ化による基金づくりなどの特徴的な施策が具体化されて成果を上げています。また、障害者の目線からの丁寧な施設のバリアフリー化も進められています。

②政令指定都市事例「仙台市文化芸術推進基本計画」

障害者文化芸術活動推進について、この目的を達成するため、今回は、規模別(都道府県、政令指定都市、中核市)に1つずつ、他の地方公共団体への参考となる計画づくりや推進体制づくりをしている地方公共団体を

障害者文化芸術活動推進有識者会議の円滑な開催

障害者文化芸術活動推進についての会議の開催支援を行います。会議実施にあたっては、全国からの出席が

できるようにウェブ会議を併用しつつ、そうした環境下でも、障害をもっておられる委員のコミュニケーションに不

自由が生じないよう、適切な情報支援を行いました。

本事業で実施した内容

計画策定と体制構築に関する地方公共団体へのヒアリング調査

仙台市文化芸術推進基本計画
実施日・場所：2024年10月29日～30日 仙台市
対象：1.仙台市(文化観光局文化振興課、福祉局障害福祉部障害企画課)
2.NPO法人エイブル・アート・ジャパン
3.NPO法人アートワークショップすんぷちよ

大分県障がい者計画(第2期)
実施日・場所：2024年11月26日、12月9日 大分県
対象：1.大分県(福祉保健部障害者社会参加推進室)、大分県障害者芸術文化支援センター
2.大分県(企画振興部芸術文化振興課)

宮崎市文化振興計画(改訂版)
実施日・場所：2024年12月18日 宮崎市
対象：1.宮崎市(地域振興部文化・市民活動課)、アートステーション どんこや(社会福祉法人ゆくり)
2.アーツカウンシルみやざき

実施内容

地域計画を策定した自治体の担当部署に、計画の内容、計画策定の契機・目的、策定の体制、策定における調査、策定の作業内容、策定による好影響や今後の課題などについてヒアリングを行いました。合わせて、連携する支援センターや障害者文化芸術活動を行うNPO団体にもヒアリングを行い、計画策定による好影響や自治体との連携の状況を聞き取りました。



ヒアリング調査 仙台市



ヒアリング調査 大分県



ヒアリング調査 宮崎市

障害者文化芸術活動推進有識者会議の事務局業務

開催日：2025年3月3日
場所：東京都台東区
対象：有識者会議構成員
参加人数：約20名

実施内容

障害者文化芸術活動推進有識者会議の会場設営、運営業務を行いました。



ヒアリング総括

事業実施における工夫

全体像を把握するため、計画の担当者だけでなく、関連部署や、事業実施において連携している文化芸術関係、障害者関係の団体など、複数の対象からのヒアリングを行いました。
また、ヒアリング対象の選定と質問項目の作成に際して、地方公共団体の文化芸術に関わる計画に豊富な知見を持つアドバイザーより事前に助言を受けました。

ポイント

障害者等による文化芸術鑑賞の相談窓口、および鑑賞サポートの取組

Palabra株式会社

所在地：東京都新宿区

団体 URL：http://palabra-i.co.jp/

事業 URL：https://udcast.net/feature/accessibility-support-center24/

障害者等に対する文化芸術活動の支援・拡充は、共生社会を目指すうえで欠かすことができない事案です。芸術的表現への参加もさることながら、文化芸術活動へのアクセスにおける情報格差の解消と、作品理解のための「鑑賞サポート」が必要です。しかし、障害当事者も私たちの社会全体も、まだこうした事業の認知度は低い状況であると言えます。本事業では、3年目となる鑑賞サポート相談窓口による当事者及び事業者支援と、その情報発信や同行鑑賞を通じて認知をすすめ、「合理的配慮」義務化導入後の課題を調査し、より理想的な「鑑賞サポート」を提案、障害者が気軽に文化芸術活動に参加する機会が拡充することを目的としています。

本事業で実施した内容

鑑賞サポート相談窓口

開催日：通年実施

対象：文化芸術鑑賞に困りごとをかかえる当事者、鑑賞サポート提供を検討する事業者

実施内容

東京・大阪の2か所において、障害者の文化芸術活動へのアクセスや情報保障について相談や必要に応じて支援する窓口として開設した相談窓口(UDCastサポートセンター)を継続。2024年4月～12月の相談件数は115件。相談者の内訳は、聴覚障害者が最も多く69%(79件)、視覚障害者が14%(16件)。事業者からの鑑賞サポート導入に関する相談が17%(20件)ありました。

また、情報取得が困難な視覚障害者の高齢者層の文化芸術鑑賞機会の拡充に向けての鑑賞支援事業では、2024年4月～12月で、クラシック音楽コンサート6公演6日、その他演劇・演芸・朗読・美術展26公演36日をサポート。総参加人数(同伴者含)は246名となりました。



イベント出展での出張鑑賞サポート相談窓口の様子

鑑賞サポートに関する調査(台本貸出に関する意識調査)

開催日：2024年12月

場所：オンライン

対象：聴覚障害者

参加人数：76名

実施内容

合理的配慮の義務化後、台本貸出を実施される舞台作品が増えてきました。そこで本事業ではアンケート調査を実施し、当事者の声を集めて発信しました。台本を読んで内容を理解するためには想定以上の時間がかかることや、字幕があるとより感動できることなど、具体的な声を集約することができました。結果は事業者へ向けた理想的な「鑑賞サポート」の提案に活用していきます。今年度ではこのあと、視覚障害者や事業者の声も調査・集約していきます。また、モデル事業で映画作品の鑑賞サポートを実施し、障害当事者ではない観客の声や、高齢者・英語話者の意見についても調査し、障害者の文化芸術活動に参加する機会の拡充に必要な課題の整理に努めます。

字幕タブレットの様子
© HARUKI Yoshiumi

本事業で得られた成果

「合理的配慮」義務化に際して当事者・事業者双方への中間支援

鑑賞サポート相談窓口としての全体の相談数は減少の傾向にありました。理由として、この2年で当事者に相談先の選定や問い合わせ方法についてアドバイスした結果、直接事業者に問い合わせる当事者が増えている状況がありました。一方で、直接事業者に要望した後に建設的対話ができ

なかった場合や、思うようなサポートの対応が得られなかった場合の調整役を求められるなど、相談内容に変化がみられました。

事業者も、合理的配慮の義務化により、具体的な実施に向けた検討をするようになり、相談というより業務としての発注を前提とした問い合わせ

が増えた状況でした。また、具体的なサポート内容についての相談を受け、当事者との「建設的対話」の困難さについて事業者から意見を寄せられたり、現場とお客窓口とのやり取りについて相談をうけるなど、専門性のある中間支援組織としての機能を求められ、その必要性を痛感した一年でした。

「建設的対話」実現に向けた当事者・事業者双方の声の収集と発信

上記で述べたように相談窓口には当事者・事業者双方の声が集まり、ひとつひとつの事例に対応はしているものの、同じような問題が様々な作品で起こっている状況です。たとえば、鑑賞サポートについて当事者が要望しそれを実現したとしても、すでにチケット発売がはじまっており対応公演に行くことができない、または、サポート実施の情報が当事者に届かない、といった事例も複数の作品で見られました。また、せっかくサービスを

実施しても、コミュニケーションの困難さや、一般客への周知が不十分で事業者の負担が増すという状況もありました。鑑賞サポートが後付けの対応であること、また、「建設的対話」が不十分で、お互いに残念な結果になる状況が多数見受けられました。

合理的配慮の義務化をとりあげたメディアに、令和4年度の本事業で実施した事業者に対する鑑賞サポートの調査結果が掲載される場面がありました。相談窓口の機能として、そこ

に集まるリアルな声の発信こそ重要と感じ、今年度は同行鑑賞による感想共有会と調査事業を積極的に行いました。鑑賞サポートの要望や困りごとは障害や状況、個人の趣味嗜好によってさまざまであり、100%の回答などない状況です。だからこそ、「建設的対話」の糸口となるような事例が広く一般に認知されることが必要です。この事業こそが双方の意見を集約し、発信することができる貴重な取り組みだと考えています。

「合理的配慮」のスタートBOOK作成

「合理的配慮」をより身近にわかりやすく知ってもらうにはどうすればよいか、関連団体や有識者の意見を参考にし、「合理的配慮」のスタートBOOKを作成しました。相談窓口の事例をもとに、多くの当事者に意見を

いただきながら文章を作成し、当事者団体である NPO 法人 DPI 日本会議に監修していただきました。本冊子を活用して周知につとめていきたいと考えています。



「合理的配慮」のスタートBOOK

事業実施における工夫

ポイント

弊社では、映画・演劇を中心にした字幕・音声ガイド制作などでのバリアフリー版作成にあたり、可能な限りモニター検討会を実施しています。これは、作品を提供する事業者・鑑賞する当事者・バリアフリー版の制作者の三者が一堂に会して、作品の字幕・音声ガイドについて意見交換をする会で、事業者と当事者双方の意見を聞き、落としどころを模索していく作業を日常的に行っています。このような、いわば「建設的対話」を繰り返すことで、双方の理解が進み、新しい気づきとなり、作品の新しい価値が生まれる場面に日頃から立ち会っています。「合理的配慮」の義務化という過渡期にあって、双方の声を聞く中間支援の役割を担っていければと思います。

地域における障害児等による芸術家ワークショップへの参加を通じた包摂的社会環境づくりの推進

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち
所在地：東京都豊島区
団体 URL：https://www.children-art.net

本事業では、様々な場で支援を必要とし生きづらさを抱える子どもたちが、障害の有無にかかわらず文化芸術に親しみ、感動する心や自他の表現を認める心を育みながら、人と人のつながりを生み出すことを目的にしました。文化芸術活動を通じた子どもの個性と能力の発揮及び社会参加の促進、多様な価値観の形成と包摂的環境づくりを行うため、プロのアーティストによるワークショップを、多様な子どもたちの居場所で継続的に実施しました。

本事業で実施した内容

児童相談所、子ども家庭支援センターでのワークショップの実施

開催日：●児童相談所2か所 2024年5月21日～2025年2月18日（月1回程度、計11回実施）
●子ども家庭支援センター2か所 2024年10月28日～2025年1月30日（10、1月に月2回ずつ、計4回実施）
場所：豊島区児童相談所（東京都豊島区）
荒川区子ども家庭総合センター（児童相談所）（東京都荒川区）
豊島区西部子ども家庭支援センター（東京都豊島区）
豊島区東部子ども家庭支援センター（東京都豊島区）
対象参加人数：●児童相談所 一時保護下にある子どもたち / 3歳～高校1年生のべ88名
[アーティスト] 田畑真希（振付家・ダンサー）、伊藤知奈美（ダンサー）、ピスタチオ（美術家）、関根真理（パーカッションist）
●子ども家庭支援センター 未就学児とその家族 / のべ38組（子ども45名・大人39名）
[アーティスト] タカハシペチカ（音楽家）、えぼんず（絵本ワークショップ集団）

参加費：無料

実施内容

●児童相談所

月毎にダンス、アーティストや表現に出会うワークショップを実施しました。障害の有無に関わらず参加した子どもたちが、自己表現を楽しみ、且つ一緒に参加する子どもたち同士がお互いの良さを認め合い、人との関わり合いを楽しめるように、グループ活動やお互いの動きや作品を見合う時間も取り入れてワークショップを進めました。

●子ども家庭支援センター

音あそびでは、簡単な楽器づくりを行い、アーティストの演奏を聞いたりつくった楽器と一緒に演奏したりしました。絵本の読み聞かせでは、音楽や身体を使ったあそび、季節や絵本に関連する簡単な工作を取り入れて、聞くだけでなく全身の感覚を使って絵本の世界を楽しむワークショップを行いました。

児童養護施設、子どもの居場所でのワークショップと成果発表

開催日：2024年12月24日～2025年2月25日（月2回程度のワークショップを6回実施）
場所：そだちのシェアステーション・つぼみ（東京都清瀬市）
対象参加人数：児童養護施設に暮らす子どもたち、「そだちのシェアステーション・つぼみ」の利用者（ショートステイ利用中の子ども、子どもの居場所に通う子ども等） / 小学1～6年生48名
[アーティスト] 北川結（ダンサー・振付家・イラストレーター）

参加費：無料

実施内容

ダンスや音楽などいくつかの表現活動を組み合わせて、丁寧に子どもたちとの関係性を築き、表現することや人と関わり合うことを楽しめるような、子どもたちの居場所づくりを目指しました。最終回は、成果発表として施設職員、保護者や、日頃当該施設を利用している地域の親子や地域で子ども支援に関わっている団体等を観客として招き、子どもたちに関係する人や団体間の連携を深める機会となりました。成果発表終了後には、子どもたち（当事者）の感想を聞いたり、観客に意見を聞いたりしながら、事業の経緯や意義、成果をその場で共有、発信する機会をつくりました。

リーフレットの作成・発行

時期：2025年3月
部数：500部

実施内容

事業の記録をリーフレットにまとめて発行し、事業の成果や今後の課題などを広く社会に発信して、支援者の拡大と持続可能な事業の実施につなげました。また、事業モデルとして他地域への普及をはかりました。

本事業で得られた成果

子どもたちの生きる力を育む

障害の有無に関わらず、様々な事由で生きづらさを抱えた子どもたちが、プロのアーティストと出会い、演劇やダンス、美術、音楽などの様々な表現方法を知り、創造する過程を通して、安心して自己表現を楽しむことができました。ワークショップでは、子どもたちが与えられた課題をこなすのではなく、好きな材料や楽器を思い思いに選んで、自分の好きなようにつくりたり演奏したり、アーティストが一人ひとりの想いを引き出しながら進めました。ペアで相手と協力して動くワークや、完成した作品をみんなで見合うこ

と、一人が鳴らす楽器の音色を聞き合うことなど、誰かと一緒に経験を共有することも大切にしてきました。定期的・継続的に用意される自分の空間、時間があることと、継続的に自分に関わる信頼できる大人がいるという体験を積み重ねていくことが、心の安心につながったと思います。そうした他者との関わり合いや、地域とのつながりを持つ体験を積み重ねることで、子どもたちの自己表現力、創造力、コミュニケーション能力、自己肯定感等を育みました。



ペアで、手のひらについていくワーク（ダンス・児童相談所）



みんなで太鼓のリズムを演奏（音楽・児童相談所）

地域社会のつながりを強化する

事業実施にあたっては、児童養護施設、児童相談所、子ども家庭支援センターなど、複数機関と連携して、様々な境遇にある子どもたちが参加できるように取り組みました。その結果、ワークショップの場は、地域とつながりを持てる子どもたちの居場所になり

ました。子どもたちが障害の有無の別なく参加することができて、定期的且つ継続的に芸術文化活動にふれる場をつくることができ、子どもの育ちを支援する包摂型のコミュニティ形成につながったと考えています。



涼し気な素材を使った風鈴づくり（美術・児童相談所）



鈴の鳴る「いないいないばあ人形」づくり（音楽・子ども家庭支援センター）



ダンサーを動かすクリスマスツリーに見立てて飾り付け（ダンス・子どもの居場所）

ポイント

事業実施における工夫

講師となるアーティストは、様々な課題を抱える子どもたちとも、丁寧に関わる力が必要であり、特別支援学級等で様々な子どもたちを対象にしたワークショップの経験があり、社会の中でのアートの役割について意識的に活動しているプロの現代アーティストを起用しました。また、子どもたち個々の興味関心に応じた対応ができるように、アシスタント・アーティストも起用しました。

アート+認知症 やさしい美術鑑賞プログラム

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

所在地：神奈川県横浜市

団体URL：https://p.yaf.jp/org/

事業URL：https://artazamino.jp/series/artto

日常の中で、高齢者・認知症の方が美術を通じて新たな体験を楽しむ機会を作っています。2022年度より開始し、専門家や地域の福祉団体と協働しながら実施。2024年度は、「専門家による講座」「サポーター養成研修」「やさしい美術鑑賞会」に加え、アウトリーチや報告書の作成を行いました。

本事業で実施した内容

専門家による講座

- ①健康に良いクリエイティブな体験と「文化的処方」
- ②優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード

開催日：①2024年8月10日(土)
②2024年8月18日(日)

場所：横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ(横浜市青葉区あざみ野南)

定員・参加人数：募集定員各30名程度/参加人数①25名、②38名

参加費：無料

実施内容

- ①講師：稲庭彩和子(独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター 主任研究員)

アートを楽しむことによって、心が動くという体験が健康やウェルビーイングのために重要だという事を、国内外の事例や研究の紹介から学びました。

- ②本田美和子(国立病院機構東京医療センター総合内科医長)、イヴ・ジネスト(ジネスト・マレスコッティ研究所所長)

ユマニチュードの技術について、開発者であるジネスト氏がワークを交えながら話しました。「相手のことを大切に思う気持ち」を相手に伝わるように表現していくことの重要性を学びました。

「やさしい美術鑑賞会」サポーター養成研修

開催日：2024年10月2日(水)、9日(水)、16日(水)、23日(水)
全3回 ※10月16日、23日については参加日を選択

場所：横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ(横浜市青葉区あざみ野南)

定員・参加人数：募集定員10名程度(一般募集)/参加人数23名

参加費：無料

実施内容

講師：三ツ木紀英(アート・エデュケーター、NPO ARDA 代表理事)
基礎的な対話型鑑賞の理論や認知症の方と鑑賞する際のポイントについて学びました。「やさしい美術鑑賞会」当日は、運営サポート及び、参加者と一緒に作品鑑賞を楽しみました。

やさしい美術鑑賞会

開催日：①2024年10月16日(水)
②2024年10月23日(水)

場所：横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ、展示室1他(横浜市青葉区あざみ野南)

定員・参加人数：募集定員各4組程度(一般募集)/参加人数①一般4組(5名)、横浜市荏田地域ケアプラザ10名(ボランティア・施設スタッフ含む)、②一般3組(4名)、GrASP(若年性認知症通所施設)25名(ご家族・施設スタッフ含む)

参加費：無料

実施内容

おしゃべりをしながら美術鑑賞と施設内のお散歩を楽しみました。

アイスブレイク(作品カードを用いた自己紹介)→お散歩(展示室やエントランス等)→じっくり作品鑑賞(対話型鑑賞を応用して複数の作品を鑑賞)→お茶タイム(雑談をしながら振り返り)

<いつもの場所で>やさしい美術鑑賞会

開催日：2024年①8月21日(水)、②23日(金)、③11月15日(金)、④20日(水)

場所：①横浜市荏田地域ケアプラザ、②リハビリホーム グランダあざみ野、③ゆい青葉(荏田)、④GrASP aoba横浜北部

参加人数：①23名、②22名、③19名、④20名

実施内容

高齢者や認知症の方が慣れ親しんだ施設に出向き、鑑賞会を行いました。
じっくり作品鑑賞(対話型鑑賞を応用して複数の作品を鑑賞)→土粘土で創作活動(③・④のみ)

本事業で得られた成果

より多くの方に作品鑑賞を楽しんでいただくために

これまで「やさしい美術鑑賞会」では、当館にお越しいただきアトリエや展示室で鑑賞会を実施してきました。今年度はそのノウハウを活かし、外出が難しい方も参加できるように施設を訪問する「<いつもの場所で>やさしい美術鑑賞会」を新たに開催しました。計4か所の福祉施設で鑑賞会を実施し、各施設の利用者に合わせたプログラムを工夫。一部では土粘土を使った創作の時間を取り入れ、集中力が続く構成を心掛けました。



「<いつもの場所で>やさしい美術鑑賞会」の様子

周囲の人々も巻き込みながら認知症について考えるアプローチ

高齢者や認知症の方を対象にしたプログラムに加え、一般向けの「専門家による講座」や「サポーター養成研修」も実施しました。ユマニチュードの講座では考案者のイヴ・ジネスト氏を迎え、具体的なケア技術を学びました。また、社会的処方の講座では稲庭彩和子氏に海外の事例を紹介し

ただき、多様なセクターが協力し合う重要性について理解を深めました。サポーター養成研修では、対話型鑑賞やサポートの方法を学び、鑑賞会で実際に役割を担っていただきました。こうした取り組みを通じ、当事者だけでなく地域全体で認知症について考える場を作ることができました。



「やさしい美術鑑賞会」の様子



専門家による講座の様子



専門家による講座の様子



サポーター養成研修の様子

ポイント

事業実施における工夫

本プログラムは「鑑賞」をテーマにしているため、作品の選定を重視しています。「親しみやすさ」「描かれている要素の量」「発言の引き出しやすさ」などを基準に選びます。アウトリーチプログラムでは、粘土で鳥を作る前に日本画、油彩画、ガラス素材の立体作品といった多様な技法による鳥を題材とした3点を鑑賞しました。これらは横浜美術館(当館と同じ財団が管理運営)の作品を活用しており、実物ではなくポスターやプロジェクターを用いた鑑賞でしたが、将来的に実物を見る機会が期待できる点も魅力です。

過去と現在を結ぶ非-(言語/聴覚)メディアの可能性 探求型創造事業

公益財団法人現代人形劇センター
所在地：神奈川県川崎市
団体 URL：http://www.puppet.or.jp/

【取組1 高齢者の記憶と箱庭人形劇のインタラクションを図る普及型ワークショップ】では、芸術家チームが高齢のろう者の集いの場を訪問し、紙箱と副材料を用いた作品制作と、その作品を用いた相互発表を行った。
【取組2 ろうの高齢者と子供による、視覚媒体を介した文通型創作の試み】では、高齢のろう者とろう学校に通う子供たちが参加した。両者がそれぞれに利用する施設をショート動画の交換で結びながらワークショップを実施。紙箱の作品制作と展示、パフォーマンスの上演を行った。
【取組3 伝統人形芝居「乙女文楽」における非-(言語/聴覚)的形式拡張の実践】では、伝統人形芝居「乙女文楽」をろう者、難聴者が鑑賞する際、芸能への理解と親しみを喚起する仕組みを検討し、試演会を行った。

本事業で実施した内容

高齢者の記憶と箱庭人形劇のインタラクションを図る普及型ワークショップ

開催日：2025年3月4日～6日

場所：岡山県岡山市
福岡県北九州市
福岡県福岡市

対象：各地の高齢ろう者向け施設およびサロン活動
定員：各回10～50名
参加費：無料

実施内容

紙箱および副材料として紙粘土等を用い、子どものときの思い出をテーマとした箱庭様の作品を制作。さらにその作品の中での人形操演、身体による表現を組み合わせ、作品にまつわるエピソードを表現。参加者が相互に発表した。

ろうの高齢者と子供による、視覚媒体を介した文通型創作の試み

開催日：2024年6月20日～2025年2月15日

場所：愛知県春日井市
愛知県名古屋市

参加人数：就労継続支援B型事業所(高齢ろう者対象)利用者 約15名
放課後等デイサービス事業所(名古屋市)利用者 約30名

実施内容

高齢のろう者を対象とする就労継続支援B型事業所と放課後等デイサービス事業所の利用者が参加し、紙箱を使い作品を制作。テーマは「将来の夢」「今の楽しみ」「子どもの頃の楽しみ」など。施設ごとに活動可能な時間が異なるため、ショート動画などを介して互いの進捗状況を交換しながら進めた。2月11日～15日にかけては名古屋市内のギャラリーにて作品の展示を実施。最終日である15日には作者自らによる作品解説、人形表現、身体表現を組み合わせたパフォーマンスを上演した。

伝統人形芝居「乙女文楽」における非-(言語/聴覚)的形式拡張の実践

開催日：2024年11月2日～2025年3月14日

場所：神奈川県川崎市

参加人数：大塚ろう学校、葛飾ろう学校児童生徒約15名(試演会)

参加費：無料

実施内容

演目「寿式二人三番叟」において、義太夫や囃子による聴覚情報が人形遣いや観客にもたらす効果に着目。これを聴者のみならずろう者や難聴者が体感し、芸能への理解と親しみを喚起する方法を、機器の開発及び体験プログラムの構成から検討した。3月14日には都内ろう学校の児童生徒を対象に試演会を実施した。試演会は体験ワークショップ、楽器や機器の紹介を経て試演に至る一連の流れとして実施。鑑賞のみならず体験の要素、学習の要素を多く取り入れた。



(取組3)ディスカッションの様相

本事業で得られた成果

箱庭様作品による個人史の発表 メソッド開発

取組1、2で取り入れた紙箱をつかった作品制作は、立体感を活かした空間構成が可能なこと、絵とは違い「自分自身」等のオブジェクトをあとから移動・操作できることなど、表現の幅を広げるためにたいへん有効だった。また小さな子供たちの制作では副材料として紙粘土を使ったことで、触り心地を楽しむ粘土遊びのなかから言葉を紹介することなく抽象的で色彩豊かな表現がうまれた。

作品の発表時には作品をビデオカメラで接写し、リアルタイムで投影する手法を用いた。カメラを介在させることによりズームイン/アウトやパンニングによる見せ方が可能になったが、

これは作品内でのオブジェクトの操演、静止した作品から物語性を引き出す作者による解説、身体表現等と共に、ために効果的な手法であった。



(取組2)発表の練習風景

伝統人形芝居「乙女文楽」について、聴者、ろう者、難聴者によるディスカッションとその知見

取組3は、「乙女文楽」鑑賞時の楽しみ方について、聴者、ろう者、難聴者が話しあうところから始まった。乙女文楽の歴史が主に聴者によって作られてきたものであっても、その楽しみ方に正統はない。こうしたディスカッションは双方にとって伝統芸能との

新たな関係性が見いだされる豊かな時間となった。

また、それぞれに楽しみ方が多様であるからこそ、一方が自分の楽しみ方を押し付けるような形ではない制作上の着地点を探る必要性が確認できた。この点においても、本取組み中

において最初期に実施したディスカッションこそが最も重要なプロセスであったと考えられる。

ディスカッションや実験の様子は報告パンフレットに一部収録。この成果が多くの人目に触れ、多様な形で活用されることを期待する。

事業実施における工夫

ポイント

●昨年度までの「高齢ろう者×アートプロジェクト」では高齢のろう者の表現を引き出すために絵と人形を扱ってきた。絵はいちど描いてしまうと描かれたものを動かせない。また、人形はそれ単体では世界を表現しにくく、操演に技術が求められることもあった。これらの経験を踏まえ、今回は紙箱の中に風景を作っていく方法をとった。絵や写真、立体物、小さな人形などが混在する作品づくりは自由度が高く、人形を遣う場合もおままごと遊びのような感覚で扱いやすい。

●伝統人形芝居「乙女文楽」をろう者、難聴者が楽しめる仕組みを考えるにあたり、聴者である企画者は当初、機器の導入や演出の変更を中心に考えていた。しかしディスカッションを重ねる中で、ろう者や難聴者にとっては「そもそもこの芸能がどういうものか」という事前の理解から、機器や演出がもたらす上演中の効果までがセットになってはじめて意味を成す、という意見が多数挙がり、方針の変更に至った。試演会では、これまでに当センターが実施してきた(基本的に聴者向けの)乙女文楽の体験・解説ワークショップの要素を多く取り入れた。単なる鑑賞に終わらず、知識として、身体経験として、総合的に乙女文楽に親しむことが第一であり、プラスアルファとして機器の導入や演出変更を行う、というイメージで組み立てたものである。

精神障害当事者の経験に基づいたオリジナル演劇の公演及び地域を超えた交流、普及啓発活動

OUTBACKプロジェクト
所在地：神奈川県鎌倉市
団体URL：https://outback-jp.com/

精神疾患・精神障害のある人に対する差別・偏見は、日本で未だ無くなることはありません。けれど一方で、4人に1人はうつ病ともいわれられており、ある意味では多くの方が「当事者」であると言えます。そのため、広い意味での「当事者」が集い、「言葉」だけに依らない芸術表現を通じて、思いや問題を共有していく場をつくっていくことが、当事者を取り巻く問題の解決への鍵となると考えています。そして、そういった場をつくるのに最も適しているのが、演劇であると考えました。本事業では、演劇を通じて、当事者が抱える思い、問題を社会に提示すると同時に、当事者自身が自尊心を取り戻し、エンパワーメントされる場にしたいと考え、演劇作品を創作し、他地域の当事者同士が交流するプログラムを展開しました。

本事業で実施した内容

「愛と変容についてのラップバトル 関西バージョン」の上演

＜京都公演＞

開催日：2024年8月22日 15時30分開演
場所：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン
観客：有料30名/招待15名
ゲストスピーカー：田邊友也氏（訪問看護ステーションいしずえ）

＜神戸公演＞

開催日：2024年8月25日 13時30分開演
場所：ArtTheater dB
観客：有料44名/招待15名
ゲストスピーカー：山根俊恵氏（山口大学医学部）

実施内容

昨年度本助成を受け、当事者たちの実体験をもとにオリジナルの演劇「愛と変容についてのラップバトル」を創作し、松山のシアターねこで上演しました。今年度は、出演者を一部入れ替えて、「愛と変容についてのラップバトル 関西バージョン」をワークショップを積み重ねて創り上げ、京都、神戸の2会場で上演しました。作品の構造自体は、昨年度から引き継ぎ、精神科病院に入院する患者それぞれの経験、思いをラップにしたり、シーンにしたりして構成したオムニバス形式の演劇作品になっています。一つ一つのシーンは、出演者が入れ替わったことで、また1年経ってそれぞれに気持ちの変化が生まれたことで、かなり手を入れてつくりなおし、「再演」ではなくほぼ「新作」となりました。



撮影・佐藤光展



撮影・佐藤光展

本事業で得られた成果

演劇を通じて地域コミュニティと出会う

京都公演では、在日コリアンの方が多く住む、東九条という地域に位置する会場で公演を実施しました。会場下見をした際に、HAPSの協力のもと、近隣の高齢者施設、障害者施設を訪問し、声掛けを行ったことにより、当日地域のコミュニティの方々が観に来てくださいました。また、家族会の方、障害当事者の方々が多く観にきてくださり、終演後出演者と直接語り合ったりする場面をみることができ、こういった当事者による表現活動が関西地域でもっと広がってほしいという声を聞くこともできました。

また、神戸公演ではNPO法人DANCE BOXの協力のもと、会場の下見と近隣施設の訪問を行い、公演の広報活動を実施しました。その成果として、神戸周辺の障害者施設で職員をしている方が多く観にこれ

ました。また、四国から観に来てくださった障害当事者の方もおり、終演後会場に残って感動した気持ちを率直に伝えてくれました。会場が今までOUTBACKのメンバーが経験したことのないような設え（客席よりも舞台の方がかなり高い、客席を見下ろすような状況）だったため、いつもストレートに出しているエネルギーが少々弱まってしまったことが反省点であり、今後はどのような空間にも柔軟に対応できるような作品づくりを心がけていければと考えています。

今回、京都、神戸それぞれの地域で上演する際にHAPSとNPO法人DANCE BOXという、アートと障害福祉をまたいで日常的に活動している団体が会場選定や広報など、さまざまな形で公演実施に向けて支えてくださいました。障害福祉を取り巻く

事情は地域ごとに全く違っていたりするので、今回のように外からの訪問者（OUTBACK）と地域コミュニティの間に入ってくださる人たちがいたことで、自分たちのネットワークだけではつながることができなかったさまざまな方々に観客として足を運んでいただくことができました。また、作品としては昨年度からの積み重ねがあることで、内容も充実し、より多くの人たち（障害当事者ではない人たち、普段アートに触れる機会の少ない人たち）にも届く形に上げることができたと思っています。そして、出演者であるOUTBACKメンバーの当事者たちも旅公演の経験を重ねることで、自分たちの表現がさまざまな人たちに受けとめられ、そのことをきちんと手応え、自信として感じ始めており、さらなる活動意欲を膨らませています。



撮影・佐藤光展



撮影・佐藤光展



撮影・佐藤光展

事業実施における工夫

ポイント

どんなにいい作品をつくったとしても、それをどういった場所でどういった人たちに届けたいかがうまくかみ合わない、ライブな表現である演劇作品のもっている本来の力を発揮することができません。そういった意味で、今回はそれぞれの地域で活動している団体と事前につながり、協力を得ることで「新しい観客」と出会うことができ、そのことは今後にも活かしていきたいと考えています。また、作品創作において、OUTBACKメンバーの個別のエピソードをもとに作っていますが、作品そのものとしては個性にとどまらず、普遍性のある作品に仕上げることができました。広い意味での「当事者」（生きていくことになんらか困難や悩みを持っている人たち）に届くことを意識してつくるように工夫しました。

事業名	熊川宿若狭美術館を拠点として 県内外に広げる芸術文化推進事業
団体名	特定非営利活動法人 若狭美&Bネット 所在地：福井県三方上中郡若狭町 団体 URL：http://Wakasa-monozukuri.net/ 事業 URL：http://gallery-kumagawa.main.jp/
事業概要	障がい者の生活に潤いと生きがいを与える障がい者アートの活動の制作拠点「若狭ものづくり美学舎きらりアート部」の活動を全県的に拡充させ、障がいのあるアーティストの制作活動支援に取り組みました。第15回福井県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」は、若狭町社会福祉協議会と手を取り合って開催し、地域社会に障がい者アートの素晴らしさをひろめました。熊川宿若狭美術館では、障がい者アート、子ども美術、現代美術を同時同列に展示する企画展を6回開催し、真の共生社会実現を目指すメッセージを発信し続けました。また、併設カフェ・ガレット Kirari を活かし美術館が鑑賞の場・憩いの場・語らいの場として多様化を尊重し合う活動を深めました。



本事業で実施した内容

「若狭ものづくり美学舎きらりアート部」の障がい者アート制作活動支援の拡充

開催日：2024年4月～2025年3月
場所・参加人数：若狭ものづくり美学舎きらりアート部(若狭町) 18名
サテライト春江アトリエ(坂井市) 8名
サテライトびーぶるファンアトリエ(越前市) 12名
サテライト一陽アトリエ(越前市) 7名
計45名が利用し、地域に密着した活動が進行中
参加費：1回500円

第15回福井県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」

開催日：2024年9月～2025年3月
場所：パレア若狭ギャラリー、熊川宿若狭美術館、福井県立美術館など他6箇所
応募者：173名
観客数：約2,500名(パレア若狭ギャラリー)、1,947名(まるまるつながるアートてんまる展、県立美術館)、など

実施内容

9月14日～16日搬入、9月18日審査、10月17日～28日展示。表彰式・講評会10月20日、作品集発行。

熊川宿若狭美術館企画展

開催日：2024年4月～2025年3月末日
場所：熊川宿若狭美術館(若狭町)
観客数：回ごとに約1,500～2,300名(計6回実施)

実施内容

障がい者アート、子ども美術、現代美術を同時展示し、共生社会の実現を訴えた企画展。6回の展示とギャラリートーク、講演会を実施。展示内容に多彩なテーマを取り入れ、観客に新たな視点を提供。現代美術常設展(齋藤義重、坂本善三、アンソニー・カロ、福嶋敬恭、長谷光城)。



第15回福井県障がい児・者アート作品公募「きらりアート展」(パレア若狭ギャラリー)

「あとりえ風の作品展」(熊川宿若狭美術館)



きらりアート「柴山信宏展」(熊川宿若狭美術館)



きらりアート「江戸雄飛展」(熊川宿若狭美術館)



「第15回きらりアート展入賞者作品選抜展」(熊川宿若狭美術館)

本事業で得られた成果

障がい者アート制作活動支援の拡充

「若狭ものづくり美学舎きらりアート部」では、障がい者のアート制作活動を支援し、現在45名の利用者が参加しています。そのうち18名は、プロ級のアーティストとして評価されています。アート活動を通じて、利用者は事業所での作業に積極的に取り組み、生活に潤いと喜びを感じているとの声が多く寄せられています。制作した作品は、熊川宿若狭美術館や福井県立美術館で展示され、福井県総合美術展で知事賞や美術館長賞を受賞するなど、実績が高く評価されています。これにより、利用者は自信を深め、サテライトアトリエ開設の要望が多く寄せられています。

第15回福井県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」の充実

若狭町主催の「福祉と文化の祭典」と連携し、若狭町社会福祉協議会と協力して「きらりアート展」を開催し、173名が出品しました。展示会とともに表彰式・講評会が行われ、障がい者アートへの理解が広がり深まりました。熊川宿若狭美術館での「入賞作品選抜展」や福井県立美術館での「まるまるつながるアートてんまる展」も好評を得て、現在は移動展が各地で開催されています。これにより、さらに多くの人々に障がい者アートが紹介されています。

熊川宿若狭美術館の成果が「熊川宿若狭芸術祭」へ

熊川宿若狭美術館では、障がい者アート、現代美術、子ども美術を同時に展示する試みが行われ、地域社会から高い評価を受けました。今年度は、県や町の支援を受けて実行委員会を組織し、「熊川宿若狭芸術祭」が大々的に開催されました。この芸術祭は、地域の文化的価値を高め、熊川宿の日本遺産としての付加価値を向上させる重要なイベントとなりました。来年度は、さらに多くの空き家を活用し、障がい者アートを中心にした新しい芸術祭が企画されています。

熊川宿若狭美術館の企画展が県主催の大展覧会に発展

「熊川宿若狭美術館」の企画展が福井県主催で開催された「まるまるつながるアートてんまる展」として発展し、全国唯一の3つの美術が融合した展覧会として注目されています。今年度は、福井、石川、富山、新潟、静岡の5県から集まった障がい者アート作品160点が展示され、総展示点数は358点に達しました。2日間で1,947名の来場者を迎え、講演会やシンポジウムも行われ、地域の文化活動に大きな影響を与えました。この展示会は、障がい者アートの魅力を広く伝える重要な機会となり、参加者の理解と関心を深めました。

障がい者アート作品を「我が家の玄関に」

「きらりアート推進協議会」が中心となり、障がい者アート作品を家庭や公共施設に飾る取り組みが進んでいます。「小コレクターの会」では、18名の会員が作品の購入やレンタルを推進しています。福井県の協力を得て、県庁内の副知事室や文化交流部の執務室に作品を展示し、多くの県民や企業、団体にアートを紹介しています。また、福井県の東京施設「ふくい南青山291」や「ふくい食の国291・銀座」にも作品を展示し、購買やレンタルを促進しています。さらに、若狭町のふるさと納税の返礼品としても障がい者アート作品が活用され、地域経済にも貢献しています。

事業実施における工夫

当法人は、居場所づくりとして、不登校、ひきこもり対応の適応指導教室(フリースクール)、幼児から40歳過ぎの方を対象としたサポートセンター、通信制高等学校等の事業を行っています。また、幼児から高齢者までが学び合う各種美術講座、障がい者アート活動を支援するきらりアート部、サテライトアトリエ等を開講しています。障がい者就労継続支援B型事業所「若狭ものづくり美学舎きらり」として、若狭町歴史文化館の管理、熊川宿若狭美術館、熊川宿若狭美術館併設カフェ(ガレット Kirari)等を運営しています。障がい者アート活動についても、支援・指導、美術館での展示、コレクション運動と、全てを連携して取り組むことによって相乗効果による大きな成果を上げることができています。このように教育、福祉、芸術・文化を連携させる当法人の取り組みは、現代の社会の要請に応え、地域社会や町、県の行政からも大きな期待が寄せられています。

ポイント

文化創造の担い手としての医療的ケア児や多様な障害児者によるインクルーシブな芸術文化活動創造事業

医療法人社団オレンジ

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町
 団体 URL：https://hotch-l.com/
 事業 URL：https://note.com/hotch_lodge/n/n1e0d422489ae

本事業では、長野県軽井沢町で医療福祉・アート・まちづくり活動を組み合わせた事業を展開する「ほっちのロッヂ」と、長野県松本市を拠点に活動するサーカス団体「JDS(ジャグリング・デ・信州)」が連携し、多様な人が参加するソーシャルサーカスの活動を県外に展開しました。前年度、長野県内で行ったワークショップと市民参加型の公演づくりを一連のモデルとして、今年度はほっちのロッヂの本拠地である福井県内での人材発掘やネットワーク構築に取り組みました。期間中は、北陸・関西在住のアーティストと合宿形式でインクルーシブな創作について学びを深めながらワークショップを開発し、特別支援学校やイベントでアウトプットを行いました。

本事業で実施した内容

アーティスト向けワークショップ制作研修

開催日：[1回目] 2024年6月8日～12日
 [2回目] 2024年8月2日～5日
 [3回目] 2024年10月12日～15日
 場所：[1回目] 特別養護老人ホームさくら荘ほか(福井県勝山市)、および県内特別支援学校3校
 [2回目] オレンジキッズケアラボ、「みんなで舞台上に立とう」を広げる会ほか(福井県福井市)
 [3回目] ちくちくぼんぼん(福井県坂井市)
 対象：ジャンル、年齢や身体の状態、プロ・アマチュアを問わず、北陸東海地域に在住し、障害と共に生きている、またはそうした人との活動に共感と関心をもつ個人
 参加人数：一般公募9名
 参加費：無料(交通・食事実費負担あり)

実施内容

福井県内外で活動するアーティスト・福祉関係者・教育指導関係者と共に、障害の有無を問わず参加できるインクルーシブなワークショップづくりに取り組みました。各回、アクセシビリティに関する基礎知識を学ぶ座学に加え、ソーシャルサーカスに取り組むプロのアーティストが伴走しながらワークショップを制作し、県内特別支援学校や老人ホーム、障害福祉施設、障害者との舞台活動に取り組む文化団体でのリサーチや実践を重ねました。10月には参加者のみで運営するワークショップを行い、集大成としました。



サーカスワークショップの体験



オレンジキッズケアラボでのワークショップ



「みんなで舞台上に立とう」を広げる会に向けたワークショップ

ムーンナイトサーカス in ふくい

開催日：2025年1月31日～2月1日
 場所：ハーモニーホールふくい(福井県福井市)
 公演動員数：803名(全2回)
 参加費：一般3,500円、25歳以下2,500円、15歳以下・障害者手帳をお持ちの方と介助の方1名まで1,000円

実施内容

東京2020パラリンピック開閉会式のキャストと、6～10月の合宿に参加した一部メンバーによるサーカス公演を上演します。地域の劇場の共催を得て、インクルーシブな世界観の発信と様々な年齢・状態に配慮した客席運営のノウハウを共有する機会となっています。

本事業で得られた成果

障害者との文化芸術活動を共にする地方人材の育成

アーティスト向けワークショップ制作研修に参加した9名のうち8名は、これまで障害のある人との文化芸術活動を共にしたことのない方、または機会があっても体系的に実践したことのない方でした。企画を終えた10月時点で「インクルーシブな活動の意義を感じた」と考えるようになった方は、企画に参加しなかった場合を1とすると平均して約2.5倍、「普段活動している地域や職場でインクルーシブな活動を取り入れていきたい」と考えるようになった方は平均4.3倍にのびました。特にうち6名は、ほとんど経験や機会がなかったにも

かかわらず、今後はインクルーシブな視点を自身の活動に積極的に取り入れていこうと考えています。参加者は、福井県内から4名、そのほか富山、大阪、静岡など各地域から、ジャグリング、パントマイム、エアリアル、ダンス、演劇、音楽、障害福祉、科学実験など、様々なジャンルで活動しています。個人の活動ではなかなかアクセスしにくい特別支援学校や福祉施設で、身体的障害、ろう、医療的ケア、要介護や認知症など多様な状態にある当事者と活動を共にする体験に加え、アクセシビリティや合理的配慮などの社会的動

向を体系的に学ぶ座学を並行して行ったことで、参加者それぞれが自分の専門領域に引き付けて今後の活動を見つめ直すきっかけになったといえます。



あそびを探求しながらワークショップのヒントを探る

医療法人が基軸となったダイバーシティ推進

ムーンナイトサーカス in ふくいに向けた準備として位置づけた10月のイベントでは、気球搭乗体験とエアリアルワークショップを行い、計500名以上の地域住民が集まりました。乳幼児から80代まで、さまざまな年齢・状態の参加者が「空を飛ぶ」という初めての体験を求めて集うことで、その地域の多様性を体感できる場となりました。このことは「障害者のため」「社会包摂のため」などの目的を掲げるのではなく、一見まったく関係のない目的をもとに

多様な人々が集まることで、多様な人と共にある暮らしを当たり前のものである共有していく可能性を体現しています。また、ムーンナイトサーカス in ふくい共催協力を頂いた(公財)福井県文化振興事業団の皆さんや、次年度以降の取り組みに関心を寄せてくださる劇場・文化施設とのネットワークも広がり、最も脆弱な立場にある重度心身障害児者・医療的ケア児やその家族と共にある企画実現のために必要な環境づくりについて、医療法人主導でディスカッション

と学びを深めていることは、全国にも例を見ない取り組みと自負しています。



医療的ケア児の日常の場で訪問とリサーチ

事業実施における工夫

今年度、地域の公共ホールや文化団体、アーティストと活動を共にすることで、医療的ケア児の居場所運営に関わる法人として、医療福祉業界で共有されているケアの「当たり前」と、舞台芸術活動の領域で共有されている感覚にギャップがあることを改めて感じました。様々なステークホルダーと会話する中で、「何かあった時に責任が取れない」ことを理由に同事業の実施をしり込みしたり、「ドクターストップ」をかけざるを得ないとしたりするケースも聞かれました。より重度の障害や医療的ケアのある人との活動を推進していくためには、何より本人の思いを周囲がクリエイティブにくみ取り、本人および家族、ケアに関わる関係者を医療側からも後押ししてくれるパートナーを味方につけることで、実現が可能になります。

また、多様な身体の状態や発達の段階、年齢にある観客を想定し、公共文化施設の利用方法や告知の仕方、接遇方法を施設側にもフィードバックしたり、地域の医療福祉関係者とのつながりを紹介したりすることで、各地域のアクセシビリティ向上への実践向上に努めました。

事業名	「表現未満、プロジェクト」新しい価値を共創する ～哲学・学び・アート・場づくり
団体名	特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ 所在地：静岡県浜松市 団体URL：http://cslets.net 事業URL：https://cslets.net/wp/project/project-2900
事業概要	2016年度より実施してきた「表現未満プロジェクト」は、浜松市中心市街地において、福祉を核とした新しいコミュニティの創出をめざし、市民と作り上げる祭りの実施や、2つの拠点や街の資源を使っの講座、トーク、ツアー、出張、ライブ、ワークショップ等を数多く行いました。また国内外で活躍する専門家、有識者を招聘し、重度障害者との交流を通して、コロナ禍後の社会が求める新しい価値創造についての対話を実践しました。さらに市民とともに運営する新拠点の構想を具体的に進めるなど、本格的な街づくりへと発展しています。



本事業で実施した内容

**生きのびるためのエクササイズ
～「見え方」を増やすエクササイズ**

開催日：2024年8月3日～3月24日
場所：浜松市中心市街地、東京、名古屋、京都、静岡
募集定員：合計250名
参加人数：500名

- 実施内容**
- ①ひとインれじでんす(8回)
国内外で活躍している専門家が1泊2日重度知的障害者と過ごしながら「新しい価値創造」について、市民と語り合う岸井大輔(劇作家)、松村圭一郎(文化人類学者)、村上慧(作家)、西川勝(臨床哲学プレイヤー)、伊藤亜紗(美学者)、小松理度(地域活動家)、松尾亜紀子(編集者)、青田元(企業家)
 - ②タイムトラベル100時間ツアー(16回)
一般の人を対象とした1泊2日の重度障害者と過ごす観光ツアー。
 - ③かしだしたけし(13回)
重度知的障害者が全国各所(大学、学校、施設、講義、講演、その他)に出張する。
 - ④ミドのヴァススペシャル・かたりのヴァ(22回)
市民を対象とした哲学カフェを月2回ペースで実施。

**生きのびるためのエクササイズ
～じぶんの「ちまた」をつくるエクササイズ**

場所：浜松市中心市街地(たけし文化センター連尺町、ちまた公民館、新川モール)

- 実施内容**
- ①ちまた公民館(ちまたスクール)(60回)
ちまた公民館で実施される市民を対象とした各種講座
 - ②ちまたトーク(11回)
街で活躍する人たちを講師にトークを展開
 - ③みんなでつくる凸凹まつりワークショップ(18回)
市民と作り上げるお祭りのためのワークショップを実施
 - ④みんなでつくる凸凹まつり2024～デコキチパレード(9月21日)
中心市街地にある各種団体と市民で作り上げる祭を実施。中心市街地を練り歩くデコキチパレード、クラブ・アルス、盆踊り、ミニサッカー、スケードボード、ZIN、その他



かしだしたけし・講演



お祭りごっこ～みんなでつくるデコキチパレード

本事業で得られた成果

「共生社会を目指したまちづくり」が本格的に始動

2016年より始まった「表現未満、プロジェクト」は、多様な人の存在を「表現」ととらえ認め合う社会を目指して活動を続けています。特に2018年度「たけし文化センター連尺町」を拠点に、障害のある人を核とした文化創造発信事業を展開し、2020年には、地域のステークホルダーとまちづくりを考える「浜松ちまた会議」を発足し、市民とともにアートイベントや祭りを今年度も共同で実践しました。また、「表現未満」を体現できる場所として「ちまた公民館」「出張ちまた公民館」などを街の中に複数設けて実践しています。

今年度は、今まで仮住まい状態だった「ちまた公民館」を移転し、地域活動支援センターと併設させながら本格的に始動しました。2023年度から進めている市民と協働で運営する「表現未満、センター」の構想も次の段階に入り、多様な人が助け合いながら共に暮らす、生活する、活動する拠点を作り出す予定です。このように、障害者が中心となって浜松市中心市街地の街づくりをけん引していく存在となりつつあると感じています。今後、中心市街地でのこうした活動をさらに強化していきたいと考えています。



ちまた公民館リニューアル



タイムトラベル100時間ツアー・ガイダンス



出張ちまた公民館～これからちまたパーティー

コロナ禍後の社会～新たな価値観を障害者とともに作り出す

今注目を集めている8名の研究者、アーティスト、活動家、企業人を招聘し、1泊2日滞在していただきながら、対話の場を設ける「ひとインれじでんす」や、京都哲学研究所とのコラボ企画などを行いました。これは予想以上の反響があり、障害者及び障害者福祉を違った角度から考察する絶好の機会となりました。また、コロナ禍が完全に明けた今年、クリエイティブサポートレッツで実施している「タイムトラベル100時間ツアー」や見学、シェアハウス・ゲストハウスでの受け入れなどを積極的に行いました。その結果、今年は見学者も含めてのべ1,000名の来訪者がありました。こうした反響の多さは、コロナ禍後の社会変化、分断、戦争、その他の激動の時代の中で、本事業が目的としている、障害のある人の営みや存在をもとに考える価値創造の思考実験は非常に注目されていると感じています。今後も、様々な社会実験を行いながら、「新しい価値創造」を思考していきたいと考えています。

事業実施における工夫

福祉施設の社会資源化
福祉施設が地域の拠点となること。地域に一つはある福祉施設が多様な人びとの居場所や、よりどころとなることで、共生社会が推進されていきます。サービス対象者のみならず、社会全体の中の福祉施設の役割を考えることが非常に大切です。

アートの手法を通して拠点を作る
アートは、どんな立場の人でも、どんな状況の人でもともに楽しむことができます。またレッツの提唱する「表現未満」はその人の存在を丸ごと認め、ともにリスペクトしあう関係を作り出します。こうした考えのもと拠点を作り出すことで、誰も排除しない、認めあう場が形成されていきます。

多様な人々とともに事業を行う
事業を通して、多くの市民や関係機関(福祉だけではなく、文化、街づくり、環境、ビジネス、経済、その他)のつながりやネットワークが構築されていきます。その要をアートが担っています。それが当法人の財産です。

ポイント

事業名	滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター 特別支援学校・特別支援学級へのオーダーメイド・アウトリーチ
団体名	国立大学法人滋賀大学 所在地：滋賀県彦根市 団体 URL：https://www.shiga-u.ac.jp/ 事業 URL：https://www.otosapo.com/
事業概要	障害児者の音楽教育を目的とした滋賀大学教育学部の附属センターとして、特別支援学校・特別支援学級を対象とした音楽のオーダーメイド・アウトリーチを実施しました。学校や参加者の希望に寄り添ったプログラムを丁寧な打ち合わせを経て制作することが特徴です。教員養成大学としての経験を活かし、音楽や特別支援学級の教員を対象とした研修会も実施しました。さらに地域のホールで少人数制の歌って踊れるバリアフリーコンサートを実施。約800名の子どもたちやご家族、教職員に音楽をお届けしました。



本事業で実施した内容

特別支援学校・特別支援学級へのオーダーメイド・アウトリーチ(音楽)

- 開催日・場所・①9月6日 栗東市立葉山小学校(31名)
参加人数：②9月17日 滋賀県立鳥居本養護学校(19名)
③10月9日 栗東市立大宝西小学校(17名)
④10月16日 守山市立守山南中学校(19名)
⑤10月23日 守山市立守山小学校(38名)
⑥10月25日 栗東市立栗東西中学校(23名)
⑦11月5日 滋賀県立甲南高等養護学校(52名)
⑧11月11日 野洲市立中主小学校(73名)
⑨11月14日 滋賀県立甲良養護学校(63名)
⑩11月27日 滋賀大学教育学部附属特別支援学校(27名)
⑪12月4日 栗東市立治田西小学校(24名)
⑫12月13日 栗東市立大宝東小学校(10名)
⑬12月18日 野洲市立野洲小学校(80名)
⑭2月4日 滋賀県立北大津養護学校(38名)

実施内容

滋賀県内の特別支援学校と、滋賀県栗東市、守山市、野洲市の小中学校の特別支援学級を対象に、公募し、14校にオーダーメイド・アウトリーチを派遣しました。学校とは事前に丁寧な打ち合わせを行い、ニーズや希望に沿ったプログラムを制作していることが特徴です。打楽器・和楽器・世界の音楽など、内容は学校が選択できるようにしています。リクエスト曲以外はある程度プログラムが決まっているセミオーダーメイドと、子どもの実態に合わせて全てを作り上げるフルオーダーメイドのプログラムがあります。



リズムに乗って、心も体も動き出す

教員研修会

- 開催日・対象・①7月24日 守山市教員研修会(49名)
参加人数：②10月24日 湖南省小学校教育研究会音楽部会研修会(10名)

実施内容

滋賀県守山市と湖南省の教育委員会や教員研究会と連携して、特別支援教育に豊富な経験を持つ音楽の教員による実践的な研修を実施しました。

地域のホールでのバリアフリーコンサート

- 開催日：2月1日 おとさぼファミリーコンサート
①13:00開演、②15:30開演
場所：栗東芸術文化会館さくら 小ホール
対象：障害のある方とご家族(196名)
参加費：無料

実施内容

「うたって おどれる コンサート」をキャッチフレーズに、少人数制、出入りも席も自由、歌う、踊る、跳ねる、手拍子する、歩くなど、自由に楽しめる新たなバリアフリーコンサートを提案。



おとさぼファミリーコンサートチラシ

本事業で得られた成果

多様なニーズや希望に対応するオーダーメイド・アウトリーチ

特別支援学校・特別支援学級を対象に実施したオーダーメイド・アウトリーチとは、対象者の障害や発達を考慮するだけでなく、ニーズや希望に寄り添ったアウトリーチです。各学校のニーズや希望をもとに、教師と演奏者とセンター教員が時間をかけて打ち合わせをし、プログラムを上げることが特徴です。音楽のジャンル、演奏者、内容を一から作り上げるフルオーダーメイド・プログラムと、演奏者や内容がある程度決まっていたり、リクエスト曲などで学校の希望に対応するセミオーダーメイド・プログラムが

あります。公演では、踊り出す子どももよく見られ、楽しいと大変好評です。障害児者の音楽教育を目的とした大学教育学部附属センターが、地域の学校の実態に合わせたアウトリーチを派遣する体制は、大学の知的・人的資源を活用して、音楽を普及するひとつのモデルとなり得ると考えます。今年度から大学の授業とアウトリーチが連携するようになり、教員を目指す学生の学びの場にもなっています。今後は、アウトリーチの手法など、ノウハウを蓄積して社会に公表していきたいと考えています。



演奏者から届けられる音に高まる気持ち

音楽や特別支援学級の教員を対象とした教員研修会

教員養成大学がもつ教員研修の経験や教員研究会とのつながりを活かして、滋賀県守山市と湖南省で、音楽や特別支援学級の教員を対象に研修会を実施しました。日々多くの子ども

たちと接する教員に研修の機会を提供することによって、障害のある子どもたちへの音楽教育の波及効果が期待できると考えます。



教員研修会の様子

地域のホールでの新たなバリアフリーコンサート

「うたって おどれる コンサート」をキャッチフレーズに、少人数制、出入りも席も自由、歌う、踊る、跳ねる、手拍子する、歩くなど、自由に楽しめる新たなバリアフリーコンサートを提案。

学校でのコンサートに参加するだけでなく、地域のホールへ家族とコンサートに出かける経験につなげることを目指しています。

事業実施における工夫

ポイント

教員養成大学の知的・人的資源を活用して、音楽アウトリーチ研究の第一人者の研究成果を活かしたアウトリーチ、地域の学校とのつながりを活かした教員研修を実施。教師への徹底した聞き取りと打ち合わせで、参加者の希望に寄り添うオーダーメイド・アウトリーチでは、内容、演奏者など、全てを作り上げるフルオーダーメイドに加え、リクエスト曲などでカスタマイズするセミオーダーメイドで、より多くの子どもたちに普及できるよう工夫しています。さらに、地域のホールで、少人数制、出入りも席も自由、歌う、踊る、跳ねる、手拍子する、歩くなど、自由に楽しめる新たなバリアフリーコンサートを提案。学校でのコンサートに参加するだけでなく、地域のホールへ家族とコンサートに出かける経験につなげることを目指しています。

公立美術館のエコロジー：障害者等の文化芸術活動の可能性を拡張し、共生社会実現のための象徴空間のあり方を可視化する

一般社団法人HAPS

所在地：京都府京都市

団体URL：https://haps-kyoto.com/

事業URL：https://haps-bunka.space/ (R5年度までの情報を掲載)

本事業は、公立美術館における障害者等の関わる文化芸術活動（発表、鑑賞）に関する多面的な手法を大きく発展させ、積極的に活動に取り組める状況を創出することを目指しています。公立美術館の学芸員、教育・普及担当員等の職員、アーティスト、現代美術のキュレーターらとともにその基盤を作ることを目的とし、カンファレンス（交流・共有・学びの場づくり）、パイロット事業、未来の美術館構想講座、アーカイビングに取り組んでいます。

本事業で実施した内容

カンファレンス

開催日：2024年12月20日（金）～21日（土）
場所：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン、
下京いさぎ市民活動センター

実施内容

公立美術館の学芸員等が、交流や学び、相互の働きかけを通して障害者等の関わる文化芸術活動についての経験、知識等を蓄積する機会となるよう、2日間にわたる勉強会を実施しました。

テーマ：①「作品」を受けとめる身近な人びと、②「表現」を発見・共有するプラットフォーム、③作家とアイデンティティ、④八戸市の版画教育と作品収蔵、⑤障がいのある人を撮る

パイロット事業

展覧会「（こどもの）絵が70年残ることについて」
（キュレーションを公平に拡張する vol.3）

開催日：2025年2月4日（火）～23日（日）

場所：MEDIA SHOP | gallery

ゲストキュレーター：成相肇氏（東京国立近代美術館）

実施内容

アール・ブリュットやアウトサイダーアートなどが流行する以前の1950-60年代に焦点をあて、障害者支援施設「落穂寮」（滋賀県）と同「みずのき」（京都府）に残る絵とともに、同時代の「児童画」にまつわる資料を展示しました。



池田文雄《(中) (部分)》1955頃、クレヨン・紙、椎の木会蔵
吉川 敏明《タイトルなし (何かの写生と思われ)》1965-1967年 オイルバスティル (銀あり)・画用紙 みずのき美術館蔵

未来の美術館構想講座

「もぞもぞする現場 3 - 芸術と障害にかかわるひとたちの、アセンブリー」

開催日：2024年9月～2025年1月の全8回+特別編
場所：京都市立芸術大学 カフェ・コモンズ、京都市京セラ美術館・京都市美術館別館、アトリエみつしま、みずのき美術館

ゲスト講師：藤田龍平（京都市京セラ美術館）、瀧口桃（横浜美術館）、光島貴之（美術家、アトリエみつしま）、奥村一郎（和歌山県立近代美術館）

実施内容

本講座は「もぞもぞする現場3」という副題で、芸術と障害について、障害者・アーティストをふくむ私たち自身が、「そもそも」のところから考え、話し合う場所として2022年度から始まりました。今年度は全8回のMeet upに加え、特別編として和歌山県でも開催しました。



「もぞもぞする現場」Meet up ① 京都市京セラ美術館ラーニング・プログラムのお話をきく+館内見学 (2024年9月15日開催)

事業評価

本事業の全プログラムについて、外部の評価者を設定し、1年を通してプログラムへの参加、ヒアリング、評価を行いました。

本事業で得られた成果

「作品」の概念を揺らす表現に関わるケーススタディ

福祉、地域、教育などのさまざまな分野とアートをつなぐ相談事業 Social Work / Art Conference (SW/AC) が進行役となり、公立美術館等の学芸員を対象に、障がいのある人、またその周囲の人びとの関わる表現を取り上げたケーススタディを実施しました。5つの異なる切り口で表現事

例を紹介し、参加者とのディスカッションを通じて事例についての理解を深め、これまで美術館の学芸員の間で漠然と抱えられていた、障がいのある人の「作品」を扱うことの難しさについて、交流しながら学び合う機会をつくることができました。



カンファレンス (2024年12月21日開催)

現代美術を専門とする学芸員による障害者アートへのアプローチ

本企画シリーズは、近現代美術分野の気鋭の美術館学芸員が、障害をもつ方の作品に関する展覧会を実現するものです。学芸員によりキュレーションの手法は異なり、それが障害者をもつ方

の作品へのアプローチをめぐる多様化と深化につながることを期待しています。今年度はアール・ブリュットやアウトサイダーアートなどが流行する以前の1950-60年代の絵画作品に焦点をあて、当時

の資料などを並置し、「こどもの絵」をめぐる枠組みを捉え直す試みでした。作品だけではなく、時代背景までも鑑賞できる非常に貴重で有意義な展覧会を開催することができました。

美術館の未来について語り合い、試してみる

今年度は8回のMeet upを開催し、2つの公立美術館の学芸員の実践報告を聴くとともに、障害のあるなしにかかわらず、あらゆる人びとにとって「おもしろい美術館」とは何かというテーマのもと、4ヶ所の美術館・ギャラリーの協力を得て、手探りで現場での実験（様々な鑑賞方法を考案し、実際にやってみる）を重ねてきました。毎回の参加者は20名ほどを数えます。参加者の意思や主体性を尊重して運営し、鑑賞者

コミュニティの育成をめざしています。それは（未来の美術館）は、鑑賞者（ユーザー）コミュニティと美術館の職員の間での丁寧な対話のなかから生まれてくると想定しているからです。鑑賞者コミュニティの立場から構想を提案、実践していくのがこの講座の特徴といえます。今年度は活動の場を広げるべく和歌山へ出張し、和歌山県立近代美術館の学芸員と「もぞもぞ」話し合い



「もぞもぞする現場」Meet up ⑦ Meet up ⑥をふまえて、展覧会場ですこし実践させてもらう #1 (2024年12月21日開催) 撮影：有佐祐樹

事業実施における工夫

本事業は「美術館」と「障害者等の芸術文化活動」の関係性の進展・改善に焦点を当て、企画展示に焦点を当てたパイロット事業、展示企画を行う学芸員らによる学びの場であるカンファレンス事業、市民による鑑賞者グループの育成に焦点をあてた講座事業、アーカイブ、外部評価まで、多様なレイヤーで同時進行したことが特徴です。今年度は事業の社会的拡散を目指し、カンファレンスでは、全国の美術館学芸員に周知し、参加募集を行いました。講座では、昨年度までの座学中心から一転して、美術館・ギャラリーの協力を得て、新しい対話型鑑賞の現場実験など、当該館の学芸員と協働しながら実施できたことが大きな展開でした。パイロット事業でも繁華街に近いアートスペースでの展覧会を試みました。加えて、外部評価を強化したことにより、事業が社会的に浸透していく過程にあることを感じる成果が得られました。

障がいのある児童や成人の身体的芸術活動(ブレイクダンス等)の創造と発表の機会を確保・充実させる取り組み

一般社団法人日本アダプテッドブレイキン協会

所在地：大阪府大阪市
団体URL：https://yozigenz.com/jaba

弊協会がこれまで行ってきた「障がい児者に限定したダンス等の芸術の創造と発表の機会を充実させる取り組み」に加え今年度は当事者の家族や健常者ダンサーを巻き込む方針に切り替えました。当事者家族のQOLは当事者自身の環境に密接に関係し当事者本人のQOLに深く関わると考え、これまでの活動で得た障がい者の自己研鑽サポートのノウハウをより効果的にする為に障がい児の親同士のコミュニティの形成や健常者との交流を目的とした催事を加えた結果、普段の生活面にも自己肯定感を高く持てるような活動を目指しています。

本事業で実施した内容

みんなのダンス教室
(およびUNIQUE ZONE COMMUNITY)

開催日：2024年4月～2025年2月
場所：主に、大阪府立障がい者交流促進センター
ファインプラザ大阪(堺市)
対象：障がい児者とその家族
実施回数：18回
参加人数：レッスン 平均約35名(のべ約630名)
発表会 障がい児者42名、その家族17名
参加費：500円/1回

実施内容

ダンスジャンルの異なる講師やアシスタントを毎回複数名揃えたダンスレッスン及び発表会。講師やスタッフを児童発達支援管理責任者やサービス管理責任者、専門性のある大学教授や協賛の製薬会社からのボランティア、協力の義肢装具会社のエンジニア、日本パラスポーツ学会の理事やJPSA障がい者スポーツ指導員などあらゆる専門性のあるメンバーで固めていることでダンス経験以上に親御さんの安心感に繋がるということを狙って行っています。またそのようなダンス以外の専門家が現場にいることで障がい児がレッスンを受けている時間が同時進行で保護者の相談の場や保護者同士の交流の場ともなっています。また別の枠で、同じ層を対象にした「UNIQUE ZONE COMMUNITY」を保護者の悩み相談の場としても設けています。



当事者家族も一緒に発表会のステージへ

UNIQUE ZONE Breakin

開催日：2024年7月15日
場所：大阪府立長居障がい者スポーツセンター
(大阪市)
対象：障がいのあるダンサーと障がいのないダンサー
参加人数：出場46名
観覧約130名
観覧料：無料

実施内容

2024パリオリンピックの新競技にもなったブレイキンの文化芸術の要素も重要視したダンスイベント。過去4年間行ってきた中では本来の出場対象は障がい者のみに限定していましたが、今まで観覧として訪れてきた健常者や、出場当事者の友人などからの要望に応え、部門によっては健常者ダンサーの出場を今回から認めました。あくまで障がいのあるダンサーが主軸となっているため、無理のないインクルーシブな空間が自然にできあがりダンスの持つ「互いの個性をリスペクトしあえる」という特性を最大限に発揮できる内容となりました。



健常者も一緒に楽しめるブレイキンイベント

本事業で得られた成果

健常者が羨ましが現場作り

昨今、インクルーシブ＝「障がい者も参加できる」という健常者目線のイベントが多く見受けられ我々は違和感を感じています。弊協会の事業は障がいのある方々が初参加しやすいよう対象を障がい者のみに絞った催事から始まりますが、その先にこそあるインクルーシブを目指しています。障がい者を主役にした催事一つ一つがイベントとして盛り上がった結果、健常者ダンサーの方が参加させてほしいと申し出るようになり、限定的ではありますが徐々に健常者の参加を認めだしてきました。

また聴覚障がい者向けのイベントでは司会進行も聴覚障がい者に依頼し、現場の会話はすべて手話を第一言語として、その場に対し日本語通訳者を複数人入れるような形にしています。健常者の世界に障がい者を混ぜてあげるのではなく、更にいうと障がい当事者だけが楽しめるイベントも我々の目的とは違います。障がい者とその家族もまとめて本気で楽しめないエンターテインメントとして確立できていないと考え、その雰囲気複数年継続できてからようやく健常者も混ぜる仕組みを作ることを優先的に考

えています。それこそが本来の意味のインクルーシブに近づくのだと信じて続けてきた活動が、今年度ようやく成果を上げだしてきました。



マイクを持たず手話のみでの司会進行

障がい当事者の家族もまとめてQOL向上

障がい者本人が感じる生きづらさはその周りの人たちの生きづらさにも直結しており、その二次障害的な要因を解決するための工夫をしてきました。具体的には、障がい児を育てる親御さんの相談の場(専門的な相談相手の設置やセミナーの開催)を増やしたり、障がい者を主役にしたまま健常の友達や家族も率先して参加したくなるようなイベントを開催するなど。結果的に、例えば「みんなのダンス発表会」では42名の出演者に対してその家族が17名もステージと一緒に上がるようになりました。今回の事業を通して「文化芸

術の選択の自由」と「障がい者の個性」を相性よく掛け合わせることを喜びを本人だけではなく当事者家族にも実体験を経て理解し楽しんでもらうことができました。子供の世話に追われて趣味を持つ時間の無い親御さんが自身の子供と一緒に踊るといった新たな趣味を持つことで、家族単位でのQOLの向上を図れたと実感しています。今年度の活動は新聞やTVで取り上げられることもあり、親御さんにとって今までマイナスだと捉えられていた特性が芸術の世界では輝くためのプラス要因の個性になると、メディアに載る

ことでの喜びと自信にも繋がりました。またそれらを通して活動に賛同してくださる団体や専門家の無償の関わりも多くなり大変助けられました。



障がい児の親御さんのためのセミナー

事業実施における工夫

ポイント

我々は、当事者だけではなくその家族一人ひとり個人だと捉え、更には関わる専門家も含めて個々を尊重しています。既存の健常者向けのノウハウを障がい者に向けて改変するのではなく、それぞれの家族や環境に合わせた新たなノウハウを生み出すように意識し、必要が無ければインクルーシブさえも目指していません。インクルーシブを目指した結果、互いに楽しめないイベントになってしまわないように「障がい者とその家族が本気で楽しめる現場」を先に作り、その中でインクルーシブの必要性を感じた現場のみに健常者も混ぜるような順序建てで進めています。

くりかえしとつみかさね2 ～大阪府20世紀美術コレクションと現代作家たち～

吉本興業株式会社
所在地：大阪府大阪市
団体 URL：https://www.yoshimoto.co.jp/
事業 URL：https://www.enokojima-art.jp/collection/project-enoco/collection/13673/

現代美術と福祉というふたつの業界をゆるやかにつなぎ、「障がいのある人の作品展」としてではなく「現代美術展」としてフラットな状態でひとつひとつの作品自体を鑑賞してもらうことをめざした展覧会。福祉事業所等で制作される作品を美術館等でもっと評価・展示していくためにはどのようなことが必要か、講演会やトークセッションを開催して検討するとともに、視覚障がい者と晴眼者とが言葉を介してひとつの作品をともに鑑賞をする「ぎゅぎゅっと対話鑑賞」やライブ・ドローイング等を行うことで、障がいのある人もない人も、新たな知見や経験にふれることのできる展覧会をめざしました。

本事業で実施した内容

展覧会「くりかえしとつみかさね2 センス・オブ・ワンダー～大阪府20世紀美術コレクションと現代作家たち～」

開催日：2024年9月13日(金)～10月19日(土) (32日間)
場所：大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]
協力：capacious(大阪府委託事業)、YELLOW、西淡路希望の家、ワークセンターとよなか、アトリエみつしま、大阪教育大学附属特別支援学校、京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センター(ACOP)、社会福祉法人堺市社会福祉事業団、大阪府福祉障がい福祉室自立支援課

入場者数：1,143名
入場料：無料

実施内容

enocoが収蔵する「大阪府20世紀美術コレクション」のなかから、物を集めることやつみ重ねること、繰り返しの行為など、障がいのある方の作品にも通じるテーマ設定のもと、大阪府内で活動する障がいのある作家5名を「現代作家」として迎えてコレクションとともに展示しました。

出展作家：粟津潔、穴瀬生司、伊藤継郎、イマンツ・ティラーズ、上前智祐、大山幸子、奥田善巳、岸中延年、木村嘉子、黒崎彰、黒田勝利、越谷賢一、小林敬生、田中二三子、中根恭子、平野喜靖、前田泰宏（下線：大阪府20世紀美術コレクション作家）
出展作品数：129点(大阪府20世紀美術コレクション作品38点、現代作家作品91点)

見て・みて・エノコレ!+(プラス)

開催日：2024年9月17日(火)、9月18日(水)、9月19日(木)、9月20日(金)、9月26日(金)
講師：京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センター
対象：大阪市内の小中学校(参加4校)
参加人数：312名

講演会&トークセッション

開催日：2024年9月21日(土)
講師：服部正(甲南大学教授)、金武啓子(西淡路希望の家)、宮本典子(capacious)
参加人数：27名
参加費：無料

実施内容

- 講演会「障がいのある人の作品 その評価をめぐって」服部正(甲南大学教授)
- トークセッション「創作の現場と展覧会との間で」服部正×金武啓子(西淡路希望の家)×宮本典子(capacious)

ぎゅぎゅっと対話鑑賞@enoco

開催日：2024年9月14日(土)、10月6日(日)
講師：アトリエみつしま(光島貴之、高内洋子、亀井友美)
参加人数：21名(視覚障がいのある方3名、その他障がいのある方2名を含む)
参加費：無料

実施内容

京都の「アトリエみつしま」が行う、視覚障がい者と晴眼者とがひとつの作品を言葉を介して一緒に鑑賞する取組を出張版として実施。

実施内容

京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センターの연구원と大学生がファシリテーターとなり、多くの小中学生が対話型作品鑑賞を行いました。

本事業で得られた成果

さまざまな人に向けた鑑賞機会の創出

障がいのある人の作品を現代美術の文脈に乗せ、先入観抜きに作品自体を鑑賞していただくことができる展覧会として、鑑賞機会の創出に寄与できたと思います。また、本展に出展した4つ

の福祉事業所で活動するメンバーの皆さんも代わる代わる会期中に足を運んでくれ、出展している現代作家の作品だけでなくさまざまなコレクション作品の鑑賞を楽しんでくれたようでした。



展覧会チラシ

協力機関との関係構築やノウハウの蓄積

多くの機関・施設にご協力いただき、講演会や鑑賞会等のイベントによって多くの知見を得ることができました。「講演会&トークセッション」では、服部正氏に国内外の美術関係者と作家・施設とをつなぐ中間支援組織の充実の必要性や、単年度評価ではなく長期的な効果を見据えて活動を行うことの重要性についてお話いただき、その後障がいのある人の作品をアートマーケットに紹介するcapaciousの宮本典子氏、西淡路希望の家で美術部を担当する金武啓子氏に参加いた

だき、それぞれの活動紹介の後に、福祉と美術とをさらにつなぐために必要なことについて、双方の立場から検討する対談を行いました。これらの貴重な知見の数々については記録集にまとめます。

このほか、Uni-voiceによる視覚障がい者向けの情報保障や、作品展示の高さの検討などは、今後文化庁事業に限らずすべての展覧会やイベントを実施する際に検討できるもので、ユニバーサルな場づくりのために必要なことを考える貴重な機会となりました。



展覧会場風景
撮影：表恒匡



講演会&トークセッション



ぎゅぎゅっと対話鑑賞@enoco



見て・みて・エノコレ!+(プラス)

事業実施における工夫

ユニバーサルな展示をめざして

展示作品のほとんどが平面作品だったため、視覚障がいのある方にどのように展覧会を紹介・体験してもらうべきか悩みました。視覚障がい者と晴眼者とがともに鑑賞するアトリエみつしまの「ぎゅぎゅっと対話鑑賞」はそのための貴重な機会となりましたが、さらに大阪教育大学の協力によって、触図を用いた特別な鑑賞会になりました。

また、一般の人も車椅子を使う人にとっても見やすい展示にするために、堺市社会福祉事業団の大内秀之氏にアドバイスをいただきながら、目線の高さや動線を一緒に検討しました。

鑑賞支援サービス 地域スモールモデル構築事業

一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構
所在地：大阪府大阪市
団体URL：https://jdp-arts.org

「鑑賞支援サービス 地域スモールモデル構築事業」とは、地方ごとの異なる事情や状況に応じて、障害のある人たちも鑑賞できるように支援するサービスを、地域の人材と一緒に作りあげる事業です。このプログラムでは、知識や技術を共有し、地域ならではの特性を活かしたスモールモデルの構築を目指します。実施を通じて生まれたスモールモデルは、Web版報告書にまとめ、広く周知に努めます。

本事業で実施した内容

荘銀タクト鶴岡との連携事業

開催日：2024年9月7日(土)
場所：荘銀タクト鶴岡 大ホール(山形県鶴岡市)
参加人数：195名、鑑賞支援サービス利用者16名
参加費：有料

実施内容 BLACK BOTTOM BRASS BAND「ワッショイ★お祭りライブ」に耳が聞こえない・聞こえにくい、目が見えない見えずらい人への鑑賞支援サービスを提供しました。

いわきアリオスとの連携事業

開催日：①こどもの劇場2024「らんぼうものめ」
2024年8月4日(日)
②和楽器×影絵 KAGEN
2024年11月30日(土)、12月1日(日)
③二兎社公演48「こんばんは、父さん」
2025年2月22日(土)
場所：いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市)
参加人数・①361名、鑑賞支援サービス利用者3名
参加費： 有料、未就学児無料
②11/30(土)165名、鑑賞支援サービス利用者5名
12/1(日)160名、鑑賞支援サービス利用者0名
有料、未就学児無料
③有料

実施内容 3つの公演に耳が聞こえない・聞こえにくい人に向けての鑑賞支援サービスを提供しました。

広島県との連携事業

開催日：2024年12月15日(日)
場所：ジーベックホール(府中市文化センター) 大ホール
参加人数：(広島県府中市)
①「療炎護辰」リラックスパフォーマンス公演
135名(発達・知的、難聴者、車椅子利用者、高齢者など、多様な人が参加)
②「療炎護辰」一般公演 589名
参加費：有料(①は一部無料招待あり)

北上市さくらホールとの連携事業

開催日：①立川志の輔一門「二つ目 三人会」
2024年11月24日(日)
②菅家奈津子 メソソプラノコンサート
2024年12月7日(土)
場所：北上市文化交流館 さくらホールfeat.ツガワ 小ホール
(岩手県北上市)
参加人数：①105名、鑑賞支援サービス利用者：5名
②105名、鑑賞支援サービス利用者：8名(同伴者、利用体験者含む)
参加費：有料

実施内容 2つの公演に耳が聞こえない・聞こえにくい人に向けての鑑賞支援サービスを提供しました。

あきたミルハスとの連携事業

開催日：2024年12月27日(金)
場所：あきたミルハス 大ホール(秋田県秋田市)
参加人数：1,200名
鑑賞支援サービス利用者：14名(同伴者含む)
参加費：有料、小学生以下無料

実施内容 「第2回あきた吹奏楽の日～大いなる秋田 定期公演～」に耳が聞こえない・聞こえにくい、目が見えない・見えにくい人に向けての鑑賞支援サービスを提供しました。また、合唱でも障害のある参加者を募集し、聴覚障害1名、視覚障害1名の合計2名が合奏にも参加しました。

実施内容 令和6年度ジーベックホール会館自主事業「我龍 療炎護心ー呼び覚ます、炎の鼓動ー」に耳が聞こえない・聞こえにくい人に向けての鑑賞支援サービスを広島県と連携して実施しました。また、発達・知的障害のある人たちも参加できるリラックス・パフォーマンス回を一般公演とは別に開催しました。
[連携] 広島県「障害者鑑賞支援サービス導入事業」

本事業で得られた成果

地域連携による自立的な鑑賞支援の実現

荘銀タクト鶴岡では地域の福祉団体と連携し、リアルタイム字幕サービスを自力で実現。コスト削減と細やかなサービス提供を達成し、さらに地域の教育機関への波及も実現しました。いわきアリオスでは継続的な取り組みにより、障害のある家族が自主的にチケットを購入して参加する成果を生み出しました。

新規参画劇場における独自の鑑賞支援モデルの確立

さくらホールでは「劇場鑑賞に困難を感じる人」という視点で対象を拡大し、高齢者向けの新たな取り組みを実現。あきたミルハスでは市民参加型公演で障害のある人が表現者として参加するなど、鑑賞支援の新しい可能性を示しました。



荘銀タクト鶴岡「BLACK BOTTOM BRASS BAND『ワッショイ★お祭りライブ』」

地域実演団体との協働による新しい鑑賞支援の形

ジーベックホールでは、地域の実演団体が主導するカタチで鑑賞支援に取り組み、リラックス・パフォーマンス公演を実施。劇場のサポート体制と地域団体の既存のネットワークを活用することで、より多様な障害のある人たちの参加を実現しました。



いわきアリオス「和楽器×影絵 KAGEN」



さくらホール「菅家奈津子 メソソプラノコンサート」



あきたミルハス「第2回あきた吹奏楽の日～大いなる秋田 定期公演～」



ジーベックホール「我龍 療炎護心ー呼び覚ます、炎の鼓動ー」

事業実施における工夫

ポイント

研修や体験談の共有だけでは、参加者が現場の具体的な課題解決や実践方法の習得に至らず、また困難時の相談先も不足していました。そこで私たちは「伴奏型の支援」を導入。活動の立ち上げや既存の取り組みの発展において、実践者に寄り添い継続的な支援を行うことで、細かな工夫や注意点を共に考え、失敗を恐れず挑戦できる環境づくりを実現しました。

日本センチュリー交響楽団 特別支援学校コンサート

公益財団法人日本センチュリー交響楽団
所在地：大阪府豊中市
団体URL：https://jcso.or.jp/

当事業は、日常的にコンサートホールでオーケストラの生演奏を聴く機会が少ない、大阪府下の特別支援学校の児童生徒・教職員を対象としたコンサートです。当団の自主事業として10年以上継続して実施しており、昨年度までの参加はのべ13,060名。知的障がいや肢体不自由、視覚支援学校や聴覚支援学校など、様々な障がいのある児童生徒の参加が可能です。演奏中の出入りや休憩は自由で、演目には楽器紹介や参加型コーナーを含めた幅広い内容を組み込んでいます。また、病院分校などの学校から移動することが難しい支援学校に向けては、学校訪問型の室内楽コンサートを行いました。

本事業で実施した内容

学校訪問型アウトリーチ室内楽コンサート

2024年5月23日(火) 大阪府立吹田支援学校
編成：ヴァイオリン2名、ヴィオラ、チェロ(弦楽四重奏)
参加人数：小学部2～6年生 91名
演奏曲：ベートーヴェン/トルコ行進曲、エピカニクス 他

2024年5月28日(火) 大阪府立泉南支援学校
編成：チェロ、コントラバス
参加人数：小学部3～6年生 70名
演奏曲：サン＝サーンス/動物の謝肉祭より「白鳥」「亀」「象」他

2024年5月30日(木) 大阪府立高槻支援学校
編成：ヴァイオリン、クラリネット、トロンボーン、打楽器
参加人数：中学部・高等部全学年 200名
演奏曲：Clip Beat Clap(手拍子共演曲)、葉加瀬太郎/情熱大陸 他

2024年6月21日(金) 大阪府立八尾支援学校
編成：フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ(フルート四重奏)
参加人数：小学部5～6年生 49名
演奏曲：モーツァルト/フルート四重奏曲、となりのトトロ 他

2024年6月24日(月) 大阪府立生野支援学校
編成：ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノ(ピアノ三重奏)
参加人数：小学部5～6年生、中学部1～3年生 136名
演奏曲：花は咲く、校歌 他

計5校 546名
対象：大阪府下の特別支援学校の児童生徒・教職員
参加費：無料(事前申し込み制)

実施内容

大阪府下の特別支援学校全校を対象に、公演案内の募集要項を郵送し、応募を受け付けました。今年度は過去最多の20校からの応募があり、偏り無く開催校を5校選定しました。各校の要望やイメージに合わせて、楽器編成を決定。また、希望校には児童生徒からリクエスト曲を募集し、演奏に反映させました。学校ごとの特色に応じたプログラムを作成し、各校の会場に合わせて内容を調整しました。コンサート当日は、演奏者と児童生徒との交流を大切に、参加者全員が音楽を楽しめるように工夫しました。

オーケストラコンサート

開催日：2025年2月3日(月)
場所：国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
対象：大阪府下の特別支援学校の児童生徒・教職員
参加人数：のべ1,212名
参加費：無料
演奏曲：ロッシェニ/ウィリアム・テル序曲より スイス軍の行進、ピゼー/カルメンよりジプシーの踊り、ブラームス/ハンガリー舞曲第5番、ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」より第1楽章、アンコール：シュトラウスI/ラデツキー行進曲

実施内容

支援学校の児童生徒にオーケストラの生演奏を提供する貴重な機会として企画。オーケストラの楽器紹介や、代表生徒による指揮者体験コーナーを行い、演奏をより身近に感じてもらいました。クラシックの名曲を中心にプログラムを組み、アンコールで会場全体が一体となって手拍子を行い、盛り上がりしました。コンサート後には、児童生徒から感想をもらい、音楽の楽しさやオーケストラの魅力を広めることができました。



ヴァイオリン・クラリネット・トロンボーン・打楽器(室内楽コンサート)

本事業で得られた成果

学校訪問型アウトリーチ室内楽コンサート

この室内楽コンサートは、演奏者が各校へ出向き、学校の体育館や教室等を会場にして演奏会を行うため、児童生徒にとっては慣れ親しんだ環境で安心して楽しんでいただけます。また室内楽という2～4名の小さな編成のため、ホールで鑑賞するよりも身近な距離で楽器を観察でき、音の振動や迫力をより間近で体感することができます。

また、本アウトリーチをきっかけに別公演として音楽鑑賞会の演奏依頼をいただいた学校もありました。今年度はあいにく日程の都合により実施が叶いませんでしたが、来年度以降に是非機会を設けられたらと考えております。本

アウトリーチは予算の都合により演奏人数・実施校・公演数が限られてしまい、同う学校の中でも鑑賞できる学年が一部であることが多いため、演奏に伺う

ことで教職員の皆様に室内楽やオーケストラに興味を持ってもらい、よりたくさんの児童生徒に鑑賞いただける機会をつくるきっかけとなれば幸いです。



チェロ・コントラバス(室内楽コンサート)



フルート四重奏(室内楽コンサート)

オーケストラコンサート

年に1回の学校行事として当事業を捉えていただいている学校が増え、今年度は過去最多ののべ1,212名の参加者となりました。

各学校、団体バスにて来場されますが、混雑を避けるため降車場所を3か所設けました。バスを降りてから会場までの動線や距離は降車場所により異なりますが、車椅子の児童生徒が多い学校はエレベーター近く、重度の障害を持つ児童生徒が多い学校は正面入り口すぐ近くとするなど、各学校の特徴に合わせて降車場所の割り振りを行いま

した。バス誘導については、以前は学校の教職員が対応しておりましたが、一昨年度より警備会社に誘導を委託し

ています。同じ警備会社に委託することで連携を深め、よりスムーズにホールへ入館いただくことができました。



楽器紹介(オーケストラコンサート)



演奏の様子(オーケストラコンサート)

事業実施における工夫

室内楽コンサート

演奏会場候補が複数ある学校においては、児童生徒の皆さんが自由に身体を動かしても窮屈でない広さ、且つ演奏する楽器編成に合った会場をじっくりと検討しました。チェロとコントラバスの二重奏を演奏した学校では大きな体育館ではなく視聴覚室を会場としたことで、演奏者と児童生徒との距離が近くしっかりと響きが伝わり、低音楽器の魅力をより存分に味わっていただける公演となりました。

オーケストラコンサート

演奏会場の多目的ホールは、中央通路より前の座席は床の段差をコントロールできるオート座席となっており、車椅子やバギー、ベッドを利用している児童生徒たちも客席で鑑賞していただけます。聴覚障がいや視覚障がいのある生徒たちには可能な限りステージに近いエリアでお聴きいただき、視界的に見やすく、音の振動を身体で感じていただけるよう意識して配席しました。

事業名	みんなでダンス in Ibaraki プロジェクト 「みんなでつくるダンス公演」～障害のある人もない人も一緒に踊ろう～
団体名	公益財団法人茨木市文化振興財団 所在地：大阪府茨木市 団体 URL：https://www.ibabun.jp/ 事業 URL：https://www.ibabun.jp/event/20241208/ https://www.ibabun.jp/event/2024dancews/
事業概要	障害の有無や年代を問わず、参加者を募り、ダンスを通じて相互理解を深めながらステージを作り上げていく市民参加型のプロジェクト。3か月の稽古を経てステージでダンスを披露する「みんなでつくるダンス公演」と、月1回気軽に参加できる「単発ワークショップ」の2本立てで年間を通してプロジェクトを企画・運営しています。 2024年度は、新たな取り組みとして、市民参加型の部活動「ibabun 手芸部」による衣装制作、また、オリジナル打楽器を作って公演のワンシーンに出演してもらう趣旨のワークショップを企画。「踊る」という手段以外で本プロジェクトに関わる人の裾野を広げました。

本事業で実施した内容

みんなでつくるダンス公演「公園(パーク)でルンバ～おしゃべりな身体と踊るひととき」

開催日：[公演]2024年12月8日(リハーサル12月7日)
[稽古]2024年9月12日～2024年12月1日
計12回
場所：大阪府茨木市 茨木市市民総合センター(クリエイトセンター) / [公演] センターホール、
[稽古] 多目的ホール ほか
対象・参加人数：[ダンサー] 小学生以上 / 一般公募22名、
参加費：追手門学院大学草山ゼミ生2名(連携) アシ
スタント他4名 / 参加費5,000円(通し)
[観覧] どなたでも 163名 入場料500円

実施内容

8歳から95歳まで、障害の有無に関わらず多様な出演者、総勢28名によるダンス公演を開催。
今年度は、「踊る」という手段以外で本プロジェクトに関わる人を増やす試みとして、美術家・藪内美佐子氏監修のもと市民参加型の部活動「ibabun 手芸部」が衣装制作を担当。また、パーカシオニスト・西本諭史氏監修の打楽器制作ワークショップを開催し、参加者に公演のワンシーンで楽器を演奏してもらうなど、新たな取り組みにもチャレンジしました。



公演 撮影：井上嘉和



公演に向けたダンス稽古
撮影：茨木美術協会

公演 撮影：井上嘉和

単発ワークショップ「障害のある人もない人も一緒に踊ろう！」

<インリーチ>
開催日：2024年6月～2025年2月 毎月1回
場所：大阪府茨木市 茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)多目的ホール ほか
対象：どなたでも
参加人数：6月22日16名、7月13日17名、8月17日14名
参加費：無料

<アウトリーチ>
開催日：2025年1月18日
場所：茨木市南市民体育館
対象・参加人数：茨木市内の障害者福祉施設の利用者46名
および支援員8名
参加費：無料

実施内容

「公演」を目指すのではなく、気軽に集う「居場所」となることを目的に、毎月1回単発ワークショップを実施。今年度はアウトリーチ型のワークショップも開催。



単発ワークショップ
撮影：茨木美術協会

本事業で得られた成果

多様な人々が気軽に集える「居場所」に～共生への気づきと相互理解の醸成

今年度の公演は8歳から95歳まで幅広い年代の方、総勢28名(うち、障害がある方11名、65歳以上の高齢者8名、小学生3名)が参加。4年目を迎えた今回は6割の方がリピーターとしてこの公演に継続して参加。リピーターの方からは「居心地の良い『居場所』を見つけることができた」など嬉しい声も上

がっています。また今回初めて公演に参加された方々からも「そのまま受け入れてもらえる安心感があった」という肯定的な意見をいただき、来年度以降も継続して参加したいという多くの希望も聞かれました。今後も、本事業を継続していく意義を実感しています。「公演」という共通の目標を持つこと

で、必然的に生まれる参加者間のコミュニケーションは、言語・非言語に関わらず、他者のあるがままの存在に気が付くきっかけを与えてくれました。今後も、地域の様々な人が集い、繋がり、同じ目標を共有する場を提供することで、共生・共感の意識が芽生える機会をつくっていきたくと考えています。

踊らなくても公演に参加できる！～衣装制作と楽器演奏で市民参加の裾野広がる

今年度は①美術(衣装)分野、②音楽にも市民参加の裾野を広げ、「踊る」という手段以外で本事業に関わる人を創出しました。

①当財団で主催する市民参加型の部活動「ibabun 手芸部」に公演で使用する衣装制作の協力を要請、部員13名が制作に携わり、その内9割はダンス公演を鑑賞されました。また公演前の鑑賞サポート会に参加された方も見られ、本事業に関わっていただいたことが、部員の視座を高める機会に繋がったと考えます。

②オリジナル打楽器をつくって、ダンス公演のワンシーンに出演してもらう趣旨で市民参加型のワークショップを開催。5名の方(うち障害がある方1名)にご参加いただきました。「チャレンジすることの大切さ、楽しさを教えてもらった」との感想をいただきました。今年度の公演は、昨年度より30%増の163名の方にご観覧いただきました。観客が増加した背景には様々な理由が考えられますが、今年度は、より多くの市民に本事業の門戸を開いたことにより、より多くの方が本事業を「自分事」として

捉えてくださったのではないかと考えます。参加してくださった市民一人一人が心を込めて本公演に関わってください、家族、友人などにも自発的に本公演を広めてくださったことは、今年度の大きな成果であったと捉えています。



ibabun 手芸部による衣装制作

事業実施における工夫

単発ワークショップ

月1回の単発ワークショップを開催。「公演」を目指す長期的なワークショップではなく、1回だけの参加も歓迎。気軽に参加できる雰囲気づくりを大切にしました。

アウトリーチ

様々な理由で、会場へ足を運ぶことが難しい方たちの負担軽減、また、新たな文化芸術活動と出会いの創出を目指すため、障害者福祉施設向けのアウトリーチ型のワークショップを開催。46名の利用者の方にご参加いただきました。

大学との連携

4年目を迎えた今年度も稽古運営・広報活動などを追手門学院大学の学生と協働で取り組みました。

アシスタント及び救護スタッフの配置

様々な障害のある方、高齢の方のご参加が見込まれたことから、ダンスアシスタントに加え、看護師にも稽古に常駐していただきました。

鑑賞サポート会の実施

公演前に、財団のバリアフリー対応についてご紹介する鑑賞サポート会を設け、8名の方にご参加いただきました。

障害者接遇研修の実施

様々な障害のある方と接する際にどのような点に留意すべきか、財団職員を対象にした接遇研修を6回に渡って実施。施設のアクセシビリティ改善に繋がっていきます。

医療リハ施設や支援学校に訪問して身体的芸術活動の体験と発表の機会を提供し・充実させる活動

川村義肢株式会社
所在地：大阪府大東市
団体URL：https://www.kawamura-gishi.co.jp/

パントマイムやブレイクダンスや和太鼓の専門家が、文化芸術に触れる機会の無い病院やリハセンターや療育園や支援学校に訪問レクチャーに出向き、文化芸術の鑑賞と体験の機会を確保・充実させる取組みを行います。
また公的施設(障がい者スポーツセンター)にて、ワークショップを行います。参加者はダンスと和太鼓とパントマイムのワークショップに参加し最後に発表会を行い披露することで自己肯定感を育み、障がい当事者が文化芸術活動に主体的に参加し創造活動を行う自信を持たせます。

本事業で実施した内容

“キッズカーニバルワークショップ”

開催日：2024年10月5日(土)
場所：大阪市舞洲障がい者スポーツセンター“アミティ舞洲”(大阪府大阪市)
対象：障がい(肢体・精神・発達)を持つ児童とご家族
定員・参加人数：定員10~15家族 / 参加人数20組(25名)
参加費：無料

実施内容

大阪市の公共施設のアミティ舞洲にてワークショップを行いました。「ダンスと和太鼓とパントマイムの3つのワークショップを開き、参加者はそれぞれ好きなワークショップに参加し最後に発表会を行いお披露目する。」催事です。訪問レクチャーの案内の際に医療施設・療育園・支援学校にて参加募集しました。
単なるワークショップでは、個々の障がい特性から最後まで参加が難しい当事者に向けて、自然と最後の発表(人前)まで参加できる筋書きのある催事にしました。肢体・精神・知的・発達・内部・重複などの種類を限定しない障がい児・者対象にして、3種類の身体表現や楽器演奏の講師6名のデモ演奏の後、好きなパートに分かれて練習を行いました。
ワークショップの最後にプロのパフォーマンスをみんなで見る機会提供を参加者には説明し、上記の筋書きに沿って自然と大勢の前で発表できるように誘導しました。ワークショップ終了後には参加者同士が仲良くなって講師無しで一緒に踊ったり太鼓を叩く様子が見られました。



10/5キッズカーニバルワークショップ参加者

訪問レクチャー(ダンス、パントマイム、太鼓)

開催日：2024年12月13日(金)
場所：奈良県立奈良東養護学校(奈良県奈良市)
対象：通学している障がい(肢体)児者とご家族、先生方
定員・参加人数：定員60名程度 / 参加人数50名(先生8名)
参加費：無料

実施内容

関西圏の医療施設・療育園・支援学校へ募集した施設に、訪問して文化芸術を伝える活動です。約20ヶ所の施設への訪問しました。奈良東養護学校では体育の授業として心身の障害を持つ生徒を対象に、3種類の身体表現や楽器演奏の講師7名のデモ演奏の後、好きなパートに分かれて練習を行いました。
大きく立位可能、座位可能、重度肢体不自由の3種類に指導を分けています。例えばダンスであれば、上肢で踊る、座って踊る、寝転がって踊る、立って踊る、など「障害が文化芸術のバリアにはなりえない、誰でもダンスはできて楽しい」をベースに指導しています。
レクチャーの最後にパート毎に発表会を行い、先生方や仲間の前で自分が演じて拍手をもらうことで自信を持つ、また仲間が演じているのを見て応援する意識付けにも効果があります。



12/13奈良東養護学校、全体レッスン

本事業で得られた成果

障がいにより閉鎖的にならざるをえない施設へ文化芸術に触れる機会を提供できました

パントマイマー・ブレイクダンサー・和楽器奏者を、入院病棟、病院やリハセンター、支援学校や療育園へこちらから訪問して、文化芸術の鑑賞と体験の機会を確保・充実させる取組みを行いました。ダンスは足を動かさずステップはできなくても座って踊る(手だけ、指だけ)、寝転がって踊るなど、パントマイムも複数の芝居形式や、1人で行う身体表現など、個々の障害と身体状況に合わせリハビリ医の指導から個々に合った動作を実現できました。訪問レクチャーの最後に発表会を行い、自由な表現を参加者同士で見せ合い、介護者や先生方に見てもらうことで自己肯定を促すことができました。

この事業の目標であり趣旨である鑑賞の機会の拡大、創造の機会の拡大、作品等の発表の機会の確保、文化芸

術活動を通じた交流の促進、を大きく実現できたと言えます。



12/13奈良東養護学校、講師アモ

医療・リハビリ・教育とアーティストの両方に表現の可能性を知ってもらえました

本事業を始めて直ぐに教育委員会や医療従事者の横のつながりで活動を知ってもらい、府外からの問い合わせや開催依頼もいただきました。
またアーティスト側のダンサー、パフォーマー、楽器奏者が障がいの種類や内容に理解が乏しいため、心身の障がい児者にレクチャーする方法やきっかけが無かったのが、リハビリ医師が監修した本事業により安心して安全に楽しくレクチャーが可能となり、彼ら

アーティスト自身が活躍できるステージを広げることができました。
アーティストのネットワークでも4施設の申し込みがありました。文化芸術を提供する側、享受する側の両方を拡大できたのは本事業の大きな成果だと考えられます。
今回の事業によって関西の支援学校と医療施設に、文化芸術が能動的動作の獲得につなげることを広められました。今後も全国の医療関係や文化芸

術関係者に障がい当事者のダンスや身体表現の啓蒙活動を続けます。



10/5キッズカーニバルワークショップ講師スタッフ

事業実施における工夫

本事業の取り組みにも掲げていますが、より多くの人々や団体や施設に事業を周知するべく学術団体の学会発表を行いました。学会HPの記載、配布抄録集の記載、当日の発表と質疑応答、フロアでの問合せなど多くに我々の活動を知ってもらえました。

8月の学会発表は優秀発表賞に選ばれました。発表によって小牧市の支援学校の訪問が実現するなど事業を周知・認知するには最大に有効な手段でした。支援学校や医療施設での開催はハードルが高いですが、認知さえされれば文化芸術活動の少ない医療福祉施設や支援学校での広がりは早いと感じます。

8/25リハビリテーション
工学カンファレンス優秀発表賞

事業名	ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ 「こんにちは、共生社会」
団体名	特定非営利活動法人ダンスボックス 所在地：兵庫県神戸市 団体 URL：https://db-dancebox.org/ 事業 URL：https://diversity.db-dancebox.org/
事業概要	文化芸術を通して、関わる人すべてが新たなビジョンや価値観を見出し、社会的弱者に対する理解を深めるとともに、社会における真の共生とは何かを考える機会となることを目的に、障害のある人や様々なルーツを持つ人、多世代の地域住民とともに事業を展開させてきました。劇場ArtTheater dB KOBEを拠点に、様々な人が集う機会をつくり、多角的な視点が交差する場で同時代性・芸術性の高い作品を創造し、作品発表やワークショップなどを行いました。今年度は、障害のある方も関わる国内外のアーティストや組織との協働・交流プログラムなどにも積極的に取り組みました。

本事業で実施した内容

ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi の新作を、「豊岡演劇祭」で上演

開催日：2024年9月21日(土)、22日(日)
場所：豊岡市民プラザ(豊岡市大手町)
観客数：213名

実施内容

障害のあるパフォーマーを含む Mi-Mi-Bi が「豊岡演劇祭」公式プログラムからの招聘を受け、新作『島ノ舞』を創作、上演した。
演出：森田かずよ、内田結花
出演：森田かずよ、内田結花、KAZUKI、福角幸子、三田宏美、も、米原幸
ドラマツルク：筒井潤
共催：豊岡演劇祭実行委員会

国内外のアーティスト・組織との協働による、障害者等の創造体験の機会・場の拡充及び人材の育成

開催日：2024年7月～10月
場所：ArtTheater dB KOBE(神戸市長田区)、はっぴーの家ろっけん(神戸市長田区)
参加人数：計134名

実施内容

インクルーシブダンスの先駆者 Adam Benjamin 氏によるワークショップ、台湾を拠点に障害のある人もない人も含めてプロフェッショナルな活動を展開しているダンスカンパニー Resident Island Dance Theatre とのエクステンジ企画、車椅子ユーザーであり音楽とダンスのアーティスト Carina Ho 氏とのセッションと協働しました。横浜を拠点とする精神障害・疾患を抱える当事者たちの「OUTBACK プロジェクト」演劇公演およびドキュメンタリー映画上映会も行いました。

やさしいコンテンポラリーダンスクラス

開催日：2024年5月～2025年3月 ※月1回実施
場所：ArtTheater dB KOBE(神戸市長田区)
対象：踊りたい人はどなたでも
参加人数：各回20～30名
参加費：無料(カンパ制)

実施内容

障害のある人もない人も、それぞれのペースで参加できるダンスクラス。
ナビゲーター：西岡樹里



写真：鈴木優



宣伝美術：升田学 写真：岩本順平



撮影：igaki photo studio
画像提供：豊岡演劇祭実行委員会



写真：鈴木優

本事業で得られた成果

ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi と豊岡演劇祭、地域団体の協働と挑戦

「障害者の一」という枠を超えて舞台芸術の新たな可能性に挑戦してきた Mi-Mi-Bi が、「豊岡演劇祭」の公式プログラムに招聘され、新作『島ノ舞』を上演。個々の身体・状況を活かした表現のさらなる可能性を提示しました。演劇祭はこの機に様々なアクセシビリティを整備され、公演には車椅子の方や盲ろうの方を含む、障害の有無も超えた多様な観客が集まり

した。宿泊を伴う旅公演のため、看護や介助が必要なメンバーへのサポートは、神戸市長田区の多世代型介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」の協力を受けました。障害のあるパフォーマーが旅公演するためのノウハウは、今後活かすことができます。障害のあるパフォーマーを含むプロフェッショナルなカンパニーとして、Mi-Mi-Bi が日本におけるロールモデ

ルとなり、活動をさらに展開したいと考えています。



写真：鈴木優

国内外のアーティスト・組織と協働プロジェクトの第一歩

今年度、海外のアーティストと協働して3つのプログラムを実施しました。台湾を拠点とし、障害のあるダンサーも在籍する Resident Island Dance Theatre との振付手法を交換するエクステンジワークショップ。アメリカで活躍する車椅子ユーザーの音楽・ダンスアーティスト Carina Ho 氏による、音楽家を交えたジャム・セッションとワーク

さらに、イギリスのインクルーシブダンスの先駆者である Adam Benjamin 氏を招き、障害のある方々に関わるナビゲーターや教育・福祉関係者を対象としたダンスワークショップを開催。複合的な理解と知見を持つ人材と、障害のある表現者の育成に寄与しました。これらの取組は、国際的なプロジェクトへの第一歩であり、2025年度以降

のプロジェクトに展開予定です。また国内においては、横浜を拠点に活動する精神障害や疾患を抱える当事者たちの演劇プロジェクト、OUTBACK プロジェクトとの共催で、演劇公演とドキュメンタリー映画の上映会を実施しました。国内外の障害者の関わる舞台芸術のネットワークは、シーンの活性化に寄与します。

やさしいコンテンポラリーダンスクラスの5年目。継続することで見える景色

月1回のダンスクラスは、肩書も役割も外して一人一人が自分自身としてその場にいることを、大事にしています。障害の有無や世代を超えて、安心できる風通しの良い居場所にもなり、ゆる

やかなコミュニティが形成されています。今年度は、有志によってステージ発表をする『やさコンプラス』や、出張ワークショップや支援学校でのアウトリーチも実施しました。

クラス開始当初からの参加者は、動きの広がりなど表現における挑戦も見え始めています。

事業実施における工夫

公演におけるアクセシビリティ

- 観客・演者それぞれに向けた手話通訳士を配備
- 開場時に手話通訳士の立ちと字幕投影位置を表示し案内
- 上演中の発話を字幕で投影
- 前説時に簡単な手話レクチャーを実施
- 障害のある演者に対するクリエイション時の配慮
 - 手話通訳士を配備
 - 音声文字変換アプリ使用
 - 会話内容をゆっくりとかつ簡単な言葉に言い換える
 - オリジナル衣装を作成
 - 自宅から稽古場への移動補助
 - 自宅訪問型リハーサル

地方公演時のケア

- 車椅子等の演者がスムーズに移動し滞在できる環境の整備(列車乗車時の手配、福祉車両で移動、公演会場及び宿泊先)
- 医療ケアが必要な演者のサポートを現地の看護ボランティア団体に依頼
- 24時間介助が必要な演者のサポートを福祉施設に協力を要請
- スタッフが介助スキルを持つこと及び複数人での介助体制の整備

Art for Well-being

心身機能の変化に向きあう文化芸術活動の継続支援と社会連携

一般財団法人たんぽぽの家

所在地：奈良県奈良市

団体 URL：https://tanpoponoye.org/

事業 URL：https://art-well-being.site/

病气や事故、加齢や障害の重度化など、心身がどのような状態に変化したとしても、創作をはじめたり、表現を続けることができるように、テクノロジーを活用する敷居を下げ、文化芸術活動を生涯にわたり可能にする社会づくりをめざします。具体的には以下3つの取り組みを実施します。

- ①普及活動 AIやMR(複合現実)などテクノロジーを活用した創作・表現・鑑賞に関する体験会やトークイベント
- ②人材育成 重度障害のある人を支援する施設などに呼びかけて、施設の中でテクノロジーを継続的に活用できる人材の育成プログラム
- ③社会連携の促進 福祉施設とクリエイターや技術者が実験的に関わりやすくなるための展覧会・シンポジウムおよび冊子制作

本事業で実施した内容

普及活動

実施内容

2023年度の先進事例をもとに、AIやMRなどのテクノロジーを表現とケアの現場に活かした事例を体験できる機会と、アート・ケア・テクノロジーに関心のある人たちがコミュニティ形成できる場所をつくり、今後の先進事例づくりの実践先を開拓する。

対象：クリエイターや技術者、アートやテクノロジーに関心のある障害のある人、福祉関係者

①上映会&トークイベント

開催日：2024年6月29日

会場：MTRL KYOTO(京都府京都市)

定員：40名 参加人数：36名 参加費：1,500円

②体験会&フォーラム&上映会

開催日：2024年9月14日

会場：山口情報芸術センター[YCAM](山口県山口市)

定員：80名 参加人数：82名 参加費：無料

③公開実験ワークショップ

開催日：2025年1月18日

会場：東十条ふれあい館(東京都北区)

定員：20名 参加人数：27名 参加費：無料

④オンライントークイベント研究会

開催日：2024年5月10日、5月16日、5月21日、5月31日

定員：なし 参加人数：390名(53名+97名+103名+137名)

参加費：無料



上映会の様子(会場：MTRL KYOTO)

人材育成

実施内容

重度障害のある人を支援する施設など福祉現場において、障害のある人や支援者が日々の活動のなかでテクノロジーを活用できるように育成し、新しい創作・表現活動をつくる。

開催日・場所：①重症心身障害児施設 四天王寺和らぎ苑(大阪府富田林市)

2024年7月6日、12月17日、

2025年2月6日、3月1日

②児童教育施設 キッズドームソライ

(山形県鶴岡市)

2024年10月22日~23日、

2025年2月11日~12日

③キャンパスプラザ京都(京都府京都市)

2025年2月23日



山形・キッズドームソライでMRを使ったダンスワークショップ

社会連携の促進

実施内容

福祉施設とクリエイターや技術者が実験的に関わりやすくなるための展覧会・シンポジウムおよび冊子制作

①展覧会：2025年3月19日~3月23日

シンポジウム：3月19日、3月21日

会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京

[CCBT](東京都渋谷区)

②冊子制作：2024年10月7日~2025年3月18日

本事業で得られた成果

表現活動とケアの現場におけるテクノロジー活用事例の普及

福祉の現場でテクノロジーを活用することを考えるときに、作業効率向上や省力化を考えると多岐にわたるかもしれませんが、本事業では表現活動やケアの選択肢をひろげるテクノロジーの活用事例を提案しています。これらの事例を上映会、トーク、体験会、研究会を通して普及活動を行ない、会場およびオンラインで535名が参加しました。アーティストやデザイナー、エンジニア・研究者などテクノロジーに関わっている人たち、福祉や教育機関の人たちなど、本事業を今後展開していくうえで必要な連携にむけて幅広い層に

認知度を高めました。普及活動の内容の評価は、「満足度」96%(回答者数76名、とても満足50%・満足46%)、「テクノロジーと自分自身の活動を結びつけて考える機会になりましたか」91%(回答者数61名、非常によく考える機会になった57%・ある程度考える機会になった34%)で、好意的評価も多く波及効果を得ることができたと考えられます。今年度は京都・山口・東京で開催をしましたが、今後も上映会、トーク、体験会、研究会を希望する団体や地域を募集し、全国各地への普及活動を実施していきます。



体験会の様子(会場：山口情報芸術センター[YCAM])



大阪・和らぎ苑で音色生成AIを使った音楽ワークショップ

別の地域や福祉施設への展開

表現活動やケアの選択肢をひろげるテクノロジーの活用事例(モデル事例)をもとに、別の地域や福祉施設への展開することができました。具体的に2カ所あり、1カ所目は重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重症心身障害のある人たちをケアする施設「和らぎ苑」(大阪府富田林市)と音色生成AIを活用した音楽制作を実施して、施設のなかで継続的なプログラムとして取り組めるように試行中です。2カ所目は児童教育施設「キッズドームソライ」(山形県鶴岡市)とMRを活用したワークショップを実施した後、鶴岡市内の福祉事業所や文化施設への展開を進めてい

ます。今後も生成AIなどさまざまな技術の活用を一緒に考えあうためのワークショップを開催しながら、次の地域や福祉施設の展開へとつなげていきます。展開していくにあたって、モデル事例を単にそのまま受け入れてもらうだけでなく、地域や施設のニーズに応じてカスタマイズできることや、地域や施設ならではの展開をできるように、考え方や実践をまとめた冊子を制作中です。冊子には、テクノロジーを導入する段階において大切にしたいこと、協力者を探してチームを醸成すること、実際に取り組むにあたっての工夫、持続するための心がけなどをまとめていく予定です。



シンポジウムを2025年3月に開催。*写真は昨年度の様子撮影：秋山まどか

事業実施における工夫

ポイント

福祉の現場の人たち(障害のある人や家族や施設職員など)がテクノロジーと「実験的」に関わることをするために、表現活動や芸術文化活動は大事なポイントになります。「実験的な関わり」とは、福祉の現場の人たちを被験者のような実験対象にすることではなく、表現活動を通してうまく行かないことも前提にしながら、あるいは失敗と捉えず別の意味を見い出しながら、「このテクノロジーを使って、自分たちの現場で何ができることが大切か」「自分たちのケアはどうありたいか」「このテクノロジーでよいのか」などを一緒に考えることができる関係です。表現とケアとテクノロジーのこれからを考えていくにあたり、テクノロジーによる福祉の支援だけではなく、テクノロジーとともに実験できる関係を意識しながら事業に取り組むことが重要だと考えられます。

事業名	戯曲表現が開く障がい者の表現と障がい理解 ＜プロ劇作家による伴走支援＞
団体名	特定非営利活動法人 鳥の劇場 所在地：鳥取県鳥取市 団体 URL：http://www.birdtheatre.org 事業 URL：https://www.birdtheatre.org/gikyoku-disability/
事業概要	鳥の劇場が継続している、障害のある人とない人が一緒に演劇創作を行う「じゆう劇場」を通じ、創作の場が作る物語への没入や他者との協働の経験が、障がいのある方の喜びとなることを目の当たりにしてきました。本事業は、この活動を戯曲創作に広げるもので令和5年度より取り組んでいます。自身の生活、思いや想像を込めた短編のオリジナル戯曲を全国から公募。令和5年度の応募は224作。素晴らしい作品もありましたが、モチーフはいいのに演劇の戯曲の書き方を知らないために、その可能性が生かされていない作品も多くありました。今年度はそれを踏まえ、一次選考を通過した9作品にプロの戯曲作家がZoomを通じて伴走支援を行いました。

本事業で実施した内容

選考委員会の設置

開催日：2024年5月20日
選考委員会：設置、公募条件やスケジュールの確認
大岡淳氏（劇作家・演出家・批評家）
大澤真幸氏（社会学者）
岡部太郎氏（社会福祉法人たんぼの家理事長）
坂本鈴氏（劇作家・演出家・劇団だるめしあん代表・劇作家女子会・リーダー）
森田かずよ氏（義足の女優・ダンサー）
永山智行氏（演出家・劇作家・劇団こふく劇場代表）
ロブ・ウルピナーティ氏（劇作家・クイーンズシアター（アメリカ・NY））
中島諒人（演出家・鳥の劇場芸術監督）

戯曲コンテスト実施の記者発表・HP公開・エントリー受付開始

開催日：2024年6月26日～

HPでの各種映像の公開

実施日：2024年6月26日～
戯曲の書き方のチュートリアルビデオ（日本語字幕・音声ガイド付き）
●劇作家 永山智行氏：事業HP上で公開
●劇作家 ロブ・ウルピナーティ氏：参加エントリー者に限定公開
戯曲の書き方ワークショップ記録映像
●劇作家 大岡淳氏：事業HP上で公開

公募作品受付

（応募者には、必ず参加エントリーをしていただきました）

開催日：2024年8月1日～9月30日

前年度受賞作品のリーディング上演・選考委員によるトークの開催・HPでの映像公開

開催日：2024年9月14日～16日
鳥の劇場が主催する「鳥の演劇祭17」のプログラムとして、鳥の劇場の俳優が令和5年度コンテスト入選全6作品をリーディング上演。また、16日には選考委員らが事業の取り組みを紹介するトーク「“障がい”を戯曲から考える」を開催。19日より、映像をHPで公開した。

一次選考・伴走支援作品決定

開催日：2024年10月15日
参加エントリー数：349名
応募作品数：192作品
応募者数：167名（うち、障害者手帳交付のある人が63名）
一次選考通過：12作品（うち伴走支援作品9作品）

伴走支援

開催日：2024年11月1日～12月19日
対象：一次選考を通過した伴走支援対象者9名

作品をより良くするための助言を行うZoomミーティング（伴走支援）を各自2回実施。
伴走支援を行なったのは永山智行氏、大岡淳氏、坂本鈴氏の3名。

選考委員会：受賞作の決定

開催日：2025年1月23日
受賞作品：5作品

表彰式・受賞作品リーディング公演

開催日：2025年2月22日
最優秀賞：「予言」石川祥子
優秀賞：「掴み合えハリネズミ」津森道満
入選：「釣り」せこ三平
「暗いところへ月をみにいく」モスクワカヌ
「わかめじゃないから」中野そてつ
受賞作品は、次年度のクイーンズシアター、鳥の劇場でのリーディング上演の上演候補作となる。

受賞作を掲載した記録誌・音声を記録したCDを制作・関係者に配布

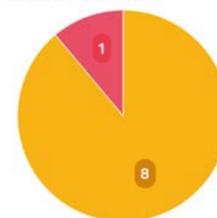


本事業で得られた成果

プロの戯曲作家による伴走支援の満足度は非常に高かった

プロの戯曲作家による伴走支援を受けた9名全員が、「満足」または「どちらかという満足」と回答しました。アンケートからは、作品の質向上だけでなく、創作体験そのものが前向きなものとなり、今後の発展が期待される取り組みであることが明らかになりました。

■満足 ■どちらかという満足



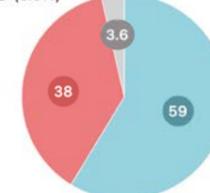
参加者からは以下のような声が寄せられました。
「添削時、必ずこう書き換えた方がいいというわけではなく、自分が表現したいことを汲み取ってアドバイスをいただいたため、伸び伸び執筆できた。今回の戯曲を書くにあたって、題にした障がいについて改めて考えるきっかけになったと感じる。」また、「障害当事者としては、自立した生活を最優先にしてきたが、今回の取り組みを通じて文化的な余暇の重要性に気づき、大きな影響を受けた。このコンテストは継続していただきたい。」との意見もありました。
さらに、「プロの劇作家の方にアドバ

イスをいただくことで見落としていた課題が明らかになり、作品をブラッシュアップできたことは意義深かった」「今回の支援者とのやり取りは、自分が望んでいた一つの題材を第三者と立体化する取り組みを実現させてくれた」「大きな流れや書きたい部分を把握する支援を受け、細部に固執しがちな自分が良い流れに乗れるよう助けていただけた」など、支援の具体的な効果が述べられました。

障がいの有無を問わず参加できるコンテストになっている

作品応募をした167名に障害者手帳の有無を尋ねたところ、63名が交付あり、98名が交付なし（記載なしが6名）との結果を得ました。極端に偏りがなく、障がいの有無を問わず参加できるコンテストになっていると考えられます。

■障害者手帳の交付を受けていない (58.7%)
■障害者手帳の交付を受けている (37.7%)
■記載なし (3.6%)



事業チラシ



伴走支援担当者による座談会



鳥の演劇祭17 昨年度作品リーディング上演の様子



鳥の演劇祭17 トーク「障がい」を戯曲から考えるの様子



今年度表彰式

事業実施における工夫

- 障害当事者、その問題に関心のある人が、自身の体験や思いを短編戯曲（芝居の台本）にし発表するということは、障害と社会の関わりを考える上で大きな意味があります。戯曲は人と人の関わりを描くものなので、小説やエッセイにはない強みがあります。極端な事を言えば、自分が社会で体験した困ったことや、うれしかったことをそのまま書けば、それで戯曲作品となります。ですので、障害をテーマにした短編戯曲創作は、我が国において、もっと普及していい分野だと思います。
- また書かれたものを、リーディング形式（役者が戯曲を手にとって、大きな動きをつけることなく読む）で発表するというのは、演劇としては比較的容易な上演です。表現する立場に多くの人々が参加できます（障害のある人も発表者になりやすい）し、観客も短編作品の多様な世界を、一定時間の中で楽しみ、体験することができます。これがもっと普及していくことも、日本社会にとっていろいろな意味で非常に有意義です。
- その支援に劇作家や俳優が加わることで、戯曲や発表の質が上がります。地方にも人材はありますし、ネットを使った遠隔支援も有効に機能しやすいと思います。

地域と共につくる島根インクルーシブシアター・プロジェクト2024

公益財団法人しまね文化振興財団

所在地：島根県松江市

団体URL：https://www.cul-shimane.jp/

事業URL：https://www.cul-shimane.jp/hall/event/?fid=10562

https://www.cul-shimane.jp/hall/event/?fid=10730 (松江公演)

障がいの有無に関わらず芸術文化に触れ、自ら表現する喜びを感じる機会と場づくりを目的に島根県全域で行うプロジェクト。地域状況やニーズに応じて、県東部ではダンスと音楽のワークショップ、鑑賞サポートつきライブ、養護学校や放課後等デイサービスへのアウトリーチを実施しました。県西部では、関係者間の連携の深まりと広がりを目指すオープンミーティング、養護学校へのアウトリーチ、劇場で誰もが安心して楽しめる音楽会を実施しました。

本事業で実施した内容

からだであそぼう、音であそぼう 障がいのある人もない人もいっしょに！ ダンスと音楽のワークショップ

開催日：インリーチ：2024年5月15日(水)
WS1回目：2024年6月15日(土)～16日(日)
WS2回目：2024年9月15日(日)～16日(月・祝)
場所：市内福祉施設(インリーチ)
島根県民会館(ワークショップ)
対象：障がいの有無に関わらずどなたでも
定員・参加費：各回20名程度 / 無料
講師：田畑真希、ハブヒロシ、多久和千絵、澁谷智志、中村理

実施内容

2016年から継続して実施している障がいのある人もない人も一緒に、ダンスや音楽を自由に表現するワークショップ。今年度は、事前に障がい者福祉施設の方を対象としたワークショップも開催し、これまでのダンス事業に参加した市民ダンサーがアシスタントとして参加。ダンスや音楽の表現を参加者一人一人が自分のペースで楽しめる場をつくることができました。



ダンスワークショップ

「にぎやかな日々」松江公演、益田公演

開催日：松江公演：2024年10月27日(日)
益田公演：2025年2月2日(日)
場所：島根県民会館(松江公演)
グラントワ大ホール(益田公演)
対象：障がいの有無に関わらずどなたでも
定員・参加費：200名(松江公演)、150名(益田公演) / 無料
出演者：馬喰町バンド、ワークショップ参加の子どもたち(松江公演)
ジャイアントポップコーン、くじらの他(益田公演)

実施内容

ユニバーサル公演「にぎやかな日々」を島根県内2か所で開催。松江公演では「馬喰町バンド」の鑑賞サポート付きライブ、ロビーでは県立大学生によるアート体験、県内福祉事業所によるマルシェなどを実施しました。「馬喰町バンド」のさまざまなルーツからなる多様な音楽表現は、観客の年齢や障がいの種別などをこれまで以上に広げ、それぞれの楽しみ方で参加できるライブになりました。2月2日には益田公演を、これまで以上に幅広い地域の方々と連携し、サポートを提供しながら実施します。

まちと福祉と芸術文化についてのオープンミーティング

開催日：①2024年6月23日(日)、②2024年11月9日(土)
場所：①グラントワ多目的ギャラリー(益田市)
②アルマーレキアーミ(益田市)
対象：福祉、芸術、まちづくりなどに関心のある方
定員・参加費：①②各30名 / 無料



まちと福祉と芸術文化についてのオープンミーティング

実施内容

①県内外の事例発表の後に、参加者同士が挑戦したいアイデアや実施した企画を出し合い、多分野ネットワークの基盤づくりの場とすることができました。ゲストスピーカー：藤原顕太(一般社団法人ベンチ)
②感覚をひらくワークショップの後に、音楽会「にぎやかな日々」を障害に関わらず楽しめるようにするために熱心に意見を交わしました。
ファシリテーター：師井恭子(音楽療法士)ほか

本事業で得られた成果

事業継続による人材育成と関心の広がり

○2016年から継続している目の不自由な方と一般市民参加のダンス事業では、知的障がいの方にもダンスや音楽の楽しさを体験していただくために、講師と共に事業所に出かけてワークショップ(インリーチ)を実施しました。その際、長年一般市民ダンサーとして当事業に参加し

ている方々数名が、講師のサポート役として参加しましたが、今までの経験を生かして一人一人の障害に合わせた行き届いたサポートを見事に実践する姿が見られました。○これまで当プロジェクト事業を継続実施し、他の劇場職員や福祉関係者、当事者にも事業案内を積極

的に行って、公演の鑑賞や視察、研修会へ参加していただきました。その結果、他の市町ホールや関係団体からの相談や問合せが増えてきており、確実に障がい者等の文化芸術活動や鑑賞サポート等への関心が、この地域にも広がりつつあると実感できました。

関係者の自主性の高まりとそれを活かした事業展開

○11月のオープンミーティングで音の小作品を発表した参加者が2月2日の音楽会で発表することになり、参加者が自発的に取りまとめ役となり調整してくれました。オープンミーティングや音楽会の取り組みを継続的に行ってきたからこそ意識の高まりだと思われま。○2月2日の「にぎやかな日々」へ向けて、要約筆記者・手話通訳者とこれまでの関係性をベースに一歩進ん

で、出演者やスタッフと一緒に作り上げる気持ちで関わってもらおうよう相談したところ、新たなアイデアをもらって調整を進めています。関係者の関わり方もより積極的で深いものになり、財団だけではできない事業展開ができてきたと考えています。○地域に対する波及効果の意味では、別事業の公演でも車いす席や介助者席のお問い合わせが増えていま

す。事前の下見など調整の結果、できるだけ良い形で鑑賞ができて喜ばれることがほとんどです。社会全体の流れもあると思いますが、バリアフリーの取組を自主事業として継続してきていることは、劇場としての姿勢を表すメッセージとしても伝わっているのではないかと思います。



にぎやかな日々 in 松江



放課後等デイ施設アウトリーチ



益田養護学校アウトリーチ

事業実施における工夫

西部では、地元の音楽療法士が行うセラピーやワークを職員が体験させてもらいました。当事者の普段の様子や現場を知ることで事業目的が明確になり、関係者の意識が高まりました。

東部では、これまでのダンス事業は視覚に障がいのある方と一緒に取り組んできました。昨年度から他の障がいのある方にも参加してもらおうと思い案内しましたが、新しい方の参加はあまり見られませんでした。今年度は、福祉事業所2か所に講師のダンサーや音楽家と出かけて、ダンスと音楽の魅力体験ワークショップ(インリーチ)を初めて実施しました。参加した利用者や職員にも喜んでもらい、後に劇場で開催したダンスと音楽のワークショップに数名の申込がありました。しかも月を分けて2回、全4日間すべてに参加していただき「このワークショップを楽しみに毎日過ごしている」との言葉もいただきました。

事業名	四国・中国・近畿ブロックの重度障害児者を対象とした芸術文化活動 「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」
団体名	国立大学法人 愛媛大学 所在地：愛媛県松山市 団体 URL：https://www.ehime-u.ac.jp/ 事業 URL：https://ehimeuniv-cie.jp/syogai_gakusyu_bunkageijutsu/
事業概要	四国・中国・近畿ブロックの重度の運動障害と重度の知的障害を併せもつ重症心身障害児者および重度知的障害児者を対象に、個別活動の機会を提供する「訪問カレッジ」と、他者と学びを共有する集団活動の機会である「オープンカレッジ」を企画・運営しました。「訪問カレッジ」では、利用者一人ひとりに合わせた方法で、作品作りや歌・演奏といった表現活動を実施しました。「オープンカレッジ」では、地域の伝統産業や芸術・スポーツに触れることができるイベントを企画しました。個別訪問支援を含んだ多様な活動を通じ、重度の障害があっても、主体的に文化芸術活動に参加できる社会や体制の構築を目指しました。

本事業で実施した内容

訪問カレッジ

開催日：2024年4月から2025年2月において、利用者の希望日を調整の上、2～3ヶ月に1回程度実施
場所：愛媛県を中心とした利用者(カレッジ生)の希望する場所(ご自宅や利用施設)や愛媛大学等
対象：四国・中国・近畿ブロックの重度運動障害と重度知的障害を併せもつ重症心身障害児者および重度知的障害児者を対象に、随時「入学」受付をしています。
参加費：無料

実施内容

活動例

- 砥部焼絵付け**：愛媛県の伝統工芸「砥部焼」の絵付け体験を実施しました。筆やスポンジなどカレッジ生一人ひとりに合わせた方法で、絵付けを行いました。
- ペンタブレットを使用した描画**：ペンタブレットを用いることで、少ない筆圧でもはっきりとした線を描くことができ、鉛筆やペンで書くよりも負担が少なく活動できました。集中して長時間活動する様子からは、好きなことに熱中できる楽しさが伝わってきました。
- ゆめ水族園**：壁や天井に水族館の映像を投影することができる「ゆめ水族園」のファンタスカーをお借りしました。大迫力のタコやシロクマに驚いたり、ゆったりとした音楽ときれいな映像に心地よさを感じたりしました。
- オンラインでの活動**：オンライン会議システムを用いて事前学習を行い、ご自宅に制作キットを送付しました。事前学習でお伝えした方法や注意点を振り返りながら、活動に取り組んでいただきました。



オープンカレッジ in 今治の様子



地元のプロスポーツ選手とeポッチャで対決!



クレッシェンド@愛媛大学

オープンカレッジ

愛媛大学や地域の社会教育施設に、カレッジ生が集まって活動する取組みです。

○オープンカレッジ in 今治

開催日：2024年7月15日
会場名：かわら館・北条ふるさと館
実施内容：愛媛県今治市の伝統産業である「菊間瓦」の製作体験を行いました。かわら粘土に手形・足形を押したり、石膏型を使って成形し、粘土の冷たさや硬さを感じました。

○オープンカレッジ@愛媛大学

開催日：2024年8月9日
会場名：愛媛県身体障がい者福祉センター
実施内容：オープンカレッジ@愛媛大学に参加し、スイッチ等で操作するeポッチャの試合に参加しました。地元のプロ野球選手との対戦にも勝利し、仲間とチームでスポーツを行う楽しさを感じました。

○オープンカレッジ@まるのつどい

開催日：2024年11月9日
会場名：愛媛大学
実施内容：着物の着付け体験を行いました。七五三や高校卒業・成人の記念に、晴れ着をきて記念撮影をしました。

○クレッシェンド@愛媛大学

開催日：2024年11月10日
会場名：ひみつジャナイ基地
実施内容：県内で活躍する作曲家やDJの方に協力していただき、楽器やDJアプリを用いて、合奏しました。みんなと一緒に音楽を作り上げる体験を通して、表現するのを楽しみました。

本事業で得られた成果

伝統産業に触れて、もっと地域を知っていきましょう!

今年度は「地域の伝統産業を知ろう!」をテーマに、訪問カレッジでは砥部町の伝統工芸「砥部焼」の絵付け、オープンカレッジでは今治市菊間町の伝統工芸「菊間瓦」の製作を行いました。愛媛県内で暮らしていても、居住エリアによってはこれらの制作活動を体験したことがないカレッジ生も多

く、地元の伝統工芸品に親しみを持つきっかけとなりました。県内には、まだまだ魅力的な伝統工芸・伝統産業が数多くあります。利用者が生活する地域への理解をより深めていけるよう、今後も訪問カレッジやオープンカレッジの活動に取り入れていく予定です。



菊間瓦製作の様子

車椅子に乗ったままで着れる着物で広がるカレッジ生の笑顔

カレッジ生の中には七五三や成人を迎える方も多く、人生の節目となるハレの日の記念に着物を着たいという希望がありました。重症心身障害等の方は、立位の保持が難しく一般的な着物を着ることは難しい場合があります。そこで、車椅子に乗ったまま着付けができるセパレートタイプの着物の提供・着付けを行なっている石川県バリアフリーツアーセンター「KIMONALL」のスタッフさんを講師にお招きし、着付

け体験を行いました。参加者は、振袖や袴を着て、同級生やご家族と記念写真を撮影されたり、同じ日に開催されていた愛媛大学の学生祭を散策したりされていました。「友人たちと着付け体験などができ、たいへん楽しい時間で、学祭の日ということもあり、賑やかで活気があり良かったです。」といった感想が寄せられており、同世代の友人と集まって年代に応じた活動をするの楽しさやワクワクが伝わってきました。



成人の記念に友人と

オープンカレッジで仲間とつながる・興味が広がる

対面でのオープンカレッジを複数回実施したことにより、カレッジ生同士が出会う場を創出することができました。参加者の年代は幅広く、同年代の交流のみならず、年代が異なる参加者との交流が生まれたことにより、普段の生活だけではあまり会うこと

ができない先輩の生活を知ることができ、ロールモデルに出会える貴重な場となりました。またプロスポーツ選手や作曲家、DJの方をゲスト講師にお招きすることで、新たな文化芸術活動への興味・関心を広げることができました。



年代の違う参加者同士の交流

ポイント

事業実施における工夫

ご自宅や愛媛大学での活動実施ではなく、地域の社会教育施設や公共のオープンスペース等の様々な場所で参集型の取組みであるオープンカレッジを実施しました。この取組みを通じて、重症心身障害等の方が地域社会の中で文化芸術活動に参加することができる機会を提供することができました。

事業名	わたしの幻聴幻覚プロジェクト
団体名	NPO 法人シアターネットワークえひめ 所在地：愛媛県松山市 団体URL：http://tne-ehime.org/
事業概要	精神疾患、精神障がい、五大疾病のひとつに関わらず、差別と偏見の対象となってきました。そのことで精神疾患本来の困難だけでなく、日常生活や社会生活、多くの人が当たり前を描く未来にも様々な生きづらさを伴っています。当会では、病気や障がいにとらわれず、一人ひとりが尊重される社会の実現にはどのような機会が必要か模索続けてきました。今年度は、精神疾患・精神障がいのある人たちが言えなかった言葉、取り組んできた創作活動、それぞれの思いや日常の一端を演劇によって表現しました。精神疾患・精神障がいについて知ることは「他人事にしない」社会にしていけるための活動です。

本事業で実施した内容

表現ワークショップ

幻聴幻覚ワークショップに演劇的な手法を加え、オリジナル作品づくりのためのワークショップを実施しました。

開催日：2024年6月～8月 6回開催

場所：地域活動支援センターステップ及びシアターねこ
参加人数：55名

参加費：無料

講師：有門正太郎(俳優、演出家、劇作家)

「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう」公演

松山市内の施設に通う精神疾患・精神障がいのある人たちが、言いたかったけど言えなかったこと、地道に取り組んできた創作活動、それぞれの思いや日常の一端を演劇で表現しました。

開催日：2024年8月24日(土) 13:00～15:30(開場 12:30)

場所：シアターねこ(愛媛県松山市緑町)

来客数：80名

入場料：無料

チラシイラスト：MOCOLIN

○第1部 13:00～14:30

「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう」公演

演出・出演：有門正太郎

出演：地域活動支援センターステップメンバー8名
就労継続支援B型事業所風のねこメンバー3名
小倉朋子(俳優)

○第2部 14:45～15:30

出演者やゲスト(アーティストや研究者)を迎えて会場とのクlostーク

出演者：有門正太郎、地域活動支援センターステップメンバー及びスタッフ、就労継続支援B型事業所風のねこメンバー

ゲスト：飯山由貴(オンライン(美術作家)、大澤寅雄(アートNPOリンク)、槇原彩(成蹊大学)

松山×横浜交流プログラム (OUTBACKプロジェクトとの交流)

幻聴幻覚ワークショップを演劇的な表現に展開していくための学びとして、OUTBACKプロジェクトと交流し、互いに刺激し合い障がいの苦悩や問題なども共有しました。

○横浜開催

開催日・場所：2024年5月11日 反町地域ケアプラザ
2024年5月12日 男女共同参画センター
横浜フォーラム

講師：中村マミコ(OUTBACKアクターズスクール校長)

参加者：OUTBACKメンバー及びスタッフ、有門正太郎、風のねこメンバー及び事務局

参加費：無料

内容：OUTBACKプロジェクトメンバーの経験をワークショップに反映させながら、作品に積み上げてられていく様子を体験しました。

○松山開催

開催日：2025年2月11日(火)、2月12日(水)

場所：松山市男女共同参画推進センターコムズ(松山市三番町)

講師：有門正太郎

参加者：OUTBACKメンバー及びスタッフ、愛媛県内に住む精神疾患・障がい者、支援者など

参加人数：のべ67名

参加費：無料

内容：OUTBACKメンバーとの交流は、表現するハードルを越えて演劇の楽しさに変換されていました。

研究者による座談会

幻聴幻覚プロジェクトの取り組みについて振り返り、課題や今後の可能性について話し合いました。

開催日：2025年2月11日(火) 10:00～12:00

場所：就労継続支援B型事業所風のねこ(愛媛県松山市三番町)

ゲスト：大澤寅雄(アートNPOリンク)、槇原彩(成蹊大学)、イブキスミレ(鑑賞者)

鑑賞機会

創造機会

発表機会

作品評価

権利保護

販売支援

交流促進

相談体制

人材育成

情報収集

連携協力

本事業で得られた成果

自分で自分を演じる

精神疾患・精神障がいのある人は、この病気になったことで自己実現の機会の多くを奪われてきました。今回、舞台に出演した人たちは、自身の暮らし、趣味、大切にしていること、病気になった驚きや戸惑い、その変化などをその人

の言葉や身体で表現しました。その姿を観客は、自身の日常への様々な問い直し、また共感もあったと思います。その一連の行為は、文化芸術を深化させるとともに当事者の人たちの奪われてきた権利を復権することに繋がります。



交流プログラム

ピアのちからで表現する楽しさに変換

OUTBACKの人たちとの交流では、精神疾患・精神障がいという同じ課題や体験を共有していることで得る安心感や自己肯定感で会場は満たされていました。そのことによって表現

のハードルが低くなり、参加した人たちは生き生きとした表現とともに心の残る体験をしました。ピアの持つ力をより一層意識することができました。



交流プログラム

精神疾患・精神障がいのある人の人生の時間と文脈の中でその人を理解していく

一般的に精神疾患・精神障がいのある人たちの病気やその困難、そしてその人らしさについて知る、考える機会は多くありません。公演に足を運んだ人たちは、当事者の人たちが普段どんな風に

過ごしていて、何を大切に思っていて、どのような考え方の変化があったのか、その暮らしや語りからその人らしさにふれました。それは他人事にしてきた自身と向き合う機会だったかもしれません。



公演1部

自己と他者を区別しながら、その違いを守る人たち

このプロジェクトには、当事者と専門職以外にアートと福祉の領域を往還する人たちが介在しています。介在した人たちは、当事者の人たちの配慮だけでなく、その人たち自身の居心地のよさを育み、ほどよい境界線を模索していきます。やがて健常と障がいといった境界線ではなく、自分とは異なる別の存在としての個を受け入れ尊重する関係性を築いています。



表現ワークショップ



公演1部



公演2部

事業実施における工夫

演劇と福祉のそれぞれの専門職をいかしたネットワーク

劇場と福祉施設が隣接している環境のため、それぞれ違う分野の専門職が出会い、交流しながらの事業はさらに次の出会いとなり、この事業がなければ出会わなかった人たちによるリスペクトに繋がっていきました。

事業の客観的な視点

プロジェクトに研究者が参画し、客観的な視点での意見を求め、他分野の事業の学びや事業の見直し、振り返りを行い、今後の事業への課題としました。

ポイント

事業名 共生社会へチャレンジ IN FUKUOKA

特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡

所在地：福岡県福岡市
団体URL：https://amcf.jp/

事業概要

地元のアーティストとのつながりや、文化施設の指定管理に携わっている強みを活かし、アウトリーチ事業の実施や、それぞれの身体的特徴の違いとともに創作を行い、障がいだけにとられず、その場集った人々と、出会い、関わりを深める事業を行いました。以前より実施している、様々な背景を持つ人々の舞台芸術活動発表公演のピープルアートパフォーマンスでは、昨年度、実施して好評だったオノマトペなどを使った演出により、会場の観客との一体感や双方向性を生み出し、障がいの有無や、ステージと客席などの境界をなくしていきます。これらの活動を通して、表現活動や作品鑑賞の機会を増やし、それぞれの違いをそのままに、共にある社会を目指しています。

本事業で実施した内容

文化施設における障がいのある人々を中心としたダンスのWS

開催日：2024年7月19日(金)、8月2日(金)、8月30日(金)、9月13日(金)、9月27日(金)
全5回

場所：福岡県立ももち文化センター(福岡市)

対象：表現することに興味のある障がいと共に生きる方

定員・参加人数：募集定員15名程度 / 参加人数10名

参加費：無料

実施内容

前年度と同じアーティストにファシリテーターを依頼し、参加者各々から生まれてくる表現を取り入れながら、ダンスを創るワークショップを実施。参加者の好きなものを身体で表現していくダンスや、ティッシュなどの身近なものや踊るダンスなど、個性がいきる内容となり、参加者の満足度も高かったです。また、同席している保護者やスタッフも共に踊る時間が毎回あり、関わる全員と近しさを感じることでワークショップとなりました。



「ももちダンスワークショップ」

障がい者の創作活動を担う人材の発掘

開催日：2024年12月7日(土)

場所：ぼんプラザホール(福岡市)

対象：16歳以上ならどなたでも

定員：20名

参加人数：19名(うち視覚障がい当事者4名)

参加費：無料

実施内容

『いろんな「ちがひ」と共に演劇を創ってみる』こと目的に、今年度は視覚と聴覚のワークショップを行いました。目の見える人、見えない人、見えにくい人、参加者みんなでいろんな表現を「共にやってみる」出会いのワークショップの3つのうちの「ダンス」編。「安全」な場であるための会場説明や、自分の身体が無理な動きをしていないか、など、いろんなちがひがある人と、創作に取り組む際に大事にしたいことを、みんなで確認することができるワークショップとなりました。自由に踊ることに慣れていないという参加者も、自分の身体にあらためて向き合うような時間を過ごし、最後には「この日この場所だけのオリジナルダンス」が生まれました。



視覚「いろんなみえかたに出会う いろんな表現に出会う」

鑑賞機会

創造機会

発表機会

作品評価

権利保護

販売支援

交流促進

相談体制

人材育成

情報収集

連携協力

本事業で得られた成果

様々な表現活動が、それぞれの場で徐々に根を伸ばす

昨年度に続き実施した「手話劇への演出家派遣」や「障がいと共に生きる人たちのダンスWS」では、関わるアーティストの強みを活かした活動を行い、その結果、内容の充実度や参加者の満足度も高まりました。

初年度は手探りの部分もありましたが、今年度は、「手話劇」ではアーティストが事前の戯曲講座を行うことで、脚本に対する生徒たちの関心が高まり、意欲的な作品が作られました。「ダンスWS」では最終回にそれまでのダンスの要素をまとめたプチ発表会を行う

ことで、参加者の意欲が掻き立てられ、3月のピープルアートパフォーマンスへの出演と追加のWSが決まりました。

特別支援学校中学部でのWSでは、学校の運営事情が影響を及ぼす部分もありますが、いつもと違う表情や動き、また新たな一面を発見することができるのは、表現活動ならではの評価いただき、次年度以降の定着へ向けた一歩を進めることができました。また、教育委員会や生涯学習課の担当者が事業の様子を見学に来るなど、この事業への理解・関心が高まっている様

子が伺え、今後はそのような自治体とも協力して、新しい展開を生み出していきたいと考えています。



「ももちダンスワークショップ」プチ発表会大団円

障がいの種別や有無に限らない場が少しだけ近付いた

一方、今年2年目を迎えた「いろんなちがひと共に演劇を創ってみる」事業は、内容を広げること、深めることを行っています。昨年は聴覚障がいの方々と、今年は視覚障がいの方々の活動へと、その輪を広げています。当事者だけでなく、ファシリテーターやアシスタント、他の参加者が視覚・聴覚の両方に関わることで、「いろんなちがひ」のある人が全員集う場へと、少しずつ近づいています。

いろんな人と、いろんな楽しみ方、関わり方で表現を楽しむ場として実施しているピープルアートパフォー

マンスも、昨年より観客と舞台・作品を繋ぐ案内人が登場し、客席と舞台の境界をなくすことを目指した演出を行っています。

この一年、県内で障がいがある人たちの取り組みや、鑑賞環境への配慮など、障がいがある人々と表現活動の動きが、以前と比べて活発になってきていると感じます。その活性化の一部には、私たちのように小さくても活動を継続してきたことの成果があると思っています。これからも互いに刺激し合い、知恵を出し合い、より豊かで面白い活動へと広げていきたいです。



ピープルアートパフォーマンス vol.6 チラシ

事業実施における工夫

ポイント

私たちは、福岡で20年、地元舞台人支援を中心に活動を続けてきました。社会包摂に係る事業についても、これまで多くの方に助言や支援をいただけてきました。そのような中で生まれた人との繋がりが、大きな強みです。

例えば新しい事業担当者を自分たちだけで育てることは容易なことではありませんが、身近に同じような活動を続ける仲間がいて、相談する関係性があることで、新たな視点や考え方、アーティストと出会い続け、成長していきます。

また、当事者やその周りの方々と会って話すことも欠かせません。一見無駄な話の中に、本当の悩みや気がかりなことが紛れているので、タイプ、と言われていたりする中ですが、無理のない範囲で直接的なコンタクトを取るように心がけています。

事業名	PDダンス®の普及事業
団体名	一般社団法人パラカダンス 所在地：福岡県福岡市 団体 URL：https://www.facebook.com/paracadance 事業 URL：https://pddance.jp/
事業概要	本事業は2019年度～2023年度の5年間継続してきた「パーキンソン病患者によるダンス活動」を独自に「PDダンス®」と名付け、2024年からは「PDダンス®の普及事業」として全国展開を進めているものです。これまでの取り組み(過去の事例集を参照)においてオンラインでの実施を継続してきたことで、全国各地の参加者(当事者)たちによる企画が立ち上がり、2024年度に招聘していただく機会が増えたことは大きな特徴です。それに伴う協力団体も増えているこの機会を契機とし、各地のメンバーが独自に展開していけるような仕組みづくりにも取り掛かり、誰もがどこにいても文化芸術を通じて生き生きと活躍できることを証明し続けていきたいです。



本事業で得られた成果

当事者主催のイベントに招聘され、郷土芸能の凄みを実感!

コロナ禍のお蔭で始めることになった「月イチPDダンス」のオンライン参加者は全国各地や海外在住の方にまで及んでいます。その中でもオンライン開始直後からご参加いただいているのが、徳島のみなさま。いつもムードメーカーとして場を盛り上げてくださっています。そんな皆さまが今年度、ご自身たちで地元助成金を獲得し、何度もオンラインでの打ち合わせで準備を重ね、パーキン

ソン仲間の会の10周年記念イベントとして「PDダンス」を招聘してくださいました。当事者ならではの視点で、会場には休憩コーナーも十分に設置しており、設営に関して大変勉強になりました。最後に阿波踊りの音楽が流れると、それまで椅子に座っていた男性がすくっと立ち上がり、一瞬で「阿波踊り」のフォームになり、なんと華麗に舞い始めた姿は今でも忘れられません。



「PDダンスin徳島」の様子
撮影：泉山朗士

本事業で実施した内容

PDダンスアウトリーチ

開催日：2024年5月18日(土)
場所：徳島市(シビックセンター さくらホール)
対象：パーキンソンと共に暮らす方々
参加人数：47名
参加費：無料
協力：パーキンソン仲間の会オリーブ

実施内容

パーキンソン仲間の会オリーブの10周年記念イベントとして招聘されました。PDダンスの活動についての講演のあと、実際に皆さんとPDダンスを踊り、最後には阿波踊りで大いに盛り上がりました。

PDハウスダンスアウトリーチ

開催日・場所：2024年8月29日(木)/PDハウス西東京
8月30日(金)/PDハウス足立・PDハウス南与野
2025年1月11日(土)/PDハウス西野(北海道)



PDハウス西野(北海道)での実施の様子
撮影：泉山朗士

PDダンスカフェアウトリーチ

開催日：2024年11月15日(金)・11月16日(土)・12月21日(土)
場所：15日 / 芸術文化観光専門職大学
16日 / 東広島芸術文化ホールくらら
21日 / 岡山芸術創造劇場 ハレノワ
対象：パーキンソン病と共に暮らす方々
参加人数：15日 / 10名(取材、見学者等含めて30名程度参加)
16日 / 21名
21日 / 38名

実施内容

これまでにご縁をいただいた地域へ、福岡県内で実施してきた「PDダンスカフェ」をお届けしました。パーキンソン病のレクチャーから始まり、PDダンスを体験して身も心も開放的になった参加者は、各会場の地域色も豊かに最後の相談・交流タイムで話が尽きない様子でした。

PDダンスファシリテーター養成講座<第二期>全4回

開催日：2024年6月1日(土)・7月13日(土)・10月5日(土)・11月9日(土)
場所：福岡市内スタジオ・ZOOM
対象：ダンスを踊ったことがある方(ジャンル不問/レッスン含む)で、パーキンソン病の方、そのご家族や介護者等の支援者、医療や福祉関係者でダンスを用いてリハビリを行いたい方
※ダンス指導経験は必要ナシ
参加費：各回3,000円
講師：マニシア

実施内容

PDダンスの普及を進めるため、座学と実践を含む講師養成講座を実施しました。前回はダンサーのみの参加でしたが、今回は、当事者やそのご家族の参加が目立ちました。小さなコミュニティーからでもその輪が広がることを期待しています。

全国展開始動!仲間が増えて本番出演者は過去最多人数に!初参加で初出演の方も

各地のPDハウスや文化施設、大学などに訪問し、これまで、オンラインのみでしか参加が叶わなかった方々や新たにご縁を結んだ方々に直接PDダンスをお届けすることが叶いました。これまでオンラインで参加していたPDハウスの参加者の中には、「オンラインも生も最高!」と初対面で感激のあまり涙する方も、逆にこの訪問をきっかけに、新たにオンラインで参加してく

ださることになった施設も増えました。初心者向けの「PDダンスカフェアウトリーチ」でも、各地で新しい仲間に出会い、その後オンラインでの参加を継続してくださっています。さらに、今回の成果発表の舞台には15名が現地に、20名がオンラインにて出演!オンライン出演者それぞれのお宅にも衣装とし

てハットをお届けし、過去最多出演者数で大いに盛り上がりました。その中には「仲間と一緒にだから」と一念発起して北九州市から初めて福岡市内の劇場に向かい、現地参加して下さった方、初参加で舞台出演を果たした方もいらっしゃる、「舞台のチカラ」を改めて痛感しているところです。



「PDダンスカフェin岡山」の様子
提供：岡山芸術創造劇場



「PDダンスカフェin豊岡」の様子
撮影：泉山朗士



PDダンスカフェin東広島の様子
撮影：泉山朗士

事業実施における工夫

本拠地以外で行うイベントの際、特に難しいのは広報です。どうしても現地の皆さまにお願いすることが増えてしまいます。が、その際助けになったのが各当事者団体の存在です。パーキンソン病の場合、全国に友の会がありますが、ご高齢の方が多く、うまく機能していないところも多い反面、地域によっては若年層を中心に自ら別のグループを作って活動している方も多く、その方々とのつながりを持たせたことは心強かったです。各地でのイベントでは、タイトルを親しみやすいものに変えた方が良いという協力団体からの提案の元、現地の言葉を使ったタイトルを追加したりもしました。また、ご高齢の方との連絡手段のほとんどが電話になってしまうことや個人情報の管理の為に、連絡窓口を一本化したり、運営マニュアルを制作したりするなど、各協力団体との連携には丁寧に進めるよう努めました。さらに、全国の当事者や家族が集まる「パーキンソン病コンgres」に出向いて、直接チラシを渡したりご説明したりもしました。コンgresにはオンラインのPDダンスに参加して下さっている方もいて、オフ会のような状態で対面を喜び合えたことは大きな収穫でした。

ポイント

事業名	「ゆいまーるミュージックプロジェクト」
団体名	一般社団法人 琉球フィルハーモニック 所在地：沖縄県那覇市 団体 URL：https://ryukyuphil.org/ 事業 URL：https://churasoundsconcert.wixsite.com/churasounds2024
事業概要	障害のある方とその家族が安心してコンサートを楽しめる環境を目指し、「ゆいまーるミュージックプロジェクト」を結成。石垣島で「美らサウンズコンサート」を開催。また、障害のあるアーティストの活動機会を広げました。他にも、これまでの5年間の活動を振り返るトークセッションを大阪堺市で実施。さらに、本事業の様子やノウハウをまとめた冊子を全国に配布し、文化芸術をととした共生社会の実現を推進します。

本事業で実施した内容

トークセッション「美らサウンズコンサート」の5年間とこれから

開催日：2024年9月7日
場所：国際障害者交流センター ビッグ・アイ
対象：一般（障害当事者含む）
定員・参加人数：募集定員50名 / 参加人数23名
参加費：無料

実施内容

取り組んできた5年間の活動総括と、国際障害者交流センター ビッグ・アイの先進的な事例紹介を交えながら、今後の全国展開に向けて堺市で「トークセッション『美らサウンズコンサート』の5年間とこれから」を開催しました。



トークセッション1



トークセッション2



観客



車椅子観客



ゲスト 琉-RYU-

美らサウンズコンサート 2024 in 石垣島

開催日：2024年12月1日
場所：石垣市民会館
対象：全ての障害・難病のある方、ご家族・介護の方等、一般の方
定員・参加人数：募集定員250名 / 参加人数265名
参加費：無料

実施内容

「ゆいまーるミュージックプロジェクト」の協議内容に沿ったコンサート運営を行いました。客席前方にフロアーマットを敷き、オーケストラの前にフリースペースを設置しました。また、車椅子は客席の真ん中の通路側に配し介助者と並んで座れるよう考慮し、ストレッチャー席は客席前方両脇の広いスペースに配したゾーニングを行い、ゆったりと鑑賞できる客席づくりを行いました。また聴覚障害者の方のために琉球補聴器さんの御協力で最新のFM補聴援助システムを活用させていただきました。会場に2名の看護師（プロボノ）を配置するなど、安心して鑑賞できる環境づくりに取り組みました。

公演内容

出演者：指揮/金井俊文
ナビゲーター/當銘直美
ゲスト/琉（唄・三線）/視覚障害/在石垣市
演奏/琉球フィルハーモニックオーケストラ
曲 目：「春初めてのカッコウの声を聴いて」/ディーリアス
歌劇「セビリアの理髪師」序曲 /ロッシーニ
「鍛冶屋のボルカ」/ヨゼフ・シュトラウス
「タイプライター」/ルロイ・アンダーソン
リラックスタイム リズム遊び 赤羽一則（打楽器奏）
ゲストコーナー 琉-RYU-(唄・三線)
「安里屋コンタ」/竹富島古謡 編曲：新垣雄
「ニライカナイ」/作詞・作曲：琉-RYU- 編曲：新垣雄
ゲーム音楽「The Final Time traveler」/坂本英城
「クシコスポスト」→「道化師よりギュロップ」→「剣の舞」
アンコール 映画「エデンの東」より
「メインテマ」/ピクチャー・ヤング

鑑賞
機会創造
機会発表
機会作品
評価権利
保護販売
支援交流
促進相談
体制人材
育成情報
収集連携
協力

本事業で得られた成果

これまでの総括と今後に向けて

堺市で「美らサウンズコンサートの5年間とこれから」と題したトークセッションを開催し、5年間の活動を総括するとともに、国際障害者交流センター ビッグ・アイの先進事例を紹介しました。会場には聴覚障害当事者、福祉関係者

や音楽関係者など多様な参加者が集まりました。ビッグ・アイの「劇場って楽しい!!」といった体験プログラムは、今後の展開にとって参考となりました。トークセッションでは、障害者の文化体験の現状

や新たな取り組みが紹介され、全障害種に対応する難しさと、試行錯誤を重ねながら鑑賞環境を整える重要性が再確認できたとともに、今後の全国展開の方向性を見据えた貴重な学びの機会となりました。

選曲から会場づくりまでバリアフリー化を実現

コンサートでは、音楽療法士のアドバイスによる選曲や、情報保障として色覚障害者に配慮したチラシ、点字プログラム、手話通訳、UDトークの活用など多様な工夫を実施。ゾーニング

により自由な姿勢で鑑賞できるスペースや、演奏中の出入りも自由としました。中盤には打楽器パフォーマンスを挟み、リラックスした雰囲気を持。聴覚障害者向けにFM補聴援助シス

テムを導入し、どの席でもクリアな音質を提供。会場におむつ交換場所がない問題には舞台裏を活用し対応。これらの取り組みで、安心して参加できる鑑賞環境を整えました。

開催地域等との連携

本事業6年目の今回は、石垣島で離島公演を実施。障害者福祉サービス事業所経営者を現地コーディネーターに起用し、教育委員会や福祉課、特別支援学校などとスムーズに連携。さらに就労支援事業所等への公演周知など広報の面でも大きな力となりました。ボランティアとして地元高校生や一般、

八重山特別支援学校の教員や校長も参加し、ゆいまーるミュージックプロジェクトメンバーの統括により、体制づくりを行いました。石垣第二中学校からは打楽器提供や運搬の協力を得ました。これらの多様な連携のもと、ほぼすべての障害種の方々が来場する公演となりました。



ボランティア

芸術鑑賞の機会が増えるだけでなく相互理解や交流が深まる

出演者と鑑賞者の垣根をなくしたコンサートを通じて、障害のある人々の芸術鑑賞機会の増加や来場者同士

の交流、アーティストの活動機会拡大、音楽家間の相互理解が深まります。また、オーケストラメンバーの障害へ

の理解が鑑賞環境の改善に繋がり、学生ボランティアの福祉理解も進むなど、多面的な効果が期待されます。

これまで得られたノウハウを他地域でも活用できるようにしたい

全国でバリアフリーなコンサートを広めるため、初回公演から毎年ノウハウをまとめた冊子を福祉団体や主要

ホール、プロオーケストラ等に配布。今年度は那覇市主催の公演が実現し、県内外からの相談にも対応しました。

また、宮古島での公演企画も進行中で、少しずつ波及効果が広がっています。

事業実施における工夫

ポイント

現地コーディネーター等のネットワークを活用し、自治体や福祉団体と連携した細やかな準備が成功の鍵となりました。

また色覚障害者に配慮した色使いのチラシや点字プログラム、手話通訳、UDトークなどを活用し、障害種に応じた情報保障支援を実施。さらに、音楽療法士の助言を元にした演奏曲順や、中盤にリズム遊びを導入したリラックスタイム、オーケストラメンバーへの障害特性理解の促進等、鑑賞環境を整備し、多様な障害特性に対応した取り組みを行いました。

事業名 音楽体験を通じた不登校児童生徒の社会的接点を作る音楽プログラムの開発と実践、及びその検証

団体名 一般社団法人 楽友協会おきなわ
所在地：沖縄県那覇市
団体 URL：https://gakuyukyoukaiokinawa.jimdosite.com/

事業概要 不登校やひきこもりを経験した子ども・若者たちが、毎月の音楽ワークショップでクラシック音楽家とアンサンブルや創作活動など音楽体験を重ね、2月にその成果を発表します。「音楽の楽しさを届けること」を大切に、プロジェクトの立案・プログラム作りは楽友協会おきなわが行います。様々な理由で生きづらさを抱えた彼らは音楽ワークショップを通してありのままの自分を肯定していく感覚を培い、発表会で仲間と協力して表現活動を行いました。事業は7年目を迎え、子ども・若者たちにとって発表会は大切な「ハレの日」になり、彼らの存在意義を発信する機会となっています。



本事業で実施した内容

音楽ワークショップ

開催日：2024年6月～2025年2月
音楽ワークショップ35回、楽器指導(ギター・ピアノ・ドラム他)20回
場所：那覇市(子どもの居場所kukulu、繁多川公民館)うるま市(あっぷるむ、わーわ田場、らふわく)
対象：不登校やひきこもりを経験した子どもと若者
講師：鶴見幸代(作曲)大城伸悟(ピアノ)喜納響(声楽)平良明子(ピアノ)根間安代(クラリネット)北崎幹大(作曲)

実施内容

居場所ごとに毎月音楽ワークショップを開催し、子どもたちと関係性を築きながら音楽体験を重ねています。今年度は楽器演奏に挑戦する子どもが増えました。

トークイベント:音楽家が子どもとできること vol.2 ~いろいろな「場」といろいろな「アートプログラム」~

開催日：2024年11月18日(月)18:00～20:45
場所：浦添市 アイム・ユニバースてだこホール 市民交流室
対象：音楽家、居場所・子ども食堂運営者、大学教員、公共ホール職員、他
参加人数：会場25名 / オンライン配信40名
登壇者：久保田翠(クリエイティブサポートレッツ)、中西麻友(芸術家と子どもたち)、宮城潤(那覇市若狭公民館)、金城隆一(NPO法人 ちゅらゆい)、大城伸悟・平良明子(楽友協会おきなわ)
[モデレーター] 林立騎(那覇文化芸術劇場なはーと)

実施内容

支援の場にアートが介在することについて、さまざまな意見がありました。クリエイティブサポートレッツの久保田氏と芸術家と子どもたちの中西氏をお迎えしたことで、共生社会そのものを問うた意義深いセッションとなりました。

成果発表会「ゆかいな音楽家と、ときどきひきこもり 2025」

開催日：2025年2月14日(金)18:30～21:00
場所：うるま市 生涯学習・文化振興センター ゆらてく 多目的ホール
対象：音楽ワークショップ参加者
参加人数：出演者97名、スタッフ21名、来場者数116名
入場料：1,000円(高校生以下・ご家族は無料)

実施内容

各居場所での音楽ワークショップを通じて発表意欲が高まりました。好きな楽曲の演奏や友人とのコラボレーション、楽器アンサンブルを披露し、中高生はボディパーカッションに挑戦しました。若者の居場所ではオリジナル曲「らふわくの歌」が初披露され、リハーサルと本番を通して個々の成長が感じられる場となりました。



発表会2025



発表会2025 集合写真

本事業で得られた成果

自分をさらけ出す勇気、他者に巻き込まれる勇気

ワークショップの参加者は小学生から30代ごろまで幅広く、不登校やひきこもりに特有の「ゆらぎ」を抱えながら日々を過ごしています。毎月の音楽ワークショップでは、彼らのやってみたいこと軸にプログラムを組み立てることで「自分の意見を伝えられる場所」と認識され、演奏や歌といった表現活動へのハードルが下がりました。「小さな失敗や成功」を居場所の仲間と共有する中で自己開示に慣れてゆき、音楽体験を重ねていくことで苦手なことも少しずつチャレンジできるようになります。音楽ワークショップと発表会のルーティンが定着し、子ども・若者たちの発表意欲が高まったことから、音楽家がリードしなくても自主的に練習し別の居場所とコラボレーションを計画するなど、自発的な取り組みが多く見られました。他者に巻き込まれる勇気：居場所の子どもが教えてくれた言葉です。自分をさらけ出す勇気が高まっていない時に仲間からの後押しが力となって「巻き込まれる勇気」が生ま

れます。成果発表会ではワークショップに参加していない子どもも仲間の声かけや場の雰囲気の後押しとなって、新たな一歩を踏み出すきっかけとなりました。居場所と家庭の往復の世界に、音楽を通して他者と出会い、発表会を通して仲間と協働する喜びや居場所の連帯感を体験する機会を創出できたと考えます。



音楽ワークショップ



成果発表会 フライヤー 2025

トークイベント「音楽家が子どもとできること Vol.2」 ~いろいろな「場」といろいろな「アートプログラム」~

昨年度に引き続きトークイベントを開催しました。今年はクリエイティブサポートレッツ(浜松)の久保田翠氏と、芸術家と子どもたち(東京)の中西麻友氏を迎え、支援の場でアートプログラムを行う意義について、事例報告とクロストークを行いました。「アーティスト」や「アートの思考」が介在するこ

とで、寛容性・創造性が生まれ、共生社会を目指す本事業の本質について大変意義深いセッションになりました。両氏をお迎えしたことから事業実施団体の生きた情報共有が図られ、両氏からも大変有意義だったと意見があり、実施団体同士の交流が深まりました。



トークイベント Vol.2

事業実施における工夫

ポイント

本事業では子どもたちから学ぶことが多く、私たちは意見を聴く側になってプログラムを構築します。ワークショップでは比較的演奏しやすい楽器(ピアノ・三線・ウクレレ・カリンバ)や簡単な合唱曲などを用意し、少しの頑張りやアンサンブルが上手に行った時に達成感や仲間意識も高まります。曲作りに興味のある参加者がいる場合はワークショップと別の時間を設け、楽曲制作と一緒に考えサポートします。支援職員へのヒアリングは定期的に行うようにし、事業期間中ごろと発表会前など、子どもたちにヒアリングを実施し事業に生かしています。

令和6年度 障害者等による文化芸術活動推進事業事例集

発行日：令和7年3月

発行：文化庁参事官(生活文化創造担当)付共生社会推進担当
〒602- 8959 京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町85番4

編集協力：株式会社ステージ